

て又もヴォオタルウスへ行つて大に悲んだ。enthusiasm 熱心。pilgrim 巡禮。Loretto 伊太利の一市で、Santa casaの神殿がある。耶蘇がマアザン・メリイ及びマヨセフと住んだ處だと云ひ傳へらる。devotion 執着。contemplating 瞑想する。musing 默想する。

## 田 舍 寺

【譯】 “紳士だつて！何だと、米俵でかい？砂糖箱でかい？さもなくば天鷲絨の目錄でかい？封度か、ヤアドかどつちだい…お前達<sup>のい</sup>が紳士の肩書を賣るのはさ？”

—ベツガアス・ブツシユ

註 woolpack 羊毛包。sugar-chest 砂糖の箱。list 目錄、明細書。velvet 天鷲絨即ち反物の意なり。pound 封度我國の百二十匁七分餘、即ち目方の意。yard 碼、我國の三尺一分八厘にて即ちものさしの意。vend 賣る。gentry 身分の輩、紳士社會。全體の意は即ちまああれが紳士だつて、紳士といふものを物さしや目方で賣買するものか。馬鹿馬鹿しいと呆れ返る。

【譯】 人物を研究するには英國の田舍寺程適當な處は少いであらう。余は曾つて數週間或る友人の家で過したことがあつたが、家は寺の附近にあつて、その寺の外観は殊に余の心を動かした。寺は古代の珍らしい遺物の斷片の一つで、英國の風景に特色の美趣を添えるものであつた。由緒ある舊家の澤山ある村の中央<sup>まんなか</sup>に立つて居て、その冷かな靜かな側堂の中には幾多の尊い年代の遺骸が夥しく收めてあつた。内壁は種々な形をした各時代の紀念物で鏤<sup>ちりば</sup>んであつた。窓から射し込む日の光は紋章が懸つて居るのでぼんやり薄暗くなつて、裕かに色硝子



に耀いて居る。寺園の此處彼處には武士や貴夫人の墓があつて、模様のある大理石にそれ等の肖像を刻んだ華やかな細工のものばかりある。何れの方面を見ても大望を持つた人々の實例に眼を驚かさぬはなく、これ寺てふ寺のうちで最も質素な此の寺にあつて、その同胞の枯骨の上に人間てふ矜誇がそゝり立つて居る傲然たる紀念物である。

註 favourable 適當の. character 人物. reside 住む. vicinity 附近. appearance 外觀. morsel 斷片. quaint 奇妙な. antiquity 古物. aisles 側堂. 會堂の通路. congregate 集める. dust 遺骸. interior 内部の. incrust 鑲む. 外装する. monument 紀念物. steam 射し込む. dim ほの暗くなる. armorial bearings 紋章が懸つて居ること. emblazon 耀く. stained glass 色硝子. various parts 種々な方面. 此處彼處. high-born dames 貴夫人. gorgeous 華麗な. workmanship 細工. effigy 肖像. coloured marble 色のついた大理石. the eye was struck 眼を驚かす. instance 實例. aspiring mortality 大望のある人. 傲然たる. erect 高く立つ. kindred dust 自分と同じ人間の枯骨. most humble of all religions 凡ての宗教のうちで一番質素な.

【譯】參集して居る人々の中には或は座席に坐つて居る近傍の貴族達もあつた、座席といふのは華な裏をつけ褥で覆ひ、濃い金鍍金をした祈禱書を備へつけ、さうしてその席の戸口には紋章

が飾つてあつた；或は村の人や百姓共もあつて、後の方の座席やオルガンの側の小さな廊下に溢れて居た；或は又寺領内の貧民ども、あつて、通廊の椅子に並んで居た。

註 congregation 集合. compose 組立つ. people of rank 高位の人々. 貴族. pew 坐席. sumptuously 華やかに. line 縁なする. cushion 褥をつける. furnish 備へつける. gilded 金鍍金した. prayer book 祈禱書. decorate 飾る. arms 紋章. peasantry 百姓. gallery 廊下. parish 教會の区域内. 寺領内. range 並ぶ. aisles 通廊.

【譯】禮拜式は鼻聲のよく肥つた牧師に依つて行はれた、牧師は寺の近傍の小綺麗な家を持つて居た。彼は近所に御馳走がある度にいつも特待客となり、村では一番敏捷な狐狩の名人であつたが、年が老いたのと贅澤三味に耽つたのとで、近來は馬に乗つて獵犬を驅るのを見物し、さうしてその獵物の御馳走に預るより外何も出来なくなつた。

註 service 禮拜式. perform 爲す. snuffing 鼻聲の. well-fed よく肥つた. 牧師でありながら、難行苦行などの態はなくテブテブと肥つた俗僧に過ぎぬといふ意. vicar 牧師. snug 小綺麗な. dwelling 家. priviledge 特典ある. 特待される. tables 食事. 御馳走. keenest 最も伶俐な. fox-hunter 狐狩. 牧師でありながら狐狩などするのは是れ



その趣味の低く卑しいことを表す。age 年。good living 贅澤な生活。disable 出来なくなる。hound 獵夫。make one 一員となる仲間入する。

【譯】斯様な牧師の祈禱を聞いたとて、余は恚ういふ時と場所に適當したやうな念を起すことは逆も出来ぬと思つた；それで幾多の他の薄弱な基督教徒の如く、自分の良心と腹を合せて、自分自らの懈怠をばお門の違つたところに向け、自分の隣の人を觀察することに従事して居つた。

註 ministry 職務。pastor 牧師。train of thought 連続した考。suitable 適當な。feeble 信仰の弱きを指す。having compromised with と和解する、腹を合せて。conscience 良心。delinquency 懈怠即ち禮拜の怠りをさす。lay at another person's threshold 他人の戸口に置く即ちお門ちがひの所に向ける。occupy myself 従事する。observation 觀察。

【譯】余は英國にはまだ通じて居ないので、上流社會の風習を觀察することに氣を引かれて居た。例によりて尊敬すべき最も立派な稱號のある處に虚飾の最も少きことを發見した。例へば余が殊の外感動したのは、澤山の息子や娘が居る一貴族の家庭であつた。此の家族の風采ほど質素で高振らないものはない、通例手輕な馬車に乗つて寺へ來時には徒歩かちで來ることもあ

つた。その若い姫達は屢々立ち留つて極めて親切に農夫に談はなしかけ、子供を撫で、賤しい小屋に入つて其等の物語に耳を傾けた。その容貌は晴々として美しく、様子が優美で上品であると同時に氣さくな樂しさと、人懐つこい愛嬌があつた。又その若君達の方は脊の高い、上品な姿であつた。流行の衣服を着けては居るが、極めて質素で、又きちんとかくかう恰好よく體に合つて、いやに氣取りもせず又めかしもしない。その態度は全體にゆつたりとして自然であつて、且つ氣高い優美と尊い淡白とを備へて、大きくなるまで未だ曾て他より劣つて居ると氣が引けたこともない程に自由の身に生れた精神を示して居る。眞の威嚴のうちにも、確固とした勇敢な處があつて、如何に下賤のものと交つても、之に染まり之に化せられる虞れはないのである。彼の病的で感覺が強く、些細なことに觸れても萎縮するやうな者は、それ賈の豪華である。余はこれ等の貴族の子女達が英國の紳士連が好む耕作や遊獵に就いて、百姓共と打ち語らう態度を見て誠に嬉しかつた。彼等の談話を見るに、貴族の方には聊かも尊大の風なく、又百姓の



方にも決して卑屈な様にも見えず、さうして唯百姓の方が習慣的に丁寧なので、やうやく兩者の身分の高下を察せられる位であつた。

註 stranger 見なれない人、能く通じて居ない人。 fashionable classes 上流社會。 least pretention 最少の虚飾即ち一番虚飾の念が少いこと。 acknowledged 人も認めて居る。 title 官職爵位等の稱號—即ちえらい人ほど虚飾をせぬ意。 respect 尊敬する。 for instance 例へば。 unassuming 謙遜なる。 plaine t equipage 手輕な馬車。 on foot 徒歩で。 caress 撫でさする。 cottage 小屋。 expression 様子。 high refinement 高尚な優美。 frank 氣さくな、心おきない。 engaging 愛嬌のある。 affability 愛想。 elegantly 優美に。 fashionably 流行に。 simply 質素。 strict きつちりと。 neatness 恰好のよい。 propriety 適合。 mannerism 氣取ること。 foppishness めかすこと、豪華。 demeanour 態度。 frankness 淡白。 bespeak 示す。 freeborn 自由の身に生れた。 check 非難する。 in their growth 生長のうちに。 feeling of inferiority 他より劣つて居ると感ずること。 hardiness 勇敢。 dignity 威嚴。 contact 接觸。 communion 合同、一致。 spurious 贋の。 morbid 病的の。 sensitive 感じの強いこと。 shrink 萎縮する。 touch 接觸。 rural concern 田園の事柄、耕作の意。 field-sport 野邊の遊戯、狩獵などをさす。 gentlemen of this country 英國の紳士が田園の耕作や遊戯を好むことは“英國の田園”の所にも説いてあつた。 haughtiness 尊大。 on the one part 貴族の方で。 servility 卑屈。 on the other 百姓の方で。 remind 認める、察する。 habitual respect 習慣的に丁寧にして人を敬ふこと。

【譯】之と正反對に巨萬の富を重ねた長者の家族

があつた；此の近傍で零落した一貴族から地所と邸宅とを買ひ、此の土地の代々の領主が持つて居た凡ての格式と威光とを求めようと努めて居た。彼等は常に國君のやうに裝つて寺へ來た。堂々として紋章で飾つた馬車を轉ばした。出来るだけ冠毛をつけた馬具の各部からは其の冠毛が銀色の光を放つて輝いた。一人の肥つた御者が、美しく紐で際つた三角帽を被り、赭ら顔のあたりに縮れて居る麻製の鬘をつけて御者臺に座を占め、傍らには毛の滑かなデンマアク種の犬を置いて居た。二人の馬丁は華美な法被を着、大きな花束と金の頭のついた杖を持つて後の方に凭れて居た。馬車は其の長い彈金のために上つたり下つたりして、如何にも嚴めしく動いて居た。その馬すらその轡を嚼み、首を昂め、並の馬よりも一層誇りかにその眼を輝かして居た：これはその家族の振舞にかぶれたのか、又は通常よりも強く手綱を緊めたのであらう。

註 amass 積む。 vast fortune 澤山の財産。 purchase 買ふ。 estate 地所。 mansion 邸宅。 ruined noble man 零落した貴族。 assume 求める。 style 格式。 dignity 威光。 hereditary 代々の。 lord 領主。 soil 土地。 en prince 國君のやうに、 princely に同



じ. roll 轉ばす. majestically 堂々と. curriags 馬車. emblazoned 飾つた. arms 紋章. crest 冠毛. glitter 輝く. radiance 光. harness 馬具. crest 冠毛. fat coachman 肥つた御者. three-cornered hat 三角帽. laced 紐で膝つた. flaxen 麻の. wig 鬘. curling 捲いて居る. rosy face 赭ら顔. sleek 毛並のなだらかな. Danish dog テンマアク種. for-man 馬丁. gorgeous 華美な. liveries 法被. huge bouquet 大きな花束. loll 凭る. spring 彈金. stateliness 威嚴. champ 嘔む. bit 轡. arch 弓状にする. caught a little of the family feeling 家族の傲慢な心にかぶれて威張るのか. これは其の御し方のあまりに激しいので馬が威張るやうに見えるから斯く洒落れたのである. 馬の心が驕つて居るのではない. rein 手綱を引く. tightly 堅く. ordinary 普通.

【譯】此の立派な山車<sup>だんじり</sup>が寺の門に着いた時の有様こそ眼を驚かさぬ譯には行かなかつた. 石<sup>いしがき</sup>牆の角を曲るや——鞭の音高く響き、馬は踏張つたり這ひ上つたりし、馬具は輝き、砂利を通る車輪閃めきなどして實に業々しい位であつた. 此の時こそ御者に取つて鼻が高い虚榮の刹那であつた. 馬は迫きたてられたり引き止められたりするるので、終に泡を吹いて怒り出した. 一馳一驅小石を蹴散らしつゝ、傲然跳躍して進んで行つた. 寺をさして靜かにぶらぶら歩いて居る村人の群は遽かに驚いて右と左に開いて、呆然<sup>ほんやり</sup>驚嘆して口を開いて居る. 門に達する

や、馬は直ぐ止めるやうに突然引き締められるから彼等は大方腎餅をついた.

註 admire 目を驚かす. pageant 山車. There was a vast effect produced 業々しかつた. angle of the wall 石牆の角. smacking 鞭の音. whip 鞭. strain 引張る. scrambling 這上る. glistening 輝き. harness 馬具. flashing 閃き. wheel 車輪. gravel 砂利. triumph 勝利. 鼻が高い. vain glory 下らぬ光榮. urge 迫きたてる. check 引き止める. fretted into a foam 泡を吹いて怒り出した. prancing trot 跳ね跳ね勿體ぶつた早足. pebbles 小石. sauntering ぶらぶら歩く. precipitately あわてゝ. gaping 口を開けて. vacant ぼんやりした. admiration 驚嘆. immediate stop 直ちに止める. hauches 腰部.

【譯】此の時馬丁は非常に忙しさうに、飛び下り、足臺を降ろし、さうして尊い方々が天下る爲の萬端の用意をした. 最初其の老商人が戸の外にその圓い顔を現はして、恰も取引所で勢力を有つて居て、一叩首を以て株式市場を動かすといふやうな人の尊大な態度で四邊<sup>あたり</sup>を見廻した. 續いてその夫人が出て來たが、美しい肥つた心地のよい婦人であつた. 有體に云へば夫人の容姿には何等傲慢の風がなかつた. 夫人はちつとも物にかまはない、正直な、俗事に満足するといふ世話女房の標本とも云つてもよい. 既に世渡の道には何不自由なく；夫人は唯世



の中が好きであつた。美しい着物、美しい家、美しい馬車、美しい子供、萬事萬物、夫人には美しい物揃であつた。馬車に乗つたり、人を訪問したり、又宴會を催したりするより何も外のことはなかつた。夫人に取つては生活といふことは全く絶間のない宴樂で、丁度一つの長い倫敦市長の新任披露日のやうであつた。

註 extraordinary 法外の. alight 降りる. pull down the steps 足臺を降ろす. descent on earth 地上に降る. 神などが天から降るに用ひる語である. august 尊い. citizen 商人. emerge 現す. pompous air 尊大な態度. rule 支配する. 権力を持つて居る. 'Change 取引所, Exchange に同じ. Stock Market 株式市場. nod 叩首. consort <sup>つれあひ</sup> 配偶者. 夫或は妻. こゝでは夫人をさす. fleshy 肥つた. comfortably 心地よい. dame 婦人. composition 容姿. picture 繪. broad 何事にもかまはない. vulgar 凡俗の. The world went well with her 身の上に仕合が来る. feasting 宴會. perpetual revel 永久の宴樂. Lord Mayor's Day 十一月九日、ロンドン市長の新任披露の日である. Lord Mayor とはロンドン市長を指すので、貴族でないものにも Lord といふ稱號をつけるのである。

【譯】二人の娘が此の夫婦に續いて出て來た。二人は美しいには違ひないが、傲慢な風があつて、賞めようとも賞める氣にもなれず、見る人をして却て彼を批評させるやうになる。衣服は流行の粹を盡したもので、誰も裝飾の美しいこ

とを拒むことは出来ぬが、斯様な質素な田舎には適當するや否はちつと考へ物である。揚々と馬車から降り、百姓の列の前を一步一步氣取りながら進んで行つた。彼等は漫然と四邊を見廻した、百姓どもの無骨な顔には少しも頓着する様もなかつたが、かの貴族の家族と眼を合すや百姓どもの顔は直ちに笑み輝き、そして極めて丁寧しとやかに閑雅な會釋をした、然し一方では唯ほんの一面識に過ぎぬといふやうな風で答禮した。

註 succeed 續く. couple 夫婦. handsome 美し. supercilious 傲慢な. chilled admiration 賞歎の心も冷えて了ふ、賞めたくても賞められぬ. dispose 向く. spectator 見物人. critical 批評的、賞めるかばりに彼を善惡を批評する. ultra-fashionable 極端な流行. decoration 裝飾. appropriateness 適當. simplicity 質素. loftily 揚々と. line of peasantry 農夫の列. dainty of the soil 自分が踏む地面に對してわる氣取つて様子振ること. trod on 踏み進む. cast an excursive glance 漫然たる眺めを投げた、四邊を見廻した. passed coldly 冷かに過ぐ、別に氣にも取めぬ. burly face 無骨な顔. countenance 容貌. profound 丁寧な. elegant しとやかな. courtesies 會釋. slight acquaintance 面識。

【譯】この成り上り商人の二人の悴に就いても忘れてはならぬことがある、彼等は勇しい二頭立の馬車に乗り、馬丁をつれて寺へやつて來た。



流行の粹を盡して着飾つて居るが、その衣服について見識振つて居る様子は時風<sup>はやり</sup>については全く如何はしい見せかけの人に過ぎぬといふことを示して居る。二人は全く他の人々と混らず、自分に近寄るものをば一々尻目にかけて、その身分の高下を評價するやうであつた；それでも唯時々一語二語言葉をかはす外、何事も喋らなかつた。彼等はわざとらしく動いて居るが；當時の移易い流行を追つて身の安逸と自由とを無理にも抑制しようとして居るのである。斯く外部の技巧は當世の紳士たる資格を十分に備へて居るが、唯一種口にいふべからざる美德といふことが彼等に缺けて居るのである。その容貌は下等な職業に従事する人々のやうに極めて下品で、その傲慢不遜な態度は眞の紳士には逆も見られぬ處であつた。

註 aspiring citizen 成上り商人. dashing curricule 勇しい二頭立の馬車. outrider 馬丁. array 着飾る. extremity of the mode 流行の粹. extremity は極端. pedantry 見識振ること. questionable 如何はしい. pretension 見せ掛け. kept entirely by themselves 全く他人と混らずにかけ離れて居ること. askance 尻目. measuring 計る. claim 権利. respectability 貫目, 尊嚴. exchange 言をかはす. cast 投げる. artificially 人工的に; わざとらしく. in compliance with 従つて, 應じて.

the caprice of the day 當時の遷易い流行. discipline into the absence 強いて抑制しようとする. vulgarly 下品に. the common purposes of life 世渡りの俗事, 下等な職業. supercilious assumption 傲慢不遜.

【譯】余が此の二つの家族を描くの精細に過ぎたといふのは、余は此の家族をば英國に於て往々見る所の——謙遜な貴族と傲慢な賤民との標本だと思つたからである。その精神に眞の高尙といふことが伴はなければ余は爵位に對して何等の尊敬をも持つて居らぬのである；然しながら余が觀察する處に依ると、此等の入爵の區別のある國では、凡てその一番高い階級の人々は、常に極めて親切で又決して高振らない。自分の身分をよく知つて居る者は毫しも他人の位置を凌がうとはしない；然るに他人を下目に見て、自分で高く留まらうとする下品な成上者程氣障なものはない。

註 minute 精細な. specimens 標本. unpretending great 謙遜な貴族. arrogant little 傲慢な下民. title rank 爵位. remark 觀察する. artificial distinction 貴族平民の區別. exist 存する. courteous 親切. unassuming 高振らぬ. their own standing 自分の位置. trespass on 凌ぐ. whereas 然るに. offensive 氣障. aspiring of vulgarity 下品な成上者. elevate 高める. humiliating 見下す.

【譯】余は斯く此二家族を對照した以上は、寺に於



ける彼等の舉動をも觀察せねばならぬ。かの貴族の一家では靜肅に眞面目に説教に耳を傾けて居た。もとより彼等は熱心な信仰があるものとは見えぬが；唯斯様な神聖な事柄と斯様な神聖な場所とに對して謹慎して居るのは、全く是れ善良な教育を受けた者には常に離れぬ態度である。之に反して一方の家族は絶えず動搖めき、絶えず囁いて；自らの美服を誇る念慮と、田舎の會堂で人目を驚かさうといふ憐むべき野心を始終表はして居た。

註 behaviour 舉動. fervour 熱心. devotion 信仰. sacred things 神聖な事柄. inseparable 離るべからざる. breeding 教育. flutter 動搖する. whisper 囁く. betray 表す. continual consciousness of finery 美服を誇りたいといふ不斷の念慮. sorry ambition あさましい野心. wonders 人の眼を驚かす物. congregation 衆合, 會堂.

【譯】かの老紳士のみは眞に説教に耳を傾けて居た。彼は家内中の信仰を我が身に引き受けて、棒のやうに直立し、寺に響き渡るやうな大きな聲で祈禱の文句を唱へて居た。彼は確かに國教徒の一人で、信仰の名と忠誠の念とを結びつけ；憲政黨の所謂神と宗教とは“實は結構なもので、須らく賛翼し且つ依持すべきもの”だと思つて居る一人である。

註 service 祈禱. whole burden 凡ての重荷. bolt 門. upright 眞直に. uttering 唱へる. responses 僧侶の祈禱に應じて群衆の返唱する文句. Church and King men 宗教と政治とを混じて、神と君主とを合體して一樣に尊信する人々をさす. loyalty 忠誠. Deity 神. somehow or other 何うかかうか. Government party 憲政黨. excellent 結構な. countenance 賛翼する。

【譯】彼が斯く聲高に祈禱にかゝつて下級の人民共の模範となり、自分のやうな富貴な身分のもので、尙且宗教には従はねばならぬといふことを示さうとするものゝ如く思はれた；或る美食せる市吏が、大びらに施與のスوپを啜つて、一口づゝその唇を嘗めながら、これは貧乏人には誠に結構な食物であると言ひ聞かせて居たのを見たことがあるが、この商人も丁度それに似て居た。

註 turtle-fed 甘いものを食つてゐる. alderman 市參事會員, 市吏. publicly 大びらに. basin 盆, 鉢. charity-soup 貧民に施すスوپ. smacking 嘗める. pronouncing 公言する. excellent 此上もなき。

【譯】祈禱も終つた時に余は再び好奇心を以てこの二家族の寺を出て行くのを見て居た。かの貴族の若殿の姫君達は天氣が晴れ渡つて居るので、野邊をぶらぶら歩いて、田舎の人達と道々心地よげに話しながら歸つて行つた。一方の



商人の方は来た時と同じく観兵式のやうな様  
 が出て行つた。又もや馬車は門をさしてきし  
 つて行つた。再び鞭が響き、馬蹄が轟き、馬具の  
 閃いた馬は一足飛びに馳せ出づれば、村の人等  
 は再びあはて、右に左に避け、車輪は塵の雲を  
 捲きあげ、斯くして成上者の家族は丁度疾風の  
 如く影を没し去つた。

註 exist 去る. groups 群. strolling ぶらぶら歩く. chatting  
 話す. parade 観兵. equipages 馬車. wheel up きしる. smack-  
 ing of whip 鞭の音. clattering of hoof 蹄の轟. glittering of  
 harness 馬具の閃き. at a bound 一足飛び. rapt out of the  
 sight 影を没し去る. whirlwind 旋風.

## 寡婦とその子

【譯】“年寄を憐んだがよい、その白銀の髪の中には名譽と  
 尊敬とが絶えず雨のやうに降つて居る。”

マアロウ作 “タムバアレエン”

前に述べたやうな事柄をいつも注意して居る  
 人には日曜日に英國の山野が極めて静まり返る  
 のを知つて居るに違ひない。ぱちぱちといふ水  
 車の聲、規則正しく打つ連枷からぎはの音、鍛冶屋の槌の響、  
 農夫の口笛、荷馬車の轆しきり等、凡そ田舎の労働の物音  
 は全く止んでしまふ。野に居る犬すら旅客に驚  
 かされることは少いので、吠えることは滅多にな  
 い。斯様な時は吹く風さへも静まると見えて、日  
 あたりのよい山野は新緑の色をば青い霧のうち  
 に溶かして、有り難い静けさを娛しむかとも思は  
 れる。

“清く静かに、又はなやかに、  
 天と地とが縁マエシを結ぶ楽しい日。”

註 pittie 憐む. reverence 尊敬. Marlowe (1564—1593) 七種の劇曲  
 を作つた人で Tamburlain といふのはその一種である。  
 又叙情詩をも作つた。  
 in habit of remarking such matters 斯様な事柄をいつも注意  
 して居る。前章に續いて草したのであるから such mat-



tersと受けたので、田舎寺の事などをいつも注意して居る人々はといふ意である。clacking ばちといふ音。regularly 規則正しく。recurring 時を定めて起る。stroke 打つ音 bail 連枷、からざは 稲や麥の穂のくろり 籾をこいだあとにて撃つ道具である。竿のさきにくろり 樞といふものがあつてそれに更に竿をつけ、さうしてそれを廻して打つのである din 鳴響。black-smith 鍛冶屋。hammer 槌。whistling 口笛。ploughman 農夫。rattling がたがたと馬車の驅ける音。cart 二輪馬車。rural labour 田舎の労働、即ち農事なり工事なりをいふ。suspend 休止する。disturb 妨ぐ、騒ぐ。tint 色。melting 溶けて。haze 霧。hallowed 神聖なる、有り難い。calm 静けさ。bridal 結婚。

【譯】祈禱の日をば安息日としたのは中々うまく定めたことである。自然の表面に現れた神聖なる静けさは道德的影響を有して居る；平生休むこともない人情もうつとりと静まり、さうして吾人は吾人の胸に柔かに芽ざして居る先天的の宗教心を感ずる。余も亦田舎寺へ行けば他所では決して起らない自然の美しき静けさのうちに一種の感情が起つて來るのを覺える。さうして例令たとひ信仰心が加はつて來るといふ程でなくとも、余は日曜日に於ては他の六日間よりも何となく善人になつたやうな氣持がする。

註 ordain 定める。devotion 祈禱。repose 平靜。reign over 支配

する。moral influence 道德的影響。下に述べる、日曜日には善人になつたやうな氣持がするといふことをさす。restless passion 休まざる人情。charm down うつとりと静まる。natural religion 生れつき持つて居る宗教心。springing up 起る。serenity 静けさ。a more religious 信仰心が加はつて來る。

【譯】此の頃余は田舎に住んで居たが、その間屢々村の古寺へ詣で、居た。その蔭深い通路、その崩れかゝつた石碑、その暗い檜の天井など何れも古色蒼然として神々しく、神聖なる默想に耽けるによき適はしい處と思はれる；唯その附近には富貴の人々が多いので、溜々たる俗流が此の聖殿までもしみ込んで、余は周圍の區々たる蛆蟲むしどもの冷淡にして華奢なのを見ると絶えず現俗界に引き落されるやうな心地がする。唯此等の群衆のうちに眞に謙遜にして敬虔なる信念を抱いて居るもの、やうに見ゆるは、あはれな瘦せ衰へた老婆であつて、積る年の齡と病とのために腰も曲つて居た。何となく下賤な貧者とも思はれぬ面影がある。貞節な品格の名残はその態まに現はれて居る。その衣服は非常にみづいみづいがきちんと綺麗にしてある。老婆から尊敬を受けて居るのは



村の貧乏人の中に坐はらないで獨り祭壇きざしの階の上に座はつて居るのを見ても分る。凡ての骨肉にも凡ての友人にも又その時世にも後れて生残り今は只天國へ行くより外何の望も持つて居ない。老婆は力なげに立ち上つてその老體を傾けて祈りを捧げ、その間は何時も祈禱書を見つめて居るが、手が痺れ眼が霞んで居るので到底讀むとも出来ない、然し確かにそれをば暗誦して居るのである、憊ういふ有様を見るにつけては、余は此の哀れな婦人の顫聲ふるまは僧の唱和やオルガンの抑揚や或は唱歌の吟誦よりも眞先きに天國へ届くとであらうと思つて居る。

recent residence 近頃住んで居た. aisles 教會の通路.  
 mouldering 崩れかゝつた. monuments 石碑. oaken 樫の木  
 panelling 鏡板 線板. revere 尊敬する. the gloom of departed years 年代を経て居るので何となく打ち洗んだ色、古色蒼然 haunt 場所. solemn meditation 神聖なる冥想.  
 aristocratic 貴族の. glitter of fashion 燦爛たる流行の光.  
 penetrate 侵入する. sanctuary 聖殿. thrown back upon the world 天國までも昇らうといふやうな清い感情を俗物のために再び俗界に投げ下げられる心地がする.  
 frugidity 冷淡. pomp 華奢. worms 蛆. ing 人物. congregation 群衆. prostrate ひれ伏す. 其の念が強いこと. piety 敬虔. decrept 衰弱. years 年が積み重なる. infirmities 病. trace 面. poverty

貧乏人. lingering 躊躇する. 名残. decent 貞操な. visible 見ゆる. in the extreme 非常に. scrupulously 注意して. trival 少々. respect 尊敬. award 許す. 審判する. altar 祭壇. survive 生残る. all love 凡ての骨肉. 親. 兄弟. 配偶者をさす. feebly 弱々しく. conning 注視する. plaiied 痺れた. failing 朦朧として居る. knew by heart 暗誦する. persuade 説伏する. 確かに斯うだと思ふ. faltering voice 顫聲. response: 唱和. clerk 僧. swell 音樂の抑揚. chanting 吟誦. choir 唱歌.

【譯】余は田舎の寺のあたりを徘徊するのが好きであるが、わけてもこの寺は丁度よい位置にあるので、余は屢々此處へ杖を曳いた。寺は丘の頂にあつて、一條の小川が綺麗にその丘をめぐつて、末は近く靜かな牧場の景色の中をうねつて行つて居る。年代が丁度同じ位の水松の古木いちひが寺の周圍を蔽うて居る。その間からはゴシック風の尖塔が少しばかり突出して、その周りにはいつも鴉が飛びかはして居る。余は或る靜かな麗かな朝うら其處に坐つて居たが、ふと二人の勞働者が頻りに墓を掘つて居るのを認めた。其處は墓場の一番かけ離れた人も寄りつかぬ片隅であるが、附近には名も知れぬ墓が多いのを見れば、こは貧困で友達もない者どもが雜葬される處らしい。聞いて見るとこの新し



い墓はある哀れな寡婦の一人息子のために造られたものだとか。余は現世の身分の高下が斯様に死骸その物にまでつき纏ふものであるかと深く思に沈んで居た折しも、鐘の音が響き渡つて葬列の近づいて来るのを告げた。それは實に粗末な貧乏人の葬式であつた。棺は粗造な露出のまゝで、<sup>むきたし</sup>柩衣も何の覆もかけずに二三日の村人が擔いで居るのである。その先頭には寺男が極めて冷淡な、何も氣に止めないやうな顔して歩いて行つた。烈しき悲の裝飾即ち葬列の中には一人も悲を装うた會葬者はなかつた、之に反して唯茲に一人の眞の會葬者があつて力なげに死骸の後にとぼとぼとついて行つた。こは即ち死んだ人の老母であつて、余がかの祭壇に腰かけて居るのを見たかの哀れな老婆であつたのである。老婆は一人の卑しい友に手を引かれて居たが、その友は何かと老婆を慰めようと努めて居た。又近傍の二三の貧乏人も列に加はり、村の子供等は手に手を取つて駈けて来て、何の分別もなくうち興じてわいわい騒ぎ、さうして立ち止つてその會葬の悲しげな顔をばあどけなく不思議さうに眺めて居た。

註 loitering about 徘徊する. delightfully 適好に. situate 置く. knoll 丘. beautiful bend 美しい曲折. wound うれぬ. wind の過去である. reach 區域. meadow 牧場. yew-tree 水松の木. co-eval 同年. spire 尖塔. lightly 少し. rooks 白嘴鴉. wheeling 飛びかばす. remote 離れた. neglected 人の寄りつかない. indigent 貧乏な. huddle into the earth 雜葬する. distinction of worldly rank 現世に於ける貴賤高下の區別. dust 死骸. toll 鐘聲. funeral 葬式. obsequies 葬式. poverty 貧乏人. coffin 棺. plainest 最も粗末なる. material 材料. pall 柩衣. borne 擔がれる. bear の過去分詞. sexton 寺男. indifference 氣にもかけぬ. mock mourners 雇入れの會葬者にて悲をよそうて居るもの. 前章“田舎寺”の中にも説いてある. trappings 裝飾. affected woe 激動した悲哀. totter よろめく. corpse 死骸. aged mother 老母. deceased 死人. altar 祭壇. support さゝへる. 手を引かける. comfort 慰める. unthinking 無分別な. mirth 歡樂. 打ち興すること. pausing 止まる. the mourner 會葬者. 老母をさす.

【譯】葬式の行列が墓場に近づいた時に、坊さんは寺の玄関から出て来た、白袈裟に身を装ひ、祈禱書を手にし、一人の役僧を伴つて居た。然しながらその祈禱は單に慈善的に執行されるものであつた。死んだ人も極めて貧乏であつて又生残つた老婆も一文の金もなかつた。それ故式は唯氣乗りのせぬ冷かな形式ばかりに濟まされた。例の能く肥つた坊主は寺の戸際から二三步動いたばかりで；その聲は墓場へは殆



んど聞えなかつた；余は崇高にしつ悲壯なるべきこの葬儀が斯様な冷かな道化じみた語ですまされたのを未だ曾て聞いたとはなかつた。

註 parson 僧. issue 出る. porch 玄関. array 身を装ふ. surplice 白袈裟. attend 伴ふ. clerk 役僧 service 祈禱. act of charity 慈善の執行. destitute 貧乏. survivor 遺族. 老母をさす. penniless 無一文. shuffled through 一通りざつと胡亂化して済ますこと. shuffle とはごちやごちやと區別のつかぬこと. unfeelingly 氣乗りのせぬ. priest 僧. sublime 嵩高なる. touching 悲壯なる. ceremony 儀式. turn into 變はる. frigid 冷かな. mummery 道化.

【譯】余は墓場へ近づいた。棺は地上に置かれた。その上には“ジョオジ・ソオマアス享年二十六歳”と死人の名と年とが書いてあつた。哀れな母は人手に助けられて死人の頭の方に跪いた。祈禱をしようとしてかその鞆寄つた手を合せて居るが、その體がふらふらと揺れ、その唇が、ふるふると震へて居るのを見ても、母親たる堪え難い哀傷の心もて我が子の遺骸を眺めて居るのが分る。

註 inscribe 書く. aged 26 years 享年二十六歳. assist 人手に助けらる. kneel 跪く. wither 衰へた. 萎れた. clasp しかと握る. percieve 思ふ. rocking 揺れる. convulsive 震へる. relics 遺骸. yearning 哀傷.

【譯】棺を地中に埋める仕度にとりかゝつた。悲

と愛との感情を荒々しく破るさはがしき音、商賣氣質らか出る指圖、砂や砂利にさはる鋤の音などがあつた；此最後の音は吾等の愛するもの、墓場に於て有ゆる音響の中にて最も人の心を畏縮せしむるものである。此の四邊の雜沓のために老母は果敢なき沈思から呼び起されたやうであつた。涙できらめく眼をあけて、惶しく而も力なげに見廻した。その人達は棺をば墓の中へ降ろさうと綱をば持つて近づくと、老母は自分の兩手を振つて、わつとばかり哀傷の涙に暮れた。側へに介抱して居た例の哀れな一婦人は老母の腕を取り、地から抱き起し、さうして何か氣休めらしいことをば頻りに囁いた—“これさ—これさ—そんなにお嘆きなさんな”。けれども老母は唯頭を振り手を振るばかりで、少しも慰められなかつた。

註 deposit 降ろす. bustling stir 騒々しい雜沓. harshly 粗く. direction 指圖. the cold tones of business 冷淡な商賣氣質の調子. the striking spade 鋤のさはる音. gravel 砂利. withering 衰へしむるもの. 縮ましむるもの. bustle 雜沓. wretched reverie 果敢ない沈思. glazed eyes 涙でひかる眼. faint wildness 惶しく而かも力なげに. cord 綱. wrung 手と手とをねぢる. agony 苦悶. consolation 慰藉. Nay, now これさ. dont take it .... そんなに心を傷めるな. comfort 慰める.



【譯】遺骸を墓の中へ降ろすや、綱の軋る音が又も老母の胸をば苦めた；處がふと棺桶が何かに衝き當ると、あなやとばかり老母はやさしい心根を傷めた；人間の苦痛の外にある我が子の身に何ぞ傷害でも起つたのではないかと危んだのらしい。

註 creaking 軋る音. agonise 悲ます. accidental obstruction 突然障害物があること. justling 衝きあたる. to him 死んだ我が子をさす. beyond the reach of human suffering 人間の苦痛の外にある. 死んで居るため體が痛くも何もない。

【譯】余は最早見るに忍びなかつた——胸が一杯になり——眼は涙で滿ち——恁うして側に立つて、用もないのに此の慈母の悲む様を見て居るのは、何となく慘忍な悪事でもして居るやうに思はれた。それで余は墓場のかけ離れた方へ赴いて、此處で會葬者の悉く立ち去るのを待つて居た。

註 my heart swelled into my throat 心臓が喉まで脹れた、胸が一杯になつた. acting a barbarous part 慘酷なことを働く. standing by 側に立つて居る. idly 用もないのにぶらりと. maternal anguish 慈母の苦痛. disperse 散する。

【譯】余は老母が此の世に唯一人の可愛いものゝ遺骸を後にして、靜かに悲しげに墓場を去つて

# 欠



近所にはあんな綺麗な子は一人も居なかつた  
んですからね、母親の自慢者だつたんですよ。”

註 deceased 記者. reside 住む. inhabitant 住む. neatest 綺麗な. rural occupation 田舎の職業. 農作. assistance 取り上り物. creditably 人から賞められて. comfortably 愉快地. blameless 恥しくない. staff 杖. comely 綺麗な. dutiful 盡す. did one's heart good 人に氣持よく思はす. cheery 楽しさうに. supporting 支へて. leaning もたれる. good man 夫. in the country around 近所に.

【譯】不幸にも農作が取れない或る饑饉年に、息子<sup>むすこ</sup>は近所の川を上り下する小さな船に雇はれることゝなつた。かくて幾程もなく水兵の強募隊に捕られて、海へつれて行かれた。親達は彼の捕へられた報知は受けたけれども、それ以上には何も知ることが出来なかつた。こは誠に彼等の大黒柱を失つたのである。既に病身の父親は益々元氣が衰へ打ち沈み勝ちになり、遂に墓場の土となつた。今や老衰の身を以て獨り取り残された此の寡婦は、最早自分で生活<sup>くら</sup>することが出来なくて教會の教徒となつたのである。けれども猶村の人々からは温情を受け、さうして古老の住民の一人として多少の尊敬を受けた。今迄幸福に住み慣れた家も外に求めるものもないので、それに留まり住むことを許

# 欠



されたが、ほんの誰れも助けて呉れる者もなく  
 孤獨ひとりぼっちで生活した。衣食住かての資は主に自分の小  
 さな島より取り上る僅かばかりの物で充て、  
 居たが、これは近所の人々が時折来て耕して呉  
 れたのである。斯くて今から数日前のこと、老  
 母は自分の食事にとて菜を摘んで居た折しも  
 島に面した家の戸が俄かに開くのが聞えた、と  
 見ると一人の見馴れぬ人が入つて来て頻りに  
 きよときよとして四邊あたりを見廻して居た。身に  
 は水兵の服を着け、瘦せてもの凄**い**ばかりに蒼  
 ざめて、病と苦勞とで寒れ果てたといふ風であ  
 った。老婆を見るや、急いで走り寄つたが、其の  
 足元が、ひよろひよろして如何にも力なかつた。  
 さうして老婆の前に打ち倒れて赤兒のやうに  
 咽び入つた。哀れな老婆は何の事かさつぱり  
 分らず、うろろと氣が抜けたやうな眼つきで  
 見入つた。“オ、なつかしいお母さん！ お母  
 さんは我が子が分らないんですか？ 此のヂョ  
 オヂの顔が分らないんですか？” 此は實に一  
 度は立派な若者であつた我子の成れの果て、  
 負傷てきずと病と外國に禁錮されたのとて、見る影も  
 なく寒れ果て、せめては我が幼時を過した故

郷の土に横たはらうとて、はるばると家路をさ  
 してそのなやんだ足をば曳きすて來たのであ  
 る。

註 tempt 試みた. scarcity 饑饉. agricultural hardship 農作の取  
 れない. craft 船. plied 上下した. entrap 徴収する. pressgang  
 水兵の強募隊. 軍艦で人員が不足な時、手當り次第に  
 先方の承諾不承諾を問はず徴發するために派遣され  
 る一隊である. tidings 報知. seizure 捕へられること. main  
 prop 大黒柱. infirm 病身. heartless 元氣が衰へる. feebleness  
 かよわいこと. parish 教會の教徒. inhabitant 住民. apply  
 適當する. solitary 獨り淋しく. want of nature 自然の要求  
 とは衣食住のこと、こゝでは主として食事をさす. scanty  
 僅かばかりの. production 産物. now and then 時々. cultivate  
 耕す. gathering 摘み集める. vegetable 菜. repast 食事. eagerly  
 熱心に. emaciate 瘦せる. ghastly 凄く. the air of on broken  
 やつれ果てた様. hardship 困難. faint 力なく. faltering  
 よろめく. sank on his knees 膝つく. sob すゝりなく. vacant  
 氣拔したやうな. wandering うろたへる. wreck なれの果.  
 shatter やつれ果てる. 毀れる. drag 曳する. wasted 憊ん  
 だ. limbs 足. repose 横はる.

【譯】嬉しさと悲しさとが全く相混じた此の對面  
 の詳しいことは余はこゝに説くまい。兎にも  
 角にも彼は猶存命して居た！ 彼は家郷へ歸つ  
 た！ 然り其の老母の心を慰め娛しまさんがた  
 めに猶生きて居たのだ！ けれど如何にせん氣  
 力は全く盡き果て、しまつた； よしや命を取  
 り留める一縷の望があつたとて、此の廢類した



故郷の荒屋を見れば何うして生きて居ることが出来やう。彼は<sup>むしろ</sup>藁の上に身を横へて、其處に寡婦の母が幾夜も眠らず介抱したが、彼は遂に再び起つことが出来なかつた。

註 detail 説く. particular 詳細. blend 混する. comfort 慰む. cherish 樂ます. exhaust 盡き果てた. work of fate 最早生命絶えたこと. 壽命の盡き果てたこと. desolation 廢頽. sufficient 充分. pallet 藁蒲團.

【譯】デヨオデ・ソオマスが歸つたと聞いた時は村の人達は<sup>てんで</sup>大勢彼を訪れて来て、各自に出来るだけの<sup>なぐさめ</sup>慰藉と救助とを與へた。けれども彼は弱り果て、口も利けず一唯々感謝の意を眼に浮べるばかりであつた。母親は絶えずその側につきそひ、さうして子も亦母以外の他人の手に助けられやうとは欲しない様子であつた。

註 crowd 集まる. assistance 補助. humble mean 賤しい方法. afford 與へる. look his thanks 眼で感謝の意を表す. attendant つきそふ.

【譯】凡そ病氣にかゝつた時には<sup>おとなこころ</sup>大人心も失せるものである。心を柔め、全く小兒の心に歸るものである。それ故年が行つて居ても、病氣と失意とに悩む時；或は異郷の地にあつていたはる者もなく慰める者もなく、病床に苦む時に、誰か“我が幼兒を看守り。”我が枕を直し、助か

りさうもないのに藥を盛つて呉れた慈母の事をば思ひ起さぬ者があらうか？ げに我が子に對する母親の慈愛は何んな他の愛情よりも長く<sup>く</sup>持續するやさしみがある。私慾も之を冷まさせず、危難も之を驚かさず、我が子が馬鹿だからとて弱められるともなく、不孝だからとて亂されるともない。母親は子の便宜のためには何んな<sup>い</sup>快楽をも犠牲となし；子の幸福のためには何んな安樂なことでも譲り與へる；又子が名譽を得れば打ち誇り、子が榮達を許れば打ち歡ぶのである；さうして若し不幸が我が子に襲ひかゝつて來たならば、その不幸のために母の愛情は益々加つて來る；若し恥辱が我が子を蔽ふことがあつても、母親は其恥辱を外にして益々愛し愈々慰めるのである；さうして全世界が我が子を容れなくても、母親は子のために全世界となるのである。

註 break down 挫折する. pride of manhood 大人心. infancy 幼兒. languish 憫む. in advanced life 年が行つて居ても. despondency 失意. pine 苦む. weary bed 病床. neglect いたはる者もない. look on 見守る. smooth 平にする. 直す. administer 藥を盛る. enduring 持續する. tenderness 優しさ. transcend 勝れる. chill 冷やす. selfishness 私慾. daunt 驚かす. weaken 弱らす. worthlessness 價值のない者、馬鹿. sife 亂さ



れる. ingratitude 不孝. convenience 便宜. surrender 譲り渡す. glory 光榮とする. exult 歡ぶ. disgrace 恥辱. cherish 慰める.

【譯】哀れなるヂヨオヂ・ソオマアスは病氣に罹つても誰も介抱して呉れる者もなく——獨り淋しく獄屋に繋がれて、自分を訪れ呉れる者は一人もないといふことを<sup>うやむや</sup>泌々知つて居た。それ故彼は母親の側から離れるのを忍ぶことが出来ず；母親が何處かへ行けば、必ず彼はその後を見送つた。母は眠つて居る我が子を看護しながら、數時間もその病床に座つて居た。時時彼は發熱に犯された夢から覺めて、さうして氣づかばしさうに見廻して、母親が自分の枕邊に俯いて居るのを見るや；彼はその母の手を取り、之を自分の胸の上に置き、さうしてすやすやと子供のやうに睡りに入る。恚ういふ風にして彼は死んだのである。

註 sooth 介抱する. start 眼がさめる. feverish 熱. anxiously 氣づかばしげに. bending うつむく. tranquillity 静なこと.

【譯】此の不幸の物語を聞いた時には余は直ちに此の悼み悲んで居る寡婦の家をば訪れ、金錢の補助を與へ、さうして出来ることなら慰めてやらうと、ふと思つた。けれども聞いて見ると村

民等の好意で此の場合に出来るだけのことをしてあるといふことを聞き、又貧民同志は互に悲しみを慰み合ふ術をよく知つて居るから、余は敢へて出過ぎたこともしなかつた。

註 impulse 刺戟. affliction 不幸. mourner 悼む人. administer 與へる. pecuniary 金錢の. on inquiry 問うて見ること. prompt 激ます. console 慰める. venture 敢へてする. intrude 出過ぎる.

【譯】次の日曜日余は村の寺へ行つて居つた處が、意外にも、かの老婆がよろめきながら通廊を降りて來て例の祭壇の階の處に座つた。

註 tottering down よろめきながら來る. aisle 通廊. altar 祭壇

【譯】老婆はわが子のために何か喪服のやうなものをば工夫して着て居た；切なる愛情と全くの貧窮との間に於ける此の苦痛程傷しいものはあるまい；黒いリボンや——色の褪めた黒い手巾其の他斯様なつまらぬ一つ二つのもので、到底何物を以つても表すことの出来ない悲みをば表さんとして居るのである。余は華々しい富貴の人々の死骸を飾つて居る長い文句の石碑、立派な喪章、冷たい大理石の壯觀を見廻し、やがて眼を轉じて此の哀れな寡婦が寄る年波と悲哀とのために、腰も曲がり、神壇に跪いて



眞心を籠めた断腸の思で祈禱と讚美歌とを捧げて居るのを見ると、此の生きた眞の哀悼の紀念こそ何物よりも価値のあるのであると余は感じた。

註 effort 工夫. mourning 喪服. touching 傷ましい. struggle 争闘. 苦痛. poverty 貧乏. faded 色の褪めた. express 表はす. outward sign 表章. passes show 到底云ひあらはすことの出来ない. storied monuments 長い文句のある石碑. stately 立派な. hatchment 死者の紋. 喪章. pomp 行列. 壯觀. grandeur 壯觀. mourn 弔ふ. magnificently 華々しく. departed pride 死者の誇. bow ぬかづく. pious 眞心こめた. broken heart 断腸の思.

【譯】余はこの物語をば會衆中の富める人々に物語つた處が、何れも心を動かした。彼等は老婆の境遇を安樂にせしめ、その苦悶をば軽くしてやらうと盡力した。けれどもここは唯墓場への數歩を安らかにしたばかりである。日曜が一度二度過ぎるうちに老婆は寺の例の席から失せた。さうして余はその近邊を去らぬうちに、満足すべき報知を得た、といふのは老婆が靜かに息子をひき取つて、悲しいことも絶えてなく、友達とも絶えて分れることもない天國に於て、そのいとしい人々に會はんがために去つて行つたのである。

註 congregation 會衆. exert 盡力する. situation 安樂にする. comfortable 安樂. affliction 苦悶. smoothing a few step &c. 墓場への數歩を安らかにするとは老婆の死際の數日を安樂にさせたばかりといふ意. in the course of a sunday &c. 日曜が一度二度と經來たるうち. breathe her last 息をひき取つた. rejoin 會ふ. in the world 天國の意.



## ロンドンの日曜

【譯】前章に於て余は英國の田舎の日曜に就いて述べ、又此の日は山野の景色をも平穩にさせることをも説いた；然しながらかの大雑沓の地たるロンドンの中心ほど安息日の勢力の顯著な處は何處にあらう？此の安息日に於て大怪物たるロンドン市の市街もすやすやと眠りにつく。堪えられないその喧噪と六日間の争闘は茲に終りを告げる。店々は鎖され；鍛冶屋や製造場の火は消され；太陽もはや煤煙の黒雲に蔽はれることもなく、静かな町に落著きのある黄金色の光を注ぐ。道行く人を見るに心配さうな風をして急ぎ歩くものはなく、皆呑氣に動いて居る；その額は苦勞の皺も伸びて滑かに；日曜らしい容貌と日曜らしい身振と日曜らしい服装をして、さうして身と共に心も清められて居る。

註 preceding paper 前章. tranquillising 平穩な. landscape 風景. sacred influence 神聖な勢力、安息日の感化. strikingly 著しく. Babel バイブルにあるシナイの町に造つた塔にて言語の通じない塔であつたといふ。これから雑踏混雑をさすやうになつた. sacred day 安息日. gigantic

monster 大きな怪物. ロンドンを指す. charmed into repose すやすやと眠に入る. intolerable 堪え難い. din 喧噪. struggle 奮闘. forges 鍛冶屋. manufactories 製造場. extinguish 消える. no longer もはや. obscured 暗くする. murky 暗き. pour down 注ぎ下す. sober まじめな、落著いた. radiance 發光. pedestrian 行人. anxious countenance 心配さうな顔. leisurely 呑氣に. brow 額. wrinkle 皺. business and care 苦勞. in person 體.

【譯】さうして今や寺の塔から嘹唳たる鐘の音が響くと教区内の人々はぞろぞろ群れて行く、或は上品な商家の一族が小さな子供を先き立たせて邸宅から繰り出すのである；或は町人が美しい妻と連れ立ち、その後には褶んだ手巾の中に小形の革表紙の祈禱書を入れて持つた年頃の娘がついて行く。下婢どもは彼等を窓から見送つて、わが家の人々の美しい装に見惚れ、さうして自分がお化粧を手傳つてやつたその若い主婦から嬌然叩首いて貰つて居るのである。

註 melodious 嘹唳たる. clangour 響. summons 呼び集める. flocks 羊の群をいふ. 禮拜に赴く人の群をさしたのである. fald 教會區域. forth issue 發する. decent 上品な. tradesman 商人. in advance 先に立たす. comely 美しい. spons 配偶者、妻或は夫をいふ、こゝでは妻. grown-up daughter 年頃の娘. morocco-bound 山羊の皮で製した上等の革表紙. prayer-books 祈禱者. folds 褶. housemaid 下婢.



admiring 見惚れる. finery 美装. mistresses 主婦. toilet 化粧.  
assist 手傳ふ.

【譯】或は又市のお歴々の方々の馬車が轆々として過ぎる、多分郡長とか縣知事とかいふ人達であらう；時にはばたばた澤山の足音のするのは貧民學校の行列で古風な制服をつけ、何れも祈禱書を脇挟んで居る。

註 rumble 轆々. magnate 歴々. 顯官. peradventure 多分. alderman 郡長. sheriff 縣知事. patter ばたばた. procession 行列. charity scholars 貧民學校. uniforms 制服. antique cut 古風

【譯】鐘の音もやみ；馬軍の響もとどまり；足音も聞えなくなつて；人々は裏町や賑かな市の隅にある古寺に集る、其處に抜目のない小役人が、丁度羊の群を守る犬のやうに、禮拜堂の入口に番をして居る。暫が間は閑として聲もない；けれどもやがて深い透通るやうなオルガンの響が聞える、人氣もない街街や庭庭に鳴り互り；朗かな唱歌の聲は之と相和して一種の妙なる曲を奏でて美讚へる。余は斯様に注ぎ出だされる音樂の音を聞いた時程、神聖な感じを得たとはない、丁度歡喜の河のやうに、此の大首府の隅隅までも達して恰も一週間の下劣な汚辱をも洗ひ去り；浮世の勞苦に褻れた哀れな人の

子をば、この勇しい樂の音の潮に乗せて天國へも導き行く心地がする。

註 rumbling 轟. pattering ばたばたする音. fold 集る. cramped up 押し籠めらる. by-lane 小路地. 裏町. crowded 賑かな. vigilant 抜目のない. beadle. 寺區の小役員. 禮拜式の時會堂内の秩序を正したり又は小罪人を糾責したりすることを職とする者. shepherd 羊牧者. threshold 入口. sanctuary 禮拜堂. hush 静まる. pervading 透通る. vibrating 震ひ響く. empty lanes 人氣のない街. courts 庭. chanting 吟誦. choir 聲樂隊. melody 曲律. praise 賞讚. sanctifying 神聖にする. inmost 一番奥の. recesses ひつこんだ處. 隱所. metropolis 首府. elevating 高める. as it were 例へば. sordid 下劣な. pollution 汚辱. world-worn 浮世の勞苦に褻れた. tide 潮. triumphant harmony 勇ましい曲律.

【譯】朝の祈禱も終る。街は又もや家路を歸り行く群衆で活氣づくけれども、間もなく再び沈黙に返へる。それから日曜日の午餐の時刻となるが、これは市の商人に取つては大切な食事となつて居るのである。食卓を圍んで平日よりはさも吞氣さうに浮世話に耽つて楽しむ。一週間も忙しい職務のために離れて居た家族の者どもは今や皆集つて來る。寄宿舍に居る學生も此の日は親の膝元へ歸ることを許される；親しい舊友は此の日曜には必ず尋ねて來て例も坐りつけの席に坐り、いつもの物語をなし、さ



うしていつもの諧諷<sup>じやうだん</sup>に若い者も年寄も笑ひこける。

註 congregation 會衆. relapse 再び返る. board 食卓. laborious occupation 忙しい職業. school-boy 寄宿舎に居る學生. paternal home 親の家. accustomed 馴れた. rejoice 楽しむ. joke 滑稽.

【譯】午後になると市<sup>まち</sup>よりは大勢の人が出て来る、公園や四邊<sup>あたり</sup>の郊野に新鮮な空気を吸ひ温かい日光をば樂まんとしてである。諷刺家はロンドンの市民が日曜に田園を娛むのに就て兎角彼是いふけれども、余に取つては騒々しい塵の巷に閉ぢ籠められた人々が一週間にたつた一度外へ出て、自然の緑なす胸に身を委ねることの出来るのは何となく愉快である。市民は丁度母の懷に返つた小兒のやうである；此の大きな首都を周つて居る此等の尊い公園や巨大な娛樂場を作つた人々こそ、健康のためにも道德の上にも多大の功勞のあつたことは、恰も養育院や監獄や又は感化院に同じ費用を投じたと同じことである。

註 legion 群衆. envions 四圍の狀況. satirists 諷刺家. what they please 好きなことを勝手に云ふ. beholding 心を奪ふ. restore 歸る. magnificent 巨大な. pleasure-ground 娛樂場. huge metropolis 大都會. done at least as much 多大な功勞をなした. morality 道德. expend 費す. amount of cost 費用高. hospitals 養育院. penitentiaries 感化院.

## 文學の變遷

## ウエストミンスター寺院に於ける對話

われは知る、下界のものは悉く衰へ、  
そして此世に於て人間の手によりて齎らされたものは、  
時の大なる期間に於て、無に歸してしまふことを。  
われは知る、凡ての詩人の天來の詩歌は、  
精神の勞働を以て、甚だ高く買はれる所の詩歌は、  
徒らの響の如く、僅かな人から求められ、又は何人から  
も求められぬを、  
又只の稱讚より輕きものは何物もなきことを知る。

—ホオソオンテンのドラモンド

註 beneath the moon 月の下即ち下界. mortals 死すべきもの即ち人間. In time...period 長い間. nought=nothing. muse 文藝の神即ち詩人. heavenly lay 天の歌即ち立派な詩歌. with toil of sprite 精神の勞働即ち頭を勞し苦辛じて. sprite は spirit に同じ. dearly 價高く、辛苦して買ふ故に價高きなり. idle sounds 聞く人もなく徒らに響いて徒らに消えて行く音. of few...sought 苦心して得た詩や歌も之を求めて聞いて呉れるもの殆んどなく又は一人もない. mere praise 徒らに人にほめられる即ち空名. nothing lighter 之より輕きものなし、價なくつまらぬものなり. Drummond (1585—1642) 蘇國の詩人にしてホオソオンテンに隱遁す。

【譯】時ありて吾等は半夢半醒の氣分に在ることがある、此んな時には吾等は當然騒擾と輝とか



ら忍び去つて、物思ひに耽り擅まゝに空中樓閣を築くことの出来る静寂の境を求むるものである。丁度此んな氣分で、人はよく沈思黙考の名を以て勿體ぶりたがる纏りのつかぬ限りもない思ひを楽しみながら、ウエストミンスター寺院の古い灰色の廻廊を迂路ついて居ると、俄然ウエストミンスター學校の悪戯小供等がフットボールをやる騒ぎが、邊りの寺院の静寂をやぶつて了つた。圓天井の通路や崩れかゝつた墓石を楽しげな聲で反響させた。私は此騒擾を逃れんと求めて尙更に靜かな方へ奥深く進んで、番人の一人に向つて書庫へ入らせて貰ふとを頼んだ。彼は前時代の碎けゆく彫刻の澤山ある門を通つて案内した、其門を通りぬけると法教師の會堂と土地調査簿の蔵つてある室に通ずる淋しい通路があつた。丁度此通路の内に左側に小さい戸がある。商人は此戸に鍵をはめた；戸は二重にしめてあつた、でなかなかの困難で開いたのだつた、恰かも滅多に使はれたことのないがやうに。私達は今暗い狭い階段を上つて、第二の入口をぬけて書庫に入つた。

註 moods of mind 氣分心持. steal away 忍び出る. glare 光輝  
haunt よく行く所. indulge 耽る. reveries 物思ひ. undisturbed 妨害されずに. loitering うろ々々する. cloistr 廻廊.  
luxury...thought うろ々々する考の贅澤即ち澤山なとり  
とめもなく纏らぬ考. one apt to... 人はよくしたがる.  
dignify 品位をつける. 勿體ぶる. reflexion 沈思. interruption  
妨害. madcap 狂妄な、頭の熱した. Westminster School ヘン  
リイ八世が此寺院内に建てた、そしてエリサベス女皇  
が再建した有名な小學校. monastic 寺院の. stillness of  
place 其場所の靜かさ. Vaulted. 圓天井の. mouldering くづ  
れかゝる. merriment 楽しさ. sought 求めた. seek の過去.  
penetrating 貫く. solitudes 靜寂. pile 大厦即ち寺院をさす.  
applied to たのむ. verger 禮拜堂の小吏. admission 許可. portal  
門. rich 此語は形容詞になつて後について居るなり. cru-  
mbling 碎ける. open 開いてそれになる. chapter house 僧  
侶等が相會して仕事をす室. Doomsday Book 1086 ユキ  
リアム・ザ・コンケラア王の命によりて編成された英國  
土地測量の帳簿. deposit 收めて置く. apply あてゝ見る.  
ascend 上る.

【譯】私の入つた室は、高い古風な廣間で、屋根は英國櫨の古木の太桁で支へられて居た。其室は床から非常に高い處に在りて而も確に廻廊の屋根の開いて居る一列のゴシック式の窓によりて、陰氣に明りがさしこんで居た。煖爐の上には正装した貴い住職どもの古い肖像がかゝつて居た。廣間の周圍と小さい陳列室には澤山の書籍が曲つた櫨の箱の中に整頓してあつ



た。其書籍は主として、昔の争論好きの作者のもので、使ふと云ふよりも時の爲に甚だいたんで居た。書庫の眞中には、其上に二三冊の書籍と、インキのないインキ壺と、久しく使はないので錆びてしまつた二三本のペンとの載せられた寂しげなテーブルがあつた。此處は静かな勉強と深い冥想には相應はしいやうであつた。寺院の大きな壁の中に深く埋められて、世の中の騒擾から閉されてしまつて居た。只時々學校生徒の叫聲が、かすかに廻廊から響いてきて、祈禱の鐘の音が寺院の屋根を傳ふて、しんみりと反響して來るのが聞える丈であつた。やがて娛樂の聲の叫びは段々とかすかになつて、遂に消えてしまつた；鐘の音はやんでしまつて、深い沈黙が薄暗い室を支配した。

註 found myself 自を見出す即ちそこに入る又は居た。massive 大きな。joists 桁。soberly lighted しんみりと照らされる即ち陰氣に光かりさし込む。considerable 非常な。apparently 確に。reverend 尊嚴なる。dignitary 位の高い人。robe 職服、正衣。polemical 争論好きの。parched さびる。disuse 使用せぬこと。profound 深き。meditation 沈思。tumult 擾ぎ。swelling ふくれる。toll ひびく、by degrees やがて、追々と。reign 支配する即ち室に充ちる。dusky 薄暗い。

【譯】私は奇態に羊皮紙で裝禎して、眞鍮の握りを

つけた小さい厚い一冊を取下ろし、テーブルの側の貴き脇かけ椅子に坐つた。けれども、その本を読む代りに、私は莊嚴なる寺院の空氣と此場の死せるが如き靜寂とによりて誑されて、引つゞいての物思に耽つた。かうして棚の上に整へられて、確かに未だ嘗て其休息の中に妨害を加へられたことなき、朽ち行く表紙に包まれた古い書冊を見廻した時には、私は此書庫をば文學上の一個の墓穴であつて、此等の著者等は、木乃伊の如く丁重に埋められ、薄暗き忘却の中に黒くなり朽ちてしまふやうに打やられたものと思はない理には行かなかつた。

註 quarto 一枚の大紙を二枚折りにした大形の書冊。parchment 革皮紙。honorable 貴重なる。beguile まどはされる。train of musing 考への連續、引つゞいた物思ひ。covers 表紙。in the repose 休息中に。catacomb 墓穴。mummies 木乃伊。piously 丁重に、心をこめて。entombed 墓に入れる。left in oblivion 忘却の中に打やられる、即ち打やられて忘れられてしまふ。

【譯】私は思つた、斯の如き無頓著を以て打やられて居る此等の書籍の名が、如何ばかりか痛む頭を償し、幾日かの侘しき日と、幾夜かの眠らぬ時を償したるものよ！彼等の著者は室や廻廊の人なき寂しさの中に、如何ばかりか其身を埋



め、人間の顔を離れて自ら閉ぢこもり、尙更に自然の恵深き顔からも離れて；そして自ら苦しき研究と烈しき沈思とに其身を委ねたことであらう！而して其凡てが何の爲に？薄暗い棚の一時を占むるが爲に——眠げなる僧侶又は私のやうな偶然の漂泊者によりて、行く行くは時々著書の表題をば讀まれんが爲に；そして他の時代に於ては記憶にさへも失はれんが爲に。斯の如きものが此不朽の名聲をと誇つたものの全體である。單に一時代の名聲、地方的の評判；今し此等の塔の間に響いて、暫しは耳に充ちて一時は反響となつてためらうて——そしてやがては始よりなかりしものの如く消え去るあの鐘の音のやうに！

註 thrust aside 打やつて側に置く. indifference 無頓着. aching head 頭痛のする頭を續ける即ちどれ丈け研究に頭痛のしたことだらう. weary 淋しい. how many は皆な. cost にかゝる. solitude 寂しい所. cells 小房、寺. blessed face of nature 自然のやさしい顔から離れて一室に閉ぢこもつて. devote 心身を委ねる. intense 烈しい. all for what 凡てこれ何の爲にしたのであるか. future age 行く々々. drowsy 眠げな. casual straggler 偶然の漂泊者. to be lost 人の記憶からさへ忘られてしまふ. such is... 不死の著作をすると誇りにして居た凡てが此様である. temporary 一時代の. local sound 一地方の人にのみ知られた評判. transiently 一時.

【譯】私が此等の役にもたため考を半ばつぷやき半は考へながら、片手に頭を載せ、片手にて書物を弄んで居ると、遂に偶然にも私は本の鉤をはづしてしまつた；と全く驚いたことには、深い眠りから覺めたもののやうに、小さい書冊は二つ三つ欠呻<sup>あくび</sup>をして；やがて嘎聲で“ヘン”とやつて、遂に物を云ひ出した。勉強な蜘蛛が其上に大變巢をはつて居たので；最初は其聲は粗<sup>あら</sup>粗<sup>あら</sup>しい裂けたやうな聲であつた；そして多分は寺の冷さと濕氣とに長い間曙されて風邪を引いて居たので。けれども間もなくして其聲は明晰になつて、直ぐに私はそれが極めて流暢な話し上手な小さい調子であると知つた。確かに其語はどちらかと云へば珍らしく奇妙な古いもので現在から見れば其發音も野卑と思へる程のものがあつたが、私は之れを出来る丈け當世風の話に談すことを努めて見よう。

註 unprofitable 役に立たぬ. speculation 考. 想像. rest on 置く. thrumming 又物をいぢる. accidentally 偶然. loosed ゆるむ. とれる. utter 全き. to my... 驚いたことには. yawns 欠呻. husky しゃがれた. hem エヘンの咳拂. cobweb くもの巢. contract 得る. exposure 暴露、さらすこと. damp 濕氣. exceedingly 非常に. conversable 活上手. obsolete 古くてすたれかゝつたる. endeavour 努める. parlance 會話.



【譯】小冊子は世界の冷淡に關する罵を以て始めた——世に知られずして衰へるやうに困められる所の功績に關して、そして他の斯の如き文學上の不平の普通の問題に關して始め、そしてそれが二世紀以上も開かれなかつたことを苦苦しくかこつた。牧師が只時々書庫の中を見て、時々一二冊を取ろして、二三分の間丈弄んで、やがて又棚の上に之をもどして置いたことをかこつた。小さい二つ折の本は曰く“彼等は何たる酷い眼にあはすのだらう、”小冊子は何だか怒り出したやうであつた。“我等の數千冊を此處に閉ち込めて置き、數人の老番人に守らせて后宮に於ける多勢の美人のやうに、單に時々牧師によりて見られしめるとは、何たる酷い眼に遇はすのだらう？ 書籍は快樂を與へ慰まれんが爲に書かれたるもの；そして私は牧師がせめて一年に一度は我々を訪問すべき規則を通過して貰いたい；或は若し牧師が其仕事に適切でないとするならば、彼等をして一年に一度は兎も角も、我々が時々は蟲干しをすることが出来る爲めに、我々の間にウエストミンスター學校の全生徒を開放せしめて貰いたい”

註 railings 罵. neglect of world 世間から顧みられぬこと. merit 價値. languish 衰へる. obscurity 世に知られぬこと. being...obscurity 世に知れないで衰へ消えしめられる. commonplace ありふれたこと. repining 不平を鳴らすこと. bitterly 苦々しく. complain 不平を云ふ. that 以下又 complain にかゝる. now and then 時々. trifled 弄ぶ. what a plague ...mean ひどい眼にあはす. plague 難艱. perceive 見る. 眼につく. choleric 怒つて. harem 回教國にて妻妾を入るゝ室. equal 適する. in a whole turn 一年の意. airing 風を通す. 蟲干しの如き意.

【譯】“靜に、吾が貴き友よ” 私は答へた“汝は自分と同時代の大抵の書籍よりも如何ばかり仕合の身なるかを知らぬ、此古き書庫の中に<sup>たくは</sup>藏へられて、汝は近所の禮拜堂に祀られて居る聖僧や國王の貴い遺骸の如きものである；之に反して汝の同時代の人々の遺骸は自然の成行に委せられて、久しい以前に塵芥に歸してしまつた。”

註 to be better off ずつといふ境遇にある. your generation 同時代. store しまつて置く. treasured 貴い. remain 骸遺. enshrine 祭り込む. adjoining 隣りの. contemporary 同時代の. mortals 死ぬるもの即ち人. ordinary course 成行. long since =long ago ずつと前.

【譯】“君よ” と小冊子は、その頁をばらばらにして大に威張りながら、“私は全世界の爲に書かれたものである、寺の蟲の爲に書かれたもので



はない。私は他の同時代の大著の如く手から手に互るべく企てられたものであるけれども私は二世紀以上の間此處に鈎をかけられて居た、そして私がめちやめちやになつて了ふに先だつて、若しあなたが偶私に最後の數語を吐く機會を與へて呉れなかつたら、私は今の腸に仇討を行ひつゝある蟲の餌として黙つて落ちてしまつたかも知れぬ。”

【注】 tomo 一冊の本. ruffle 亂す. leaves 頁の紙. look big 威張るなり. circulate 廻りあるく. play... 腸を食つてゐる. by chance 偶然. opportunity 好機會. utter 云ふ.

【譯】 私は答へた。“吾が友よ。君が若し君の所謂流布に委せられてありしならば、君はもうずつと以前になくなつてしまつて居るだらう。君の人相から判斷すると、もう可成の老體である君の同時代の人々は猶生存して居るものは極めて僅少である；而して此等の少數者の猶生きながらへて居るといふのは、君の如く古い圖書館内に閉ぢ込められて居ると云ふにお蔭を蒙つて居る。英國圖書館は、云ふのもつらいが帝王の後宮に比べる代りに、君はもつと適切に而も喜こんで、それをば老衰者の爲に宗教上の建物に附屬させられた、あの病院などに比べた

方がいゝ；そこでは靜に養はれて、又何の用事もないので彼等老人達は驚くべくも何の役にも立たない老年までも屢々堪えることがある。君は自分の同時代のものが恰も世に流布するが如く云つて居るが——吾等は何で彼等の著書に出遇つて居るのだ？ バアト・グロテストやリンカーンについて、吾等は何を耳にするか？ 不死ならんが爲に何人かよくリンカンよりも苦勞することが出来ただらう？ 彼は殆んど二百冊の書を書いたと云はれて居る。云はば彼は其名を不朽ならしめんが爲に書籍のピラミッドを築いたのである：けれども憐れなる哉！ 其ピラミッドはづつと昔に倒れてしまつた、そして只僅の斷片のみが方々の圖書館に撒散らされて、古物家によりてすら、殆んど觸られもしないで居るのだ。歴史家、古物家、哲學者、神學者及詩人であるジラルズ・カンブレンシスについて何の聞く所あるか？ 彼は自ら閉ぢ籠つて名を残さんものを書くことが出来得る爲に二度の教主の職を拒んでしまつた。けれども後世の人にして彼の勞力について尋ねるものはない。ヘンリー・オブ・ハンチンドンは如何、彼は



博學なる英國史に加へて世俗を嘲笑せる一論文を書いた、世は之に對して彼を忘れることをもつて報ひたのであつた。其擬古文に於ては當時の奇蹟と稱せられたジョセフ・オブ・エキセミアに關して何事か云はれて居るぞ？彼の三大敘事詩の中其一は永へに失はれて只斷片丈が残つて居る。そして他の二篇は文壇の少數好事者によりてのみ知られて居る；そして戀愛詩や短詩に至りては全く失はれてしまつて居る。彼の“生命の木”の名を得た、フランスカ宗派の僧ジョン・ウオリスの流行せる何物がありや？

キリアム・オブ・マルメス・ベリイについても、シメオン・オブ・ダアハムについても、ベネダクト・オブ・ビイタアボロオについても、ジョン・ハンヴィン・オブ・聖アルバンスなどについても……”

註 circulation 書籍の世に流布すること。 ere=before 前に。 physiognomy 骨相學。 stricken in years 年を経たる。 to be in existence 生きて居る。 owe お蔭を蒙る。 longevity 生き永へること。 immure 閉こもる。 suffer me to add 附加して云ふもつらいが。 gratefully 喜んで、感謝して。 infirmary 病院。 attach 附屬した。 establishment 建物。 for the benefit 爲に。 decrepit 老衰。 fostering 養ふこと。 employment 仕事。 endure 堪える。 amazingly 驚くべくも。 good-for-nothing 何の役にも立たぬ。 Robert G.... 此等の人は皆今日では知るものなき11,12世紀頃の作者。 pyramid 三角塔。 perpetuate 永

續させる。 disturbed 手にて觸はつて動かす。 antiquarian 古物品。 theologian 神學者。 decline 拒む。 bishoprics 教主の職、之を拒むとは之になるを古辭してまで勉強せるなり。 write for posterity 後世の爲に書く即ち名を永久に傳へんとして書けるなり。 revenge 仇を報ひる。 style 稱する。 miracle 奇蹟、不思議。 classical composition 擬古文 heroic poem 英雄のことなどを歌へるもの即ち敘事詩。 epigram 諷刺などをした短い警句の如きもの。 current use 世にはやる使用即ち一般に用ひられること。

【譯】“願くは友よ” 小冊子は短氣な調子で叫んだ、“あなたは私しを幾つ位だと思つて居られる？ あなたは私よりもずっと以前に住んで居た作者等のことを云つて居る、此人々は拉典語か佛語で書いたのだ；だから彼等は自ら見限つたのだ、忘れられるのも當然である；けれども君よ私は有名なるウインキンド・ウオールドの活版によりて世の中に出て來たのだ。私は自分の國語で書かれたのだ。而も國語の確立した時代に於て；そして實に私は純粹な立派な英語のモデルとして考へられたのだ。”

註 pritheo=I pray you 願くは。 in a manner expatriated 國を退き去つた風に即ち自ら身をすて去つたやうに。 deserve 相當する。 ushered 紹介する。 renowned 有名な。 Wynkin.... (1491—1534) 英國活版業の創始者はカクストンにてウオールドは二番目なり、時正にヘンリー八世の時代。 native tongue 故國の語。 become fix 色んなものが交つて居



た國語が確立固定して一國語となるを云ふ。elegant上品な。

【譯】（私は此等の言語が甚だ堪えがたいほどの言語に表はされて居たので、之を近代的の句法に直すに無限の困難を感じたことを注意したい）

註 observe 注意する。remark 冒語。ouch 云ひ表はす。intolerable 堪えがたき。antiquate term 古い語。render 直す。phraseology 句法。

【譯】私は云つた“君の時代を間違へたことを許されよ；けれどもそれは大したことはない。君の時代の始んど有ゆる作家が亦忘られ過ぎ去つてしまつた；そしてドウオールドの出版物も只に書籍蒐集家中の文學上の珍本であるのみだ。君が永續の理由として居る國語の純粹と不易といふことも亦、各時代の作者の誤れる依頼心であつた、それは彼の雜種のサクソン語の韻文で歴史を書いた貴いロバート・オブ・クロオスタアの時代までも溯つて云へることである。今でも猶多く人はスペインの「汚されざる純粹の英語の源泉」について、恰も國語を常に泉か又は噴水の頭から湧き出たものとして、寧ろ絶えず變化と混合に従へらるる種々

の言語の、單なる合流にはあらざるものの如く説いて居る。而も此點こそ英文學をして非常に變化あるものたらしめ而して其上に築かれたる名譽をして忽ち消え去らしむる所のものである。されば思想も此の如き仲介者よりも尙一層永久不變なる物に委せらるゝに非れば、思想も亦其他の物の運命を受けて、廢滅に歸しなければならぬのである。これぞ最も名ある作家の虛榮と自慢に對して妨害物となるまであらう。彼は自分の名聲を博するに用ひた國語が漸次に變じて、時の荒廢と流行の翻弄に従へらるゝとを見出さん。彼はふりかへりて嘗ては當時代の寵兒であつた自國の昔の作者等が、現代の作者によりて取つて代られたるを見ん。僅かの短かい時代は暗黒を以て彼等を蔽ふてしまつた、そして彼等の功績は只本蟲の珍しき趣味によりて賞味せられ得るのみ。そして斯の如きが(彼は豫想せん)彼が著作の運命であらう。其著は其時代に於てこそ稱讚を受け、純粹の模範として考へられたらんも、數年の中には古物となり古奇のものとならん；遂にはそれは埃及の方尖塔や、又はタアタリイの砂漠の



間に存すると云はれた彼のルウンの紀錄の一の如くに、其本國に於てさへも殆んど分らないものとなつてしまふだらう。私は云ふ”私は熱心の度を加へて云ひ添へた、“私は立派な金縁と装釘の美を盡した新著の一杯に在る近代の圖書館を考へて見ると、座つて泣かないでは居られない感じがする；人の善いザクセス大王が美しい軍装をして、ならべられた自分の軍隊を檢閲して、百年の後には、此等の一人も生き残つて居ないだらうと考へて泣いたがやうに！”

註 cry for mercy 惠を乞ふ、即ち許して下さい。 matters little 殆んど關せぬ、little は not に同じ。 passed into.... 忘れられて過去。 rarities 骨董品。 stability 安定、不易。 claim to perpetuity 永續の權利。 fallacious 誤つた。 dependence 依頼心。 mongrel 雜種の。 undefiled 汚れない。 confluence 合流。 subject to 従ふ。 intermixture 混合。 mutable 變り易き。 fleeting 飛去る。 permanent 不變の、永久の。 medium 思想を傳へるもの、即ち言語や國語の如き仲介物。 serve as a check 妨害になる。 exaltation 自慢。 embarked それに乘つて名譽の帆をあげた。 altering 變化する。 diapidation 荒廢。 caprice 出來心。 favourites 寵兒。 supplanted 取つて代られる。 obscurity 暗黒。 relish 賞味する。 anticipate 豫想する。 antiquate 古くなる。 obsolete 棄てられて分らなくなる。 unintelligible 分らない。 with some emotion 感情を以て即ち少し激して。 contemplate 熟考する。 in all the bravery 美を盡

して、feel disposed 氣が向くを感ずる。 survey 檢閲する。 prank 排列する。 array 服喪。 splendor 美觀。

【譯】“ああ” 小冊子は重い歎息を洩らして曰く“どうしてさうかといふことが私に分つた；此等の近代の拙著家等が凡て立派な昔の作家を免職させたのだ。思ふに今日ではサア・フィリップ・シドニイの「アルカヂア」だとか、サックギイルの莊重な劇及「ミラア・フオア・マジストレイト」とか、尙未だ並ぶものなきジョン・リリーの唱へたニウフィアス體とかの外は何ものも讀まれないのだらう。”

註 I see 分つた。 Scribbler 拙劣なる作家、所謂三文文士。 supercede 免職させる。 Arcadia 1590 出版の牧童と牧女の戀を扱がいた小説。 Sidney も Sackville 共にエリサベス朝の詩人。 Miller for m. 韻文の英國央にてサックギイル補ひて成れり。 fine-spun 巧に出來た。 unparalleled 並ぶものなき。 Lily 沙翁の先に出たエリサベス時代の劇作家 Euphuism は Enphues と云ふ小説の技切が元にて此名を生ずるに至つたのである。

【譯】“君はまた間違つて居る”と私は云つた；“君は此前流行して居つた際に、偶さうであつたから、猶矢張流行して居るだらうと君が思つて居る作家等の時代は、ずつと以前に過ぎ去つてしまつた。サア・フィリップ・シドニイの「アルカヂア」、其不朽なるべきことは其稱讚者によりて



好んで豫言されて居た、それでゐて實際に於て高尚な思想と柔かい幻像及び優雅なる句法とに充ちて居る所のアルカヂアは、今は殆んど嘗て人の口に上つたこともない。サツクヴィルも暗黒の中に隠れて了つた；そしてリリオの作は、嘗ては宮廷の者であつて、そして明に諺となりて永續しつつあれども、今は殆んど名さへ知られて居らぬ。當時筆を執つて争ひ合つた作者の群も亦、彼等の作品と争論とを以て去つてしまつた。文學の波は相ついで至つて彼等の上に打つて、遂に彼等は深く埋められてしまつた、従つて只時々昔の斷片を求めて勤勉なる潜水夫が好事家の満足の爲に見本を齎らすのみである。”

ほ in vogue 流行する。long since=long ago. fondly 戀におぼれて。predict 豫言する。graceful 優雅なる。turn 表はれし方、句法 strutted 容體ぶつて歩む。apparently 明に。perpetuate 永續する。wrangle 争論する。controversies 議論。diver 潜水夫 即ち文學の中へ深く入る人。industrious 勤勉な。curious 珍品。

【譯】“私から見れば” 私は續けて曰つた、“私は此國語の變化は大にしては世界の爲、小にしては著書の爲に、天帝のなせる賢い遠慮であると思ふ。類似から道理を述べて見ると、吾等は毎

# 欠



# 欠

## 田舎の葬式

【譯】 此處に花少し許りあり！ されど眞夜中には尙ほ咲き出でん：

眞夜中に其上に冷たき露を置く草花こそは  
墓場には最もふさはしき撒散らさるゝものなれ—  
汝は今は枯れたる花の如し； 等しく、  
吾等が汝の上に撒く此等の草花もやがて萎まん。

— キンペリオン。

註 Here is 此處に花をもつて來た。 more もつと夜中には咲かん。 strewings 撒散らさるゝもの。 fitt'st=fittest 最もふさはしきもの。 wither かれる、しぼむ。 even so 丁度同じことに。 herblets shall—此次に wither を入れて見るべし。 herblet は小さい草花。 strow は strew と同じ撒くなり。 Cymbeline シェクスピアの戯曲中の一つである。

【譯】 英國の或地方に於て今猶存する美しき質朴なる風流の中には、葬式の前に花を撒布し、やがて逝ける人々の墓場の上に之を植付ける習慣がある。此等は初期の英國教會の儀式の一部が残つたものと云はれて居るが、其實は希臘人や羅馬人に守られた、ずつと古い昔のもので、屢此時代の作者の筆にも上つたものである；そして之れ疑もなく、悲を歌に表したり或は其名を紀念碑の上に記す技術が行はれなかつた、ずつと以前に始まつたものにて、文字に表はさな



い愛情の自然の貢ぎ物であつたのである。今日では、流行や革新のことがまだ群れて來ることの出來なかつた、而して古代の珍らしく面白い跡を蹂躪されなかつた英國内の最も僻遠の地にのみ僅かに見らるるところのものである

註 Simple-hearted 心の質朴な。linger ためらふ。planting 植ふる。departed 死んだ。remains 死骸。rites 儀式。primitive 初期。Church 英國監督教會をさせるなるべし。observed 守られた。spontaneous 自然の。tribute 貢物。unlettered 文字表はされぬ。affection 情愛。originating 起る。task itself 自ら行はれる。modelate 調を變へる、調べる即ち悲を歌にて表はす。story 話に傳へる。distant and retired 僻遠。innovation 革新物を新しくすること。throng in 群り集る。trample out 蹂躪する。

【譯】グラモルガンシア地方にては、死屍の横はれる臥床をば花を以て包むとか、——之れ實にオフエリヤのやるせなき悲歌の一つに諷せられたる風習である：——

“彼の經帷子は山の上の雪の如く白く、  
愛らしき花をもつて凡て包まれて；  
其死屍は敷かれて墓場にぞ行きし、  
誠の涙の雨にぬれて。”

註 corpse 死屍。alluded 關して。wild 氣の狂ふやうな。ditties 悲の歌。Ophelia は沙翁の戯曲“ハムレット”中の主人公ハムレット王子の許婚の少女なり。

Shroud 經帷子、所謂白無垢なり。larded=interlarded 交へられて。he-wept なかれて。love showers 愛の雨即ち涙の雨。

【譯】また若くして未婚の儘に死んだ女子の葬式に於て南部の僻遠の間に守られた最も纖巧優美の儀式がある。白い花の花環が、年齢も體格も容貌に於て、死者と最も近似した乙女によりて屍の前に運ばれ、やがて死せる人が生前教會に於て坐することを常とした席上に掲げられるのである。此等の花環は時ありて花に擬して白紙にて作られ、その内側には通常は一對の白き手袋が入れられるのである。之れ死人の清淨無垢なことを表はすものにて、乙女が天國にて受けた榮譽の冠として企てらるゝのである。

註 observed 守られた。remote 僻遠の。chaplet 花環。borne=carried. size 體の大きさ。resemblance 容貌。accustomed seat 日曜毎に教會に行つて坐る席は自然と定つて居るなり。deceased 死者。emblems 表章。purity 純潔。

【譯】又或地方にては、死人を墓場に運び行く時に、詩篇や讚美歌を歌ひながら行くのである；之れブルンの云へる“彼等が歡喜を以て其一生を終つて、そして勝利者となれることを示すべき一種の勝利である。自分が聞いた處によると、こは北方の或地方殊にノオザンバアラン



ド地方に於て守らるるものにて、靜なる夕暮を淋しき田舎の光景の中に、遠くより次第に大くなりゆく葬式の悲歌を聞き、野景に沿ふて靜かに動き去る行列を見ることは、悲しき中にも得も云はれぬ心地よきものである。

註 psalms 聖書中の“詩篇”を云ふ。 Bonrne (1693—1747) 詩人である。 course 一生。 conqueror 征服者。 melody 調子。 dirge 悲歌。 train 行列。

## 【譯】

この通り、この通り、この通り、吾等は  
罪もなければ幽霊として出ることもなき汝  
の周圍に集り、  
そして汝の悲歌を唄ふ時、吾等は水仙や  
その他の數多の花をば  
吾等が愛人の經机——汝が墓の上にぞ置く。  
——ヘリック。

註 compass 集る。 harmless and unbaunted 思ひ残すことなく満足し安心して死ぬる故、死人は何の害なく幽霊などとなつて出ることなしと云ふ意。 alter 經机即ち此處にては死者の墓。 Robert Herrick (1591—1634) 抒情詩人にてアアギンクの最も好める詩人の一人なり、上の詩は Jephthah's Daughter の悲歌の第二節を引用せるもの。

【譯】亦此等の僻地に於ては、過ぎ行く葬式に對して旅行者は莊重なる敬意を表するのである；

何となれば自然の靜なる村路の間に起る斯の如き光景は、人心の中に深く沈むを以てである。旅人は葬式の行列が近づくと同時に足を止め、脱帽をして、それを通過せしめ；やがて靜かに其後をついて行く：時ありては全く其墓地まで行くことあれど、時ありては二三百ヤアドもつゞき、死者に對して此敬意を拂つた後、振かへつて其旅程に立もどるのである。

註 sequestered 僻遠。 abodes 居所。 uncovered 蔽はれず即ち帽を脱して。 rear 後、殿り。 tribute of respect 即ち敬意。 resumes 取りかへす、やりかへす。

【譯】英國人の氣質を通じて存在し、而して之が爲に其最も人を動かし高尚優美な點を與へる所の憂鬱の性情は、此等の感情的の習慣に於ても、亦普通の人々が名譽あり平和なる墳墓に對して示す願望によりても甚だ明かに知らるるのである。其一生の間に於ては如何に卑賤な生活を送りしにもせよ、賤しき農夫と雖も自分の遺骸に對しては猶多少の尊敬の拂はれんことを熱望して居るのである。サア・トマス・オオバアプリーは“美しく幸福なる乳搾りの乙女”を記すに方りて云つて居る：——“彼女は斯うして生きて居た；そして彼女の念頭に於ける萬



事と云へば、其春に死んで、經帷子の上に數多の花をばかけて貰ひたいことであつた”と。そして常に國民の感情を呼吸して居る所の詩人も亦、絶えず墓に關する此心からの願に注意して居つた。ボオモント及びフレツチャア二氏の“乙女の悲劇”の中にも、傷心せる乙女心の反覆常なき憂鬱を描ける此種の美はしき例がある：——

註 touching 感動する. ennobling 高尚な. grace 優雅. evidenced 明にする. pathetic 感情的の. solicitude 願. honored and peaceful grave 人に貴まれ、人にそこなほれないで、平安無事な墓. lot 運命. anxious 熱望して居る. Overbury (1581—1613) エリザベス王朝の散文家“Milk Maid”は彼が傑作として最も有名なものである. observes 云ふ. care 心配. store 貯即ち澤山の花. stuccke つく. winding-sheet 死骸をまく衣. breathe 呼吸をする. advert 注意する. fond 心に望む. capricious 變り易き. melancholy 憂鬱. broken heart 傷心の.

## 【譯】

彼れは花の咲き充ちた河岸を見ると、  
溜息をついて其腰元に語るだらう、  
“戀する人が其身を堆めるには何たるいゝ  
所だらうと；”  
そして腰元をして其花を抜きとらせて  
死骸の上に撒くが如く己が身の上に撒かせ  
た。

註 stuck は花は咲き喰附いて居る意. lovers 戀する人々. pluck は抜取る. em=them. strew まきちらす. her over=over her. corse=corpse 屍.

【譯】墓を飾る習慣は嘗て一般に行はれたものであつた；<sup>やういふ</sup>杷柳は其下なる芝生を傷けざらんが爲に心して揺れしめられ、墓の周圍には亦常盤木と花とが植ゑられた。其著『シルヴ』に於てエヴリンは云つて居る、“吾等は彼等の墳墓をば、人生の喪章である花や香ばしい植物を以て飾る、其人生は聖書によると萎みゆく花——其根は不名譽の中に埋められても、再び光榮の中に盛えて來る花に比べられて居る”と。此習慣は今日に於ては英國では非常に稀なものとなつてしまつた；然れどもウエエルス山中の僻村の墓場では猶出遇ふことが出来る；そして私はルウゼンの小都に於て其一例を思出すのである、其小都はクリウイイドの美はしい谷の端に在る。私は亦クラモルガンシアの少女の葬式に列席した友人の一人から、お伴の女達は前垂の中に花を澤山もつてゐて、死骸が埋められてしまふと、墓の周圍に押し込んだといふ話をきいたことがある。

註 universally 廣く. prevalent 行はれて. osiers 柳の一種. re-



dolent 香ばしい. being buried....不名譽を蒙つて死んでも. usage 習慣. recollect 思ひかへす. attendant お伴の人. 従者. inter 埋める. Eveylin (1620—1706)

【譯】友人は色んな墳墓が同じ風に飾られたのを見たことがあつた. 花は單に地中に挿込んであつて植付けてなかつたので、間もなく枯れてしまつた、そして萎んだのもあり全く枯れたものもあるといふ風に、色んな風になつて居たんだとか. 此等は其後狗骨木、迷迭香、其他の常盤木に植ゑかへられるので；それらは墓場によると非常に立派に繁茂し、墓石の上に蔽ひかぶさつたものもあるとか.

註 various states of decay 花の萎み方に色々の状態がある. drooping 萎れて頭をたれる. perish かれる. sapplant 植かへる. luxury 贅澤. overshadow 蔭を下ろす.

【譯】以前は眞に多少の詩味ある此等の粗野なる供物を配合するに、悲しき空想があつたものである. 薔薇が時ありて百合の花と混へられ、果敢なき人生の一般喪章とされた. エヴリン曰く、“棘のある枝にさいた此愛らしき花は、百合の花と共に混ぜられては、有爲轉變な不安な果敢なき人生の自然の象形文字である；そは一時はさばかりに美しく見ゆとも、其棘や禍がな

きはあらぬのであると. 此等の花及び花の結へられたリボンの性質や色は、屢死んだ人の性質や物語に特別の關係を有し、或は之を弔ふ人の感情を表はし得るものが選ばれたのである. コリドンの“悲しき鐘の音”と題する古詩に於て、戀人が用ひんとする飾をば詳に記して居る：—

註 fancifulness 空想、工夫の交つたやうな空想. offering 捧げるもの. blend 交へる. frail 弱き. mortality 死ぬるもの. 即ち人間. fugitive 變り易き. umbratile 實在的でない、蔭のやうな. transitory 一時的. cross 禍、危災. referenc 關係. expressive 表はすもの. mourner 弔ふ人、残つた人. specifies 特に記す、詳記する.

【譯】

花輪を作らしめん、  
色いろ々々の花から  
人と自然の力を盡して、  
好意を表はさん爲には、

そして色いろ々々のリボンを  
その上にわれは加へん；  
されど重には黒きと黄なるとをば  
彼女の墓には贈らん。



花にて彼女の墓をかざらん、  
 此までに見た最も珍らしき花にて；  
 そして雨とふるわが涙もて、  
 とはに緑りに新しく生かさん。

註 garland 花環. shall be framed 作らしめん. by art and nature's skill 技巧を盡し自然の美をつくし、即ち選りぬきの美しき花にて巧にかざりて. sundry 色々の. in token of good will 思をこめた記しとしては。

ribands リボンに同じ. bestow 花環の上に加へ置く. with her to grave shall go 黄色と黒い花とを墓の中へ入れてやらん、her は屍なり。

deck 蔽ふ. rarest 最新らしきもの. showers 驟雨. keep fresh いつまでも枯らさぬやうにする。

【譯】聞く所によると、白薔薇は處女の墳墓に植ゑられ、生き残れる人々の悲を表はす爲には、時ありては黒いリボンが混ぜられたこともあるが、大抵處女の清淨なる潔白を表はすが爲に、花環は白のリボンを以て結ばれたのであつた。慈善に對して著しかつた如きものを記念するが爲には折々は赤い薔薇が用ひられたとがあつた。けれども一般には薔薇は戀人の墓場にふさはしいものとされて居た。エヴリンは其當時に於ても、此習慣は全く廢れず、サレイの田舎の彼の住宅附近に於て、“乙女等は年々逝ける

彼等の戀人の墓場に薔薇の叢を植ゑつけて之を飾つた”と語つて居る。そしてカムデンも亦其著“ブリタニア”に於て云つて居る：——“此處にも大昔から、殊には其戀人を失つた若き男女が、墓場に薔薇を植ゑるといふ習慣がある、従つて此墓地は今薔薇の花が一杯咲いて居る”と。

註 chaplet 花環. spotless 無垢の. innocence 潔白. intermingle 混ぜる. bespeak 表す. survivor 生存者. in remembrance 記念に. benevolence 慈善、恩恵. appropriate 適用する. extinct たえる. defunct 死んだ. Camden (1551—1623) エリザベス王朝の歴史家. remarks 記す. observed 守られた. time out of mind わからぬ昔. by the young の by は observed にかか

【譯】死人が若し其戀に於て不幸であつた場合には、櫟とか扁柏とかの如き、更に陰氣な性質の表章が用ひられた；そして若し花が撒かれる場合には、その花は最も悲しげな色のものであつた。かくてトマス・スタンレイ氏の詩(1651年出版)中にも下の一節がある：——

“されど撒けよ

わが陰氣なる墓の上に  
 汝がもてるが如き供物を、  
 抛げすてられた扁柏や悲しき櫟の如き；



何故ならば愛らしき花は斯かる不幸な墓  
よりは、

生れも生ひもすること出来ねば。”

註 character 性質. yew も cypress も 古來陰氣な植物として  
葬式に用ひたり. Thomas Stanley (1625—1678) 抒情詩人.  
dismal 陰氣な. offerings 供物. as you have 持合せて居るや  
うな. forsaken 見すてられた. kinder 愛らしい意.

【譯】“乙女の悲劇”の中にも失戀に陥つた女ど  
もの葬式を飾るの方法を示すに足るべき悲し  
い小曲が載せてある：——

陰氣な<sup>いい</sup>櫛の花環をば

吾が柩の上に置きたまへ、

乙女子達よ、柳の小枝をかざせよ、

吾は眞を守りて行きぬと語れ。

吾が戀人は偽りであつた、されど吾は

生れしこの方堅き心なるぞ、

吾が埋められた體の上に

軽く置けよ、やさしき土よ

註 pathetic 悲しい. air 曲. illustrative 證明する、示す. disap-  
pointed 失望落膽した. refuse 拒. wear 乙女達も柳の枝を  
つけてあはれと思召せ. say I died true 眞の人をして戀  
人に對して眞を守りて死んだと人に語れ. false 愛す  
といつて偽であつた. firm 確實、變らぬ心。

【譯】死者に對する悲の自然の情は人心をして純

潔高尚ならしめる；而して此等の葬式に於ける  
觀察に現はれたる、純潔な感情と無垢なる美  
はしき思想とに於て之を證明することが出来る。  
かくして愛らしき香氣のある常盤木と花  
の外には何物も用ひられないといふのは、まこ  
とに特別の注意がある。此等の主意といふの  
は、墓の廻りの恐ろしさを和げ、或は消えゆく人  
間の醜態について焦慮せしめざらん爲に人の  
心を欺き、或は自然界に於ける最もやさしき美  
はしきものを以て、死人の記憶を連想せしめん  
とすることにあつたらしい。そも墓場の死骸が其  
新しき元の土にかへるに先つては、極めて厭は  
しき順序が墓の中にて行はれるのであつて、之  
を想像し思考せんことは身震いのするもので  
ある；故に吾等は猶人の死後に於ても、其人の  
若くて美しく、花の如くであつた際に、吾等に  
起させた優雅な聯想を以て、其昔愛した人々の  
形をば考へんとするのである。

レアアチズは其未婚の妹について“彼女を土  
に埋めよ”と云つて更に曰く——

“そして彼女の美はしき汚れなき肉から  
堇の花の生え出でかし！”



註 effect 情といふ如し. an affected elegance of thought けがれなき優しき思想. pervade 通ずる. observance 觀察. these 上にあげたやうなといふ意. precaution 注意. horros 戦慄. 恐ろしさ. beguile 欺く、偽る. brooding 焦慮する. disgrace 醜態. perishing mortality 死んでゆくもの即ち死人. Kindred 親類の、塵の身といふ故なり. imagination shrinks from contemplating 想像が考へることから慄へるといふは、思つてもぞつとする意. association 聯想. Laertes は沙翁戯曲“ハムレット”中のオフエリア姫の兄. Virgin sister はオフエリアのことなり. unpolluted 汚れない.

【譯】ヘリツクも亦其“ジェフサの哀歌”の中に於て、生者を追想するに方りて、幾分か死者を忘れざるに足らしむべき詩的思想と想像との香ばしき流を投じて居る：—

註 fragrant flow けがしき思想の流れ. in a manner 幾分か. embalm 香油を用ひて死人の體の腐敗を防ぐことを云ふのであるが、要するに生存者が永く死者を忘れざらんとすること、猶其屍を香油にて存すると同じと云ふ意味である. recollections 追想.

【譯】平安の中に香料の寢床に眠れや、  
そして此處をば凡て天國となせ；  
やさしき花も此處に生へよ！そして  
乳香も此處から香れや。  
バルムとカシヤとをして其香を  
乙女の墓より送らしめよ。

\* \* \* \* \*

恥かめる有ゆる乙女達は、いつもの時に  
來りて花をば汝が墓に撒けがしな！  
女の肌知らぬ男達が弔はんとて來ん時は  
汝の机の上にて香をばたきて、  
やがて汝の壺の中に眠れる  
汝の側より靜に立去り歸らしめよ。

註 frankincense 乳香. balme 一種の香ある植物. cassia 月桂樹の一種. maiden monument 即ち乙女の墓をいふなり. wonted hours 慣れた時. Male は Virgins にかゝる男の處女即ち女の肌を知らぬ若き男. incense 香. urn 壺. 死人の屍を入れたものなり.

【譯】古代英國詩人の詩句を引用して吾が頁を埋めんことは容易なことである、蓋し此等の儀式が更に一層流行せる時代に於て筆を執り、又屢此等の儀式を説くことを意としたが爲である。けれども私は既に必要以上に之を列記した。而も猶私は沙翁の一節をあげることを禁ずることが出来ぬ、よしやそれが常套と見えんとも、此等の死の供物は含まるる表象的の意味をば例證し、同時に沙翁が以て優越の地位に立てる詞句の玄妙と想像の適切とを有する句なるを以てである：—

註 extracts 引例. rites 儀式. prevalent 流行する. allude 關係する、譬へる、意を寓する. more than necessary 必要以上、入



りもしないほど. refrain 禁ずる. trite 常套, 尋常一様  
 emblematical meaning 表象的の意味. tribute 貢物, 供物.  
 floral 花の. magic 妙趣. appositeness 適切. imaginery 想像.  
 pre-eminent 卓越.

## 【譯】

“美しき花をもつて,  
 憂の續く限り, 私の此處に居る限り, フィデル  
 よ,  
 君が悲しき墓を飾らん; 君は缺がざらん,  
 君が顔に似たる花蓮馨花をば;  
 又君が姿に似たる蒼色の沙參をも;  
 否々桂の葉をも缺がざらん; 此等をば  
 誹らぬにしても, ととても君が息の美しさにも  
 及ばぬ。”

註 此等の句は沙翁の戯曲キンペリンの始にあり. Fidele  
 の實の名はイムモナゲン. sweeten 美しく飾る. lack 缺  
 ぐ即ちなきにくるしむ. azured 蒼空の色. veins 態度, 姿  
 態. whom not to slender 誹り悪く云はぬにしても. whom  
 は前にあげた色々の花などを指す. out sweeten 美しさ  
 に於て優る.

【譯】 技術をこめた最も高價な石碑などに於てよ  
 りも, 此等の速座の自發的の自然の供物に於て,  
 確かに今一層の感情のあるものである; 人情  
 温かくして手は花を撒き, 愛戀の情が柳の枝を  
 墓土の周圍に結ぶ時には, 墓の上に涙が落つる  
 のである; けれども強き哀切の情も, ゆるゆる

と刻む鑿の勞力の下には消え去り, 彫刻された  
 大理石の冷たき虚飾の間には冷めるのである.

註 prompt 速な. spontaneous 自發性の, 自然の心から出た.  
 costly monuments 金をかけた墓の如きを云へるにて, 此等  
 よりも人情の速かに現はれた花なぞが美しいといふ  
 意なり. osier 柳の一種. sod 土墓場の意. phatthe 愛墓の  
 情. expire 消え去る. slow labour ゆる々々と石などを刻  
 んで居る間には深き情は消えてしまふ. conceits 虚飾.

【譯】 斯の如く眞に優雅にして, 感動的なる習慣が  
 一般には行はれないやうになつて單に最も避  
 遠の村落にのみ存するといふのは甚だ残念な  
 ことである. けれども恰も詩的習慣といふも  
 のは常に教化ある社會の範圍を脱するが如き  
 感あり. 人間が禮儀正しくなるに従つて次第  
 に詩的でないことになる. 彼等は詩を口には  
 する, されども彼等は自由なる詩的衝動を抑壓  
 することを學び, 突進し來る感情を控へ, 最も人  
 の心を動かす畫の如き風習に對して, 繁雜なる  
 形式とけばけばしき儀式を供給することを學  
 んだのである. 英國の都會に於ける葬式ほど  
 立派で冷淡な壯觀が何處に在らう. そは見せ  
 物と陰鬱な飾とより成つて居る; 弔ひの馬車,  
 弔ひの馬, 弔ひの羽冠, そして悲哀の眞似事をす  
 る備入れの弔者などより成るのである. ジエ



レミイ・テエラア曰く、“墓が掘られた、そして嚴かなる葬ひ、そして近隣に於て大きな物語、そして日が過ぎて了へば、彼等死者は最早記憶にも残らざるなり”と。愉快にして人の多い都市に於ける交友は、直ちに忘れ去られてしまふものである；新しき朋友と新しき快樂とは忙がはしげに相續いて來りて、吾等の心から死人をば消し去つてしまひ、生前に於て彼が活動して居た舞臺も團體も、絶えず浮動しつゝあるのである。けれども田舎に於ける葬式は嚴格にして潔き印象を残すものである。一人の死の打撃は村の團體中に廣き空位を生じ、田園生活の平靜なる統一に於ては恐るべき出來事であるのである。過ぎ行く鐘の音は何人の耳にも響き互り、野にも山にも廣まり行く悲しさは密かに傳はり行きて、田園の光景をして悲哀の調を帯びしめるのである。

註 disappeared from general use 一般に用ひられなくなる。in-significant 重大ならぬ。walk 範圍。cultivated society 上流 in proportion 割合に、比して。polite 禮式ばる。impulses 衝動。distrust 控へる。sallying 突進する、心に盛に湧き起る。usage 習慣。studied form 色々研究した形式。pompous げげげげしき。ceremonial 儀式。pageants 飾。stately and frigid 壯麗にして冷淡。show 飾。parade 飾、壯觀。plumes 色々の

衣冠につかふ鳥の羽。hireling 傭入れた。mockery 真似。Taylor(1613—1667)名僧なり。daies=days 古い形なり、日経ると忘れらるゝを云へるなり。associate 交友。intimates 友人。effaces 消す。him 死人をさす。scenes 色々の周圍の光景。circles 團體。fluctuating 動搖する、變化する。impressive 感じの深い。space 空位。awful 恐ろしき。tranquil 平靜な。uniformity 一村の統一即ち全村皆平靜なる意。tolls ひゞく。knell 鐘の音。steal 静かに傳へる。pervading 傳はりひろがる。melanchory 悲哀。saddens 悲しくする。landscape 田園の光景。

【譯】田園のきまりきつて變化なき光景も亦嘗ては共に賞美した友の記憶を永續させる：友は即ち最も隠れた散歩の伴侶であつて、寂しき光景に對して生氣を與へた所のものであつた。彼が思想は自然の有ゆる美と通じて聯想を起し；彼が嘗て喜こんで起したことのある山彦を聞いては、彼の聲を耳にする如き心地し；彼が魂は嘗ては屢訪れた森に遊び；荒れたる寂しき丘に於ても或は谷間の美しき物思に於ても彼を思ふ。喜ばしき朝の新鮮の中には彼が光り輝く微笑と躍るが如き愉快さとを憶ひ；嚴肅なる夕暮が集る蔭と壓するが如き静けさと共に歸れば、吾等はやさしき物語と柔かなる憂鬱の宵々をば思ひ出すのである：—

註 perpetuate 永續する。gave animation 寂しき景色に生氣を



與へた. associate 交通する. charm 美. awaken 眠つて居る  
反響をさますとは、反響を女神の一つと例へた神話に  
基づくのである. haunts よく其所へ行く. pensive 物を  
思はせる美、即ち美しさに物思ふ時の意. hounding はれ  
あるく. sober 夕暮は朝に比して甚だ沈んだものなり.  
subduing 天地を壓する.

【譯】さびしき場所毎に彼を思ひ出さしめ、  
涙は彼の爲に正しく流されん；  
人の世が最早喜ばしめ得ぬまで戀ふて、  
憐の心の死ぬるまでなげきて。

註 lonely...restore 淋しき處に行く毎に彼を思ひ出して. shed  
流す. life...no more 人の世が心を喜ばさぬやうにな  
るまで、世の何事も面白くなくなるまで戀して. self心.

【譯】田舎に於て死者の記憶を永續せしむる他の  
原因は、墳墓が都會に於けるよりも遙に生存者  
の眼前に近くあるといふことである。彼等は  
祈禱への途上に之を過ぎり、信心の行ひにより  
て心の柔いだ歸り途にも之を見る；彼等は亦  
日曜日には其邊りを迂路迂路し、此日には其心  
を浮世の俗事から離して現世の悦樂と愛戀か  
ら心を外に向け勝ちにて、過去の嚴肅なる紀念  
物の前に膝かんとするのである。北部ウエ  
ルスに於ては農夫等は埋葬後の日曜の數度を  
ば、逝ける友達の墓邊に膝づいて祈禱するので

ある；そして花を撒いたり植ゑ付けたりする  
やさしき儀式が、今も猶ほ行はれて居る所では、  
復活祭日聖靈降誕祭日及び其他の祭日には、此  
儀式は必ずくり返され、之によりて前のお祭の  
友達が明かに憶出さるるのである。此儀式は  
また必ず親戚友人によりて行はれ；下僕や傭  
人などは決して用ひられず；若し隣人が救助  
を與ふることあるとも、之に對して報酬を呈す  
ることは無しと考へられて居るのである。

註 immediately in sight 直ぐ眼につく. survivor 生存者.  
exercise of devotion 信心の行ひ. linger あちこちとあるく.  
Sabbath 日曜日. disengaged 従事せぬ. worldly cares 俗事.  
mementos 紀念物. several 數回. interment 埋葬. rite 儀式.  
it is renewed の it は儀式にて、新しく行はる意. Easter 大  
抵四月の二十日頃. whit-suntide イイスマア後の第七日.  
companion of former festivity 前の祭の時には誰れ々々が居  
たと云ふ風にして死人を思ひ出すなり. invariably 必  
ず. menials 下僕. hirelings 傭人. assistance 助力. insult  
無禮. compensation 補償、報酬。

【譯】以上此の優美な田舎の風習に就いて論じた  
のは、此の事が人間の末期のことに關して居る  
ので、愛情のうちでも一番神聖な務めの一であ  
る。墓場と云ものは眞の愛情があるかないか  
を試す探湯の場所である。人の心の純潔な愛  
情が單なる肉慾の本能的衝動に優つて居るこ



とを表示して居るのは實に此墓場である。肉慾は常に實物を前に置いて心身を慰め活動して居るのであるが；精神的の愛情は長い追憶に依つて生きて居るのである。肉感の單なる度合はその肉感を刺激する快美と共に消長し、一方が墳墓といふ陰氣臭い境界に入ると厭がつて身震ひして逃げ行くのである；然しながら眞の精神的愛情は此の墓場から起るので、而も一切の肉感的慾望から淨められ、さうして生残つた者の胸をば恰も御燈明のやうに照らし清めるのである。

註 dwelt upon 長く論ずる。holiest offices 最も神聖な務。ordeal 昔の判罪法で、熱鐵を握らしたり或は熱した犁頭を歩かしたり、或は熱湯の中へ手を入れさせて傷かぬのを無罪とし傷いたのを有罪とするのである。我國の昔の探湯の類である。It is there 實に此の墓に在る。devine 神聖な。manifest 表示する。superiority 優つて居ること。instinctive impulse 本能的衝動。animal attachment 獸慾。latter 後者、獸慾をさす。continually 常に。refresh 爽快にする、心身を慰める。alive 活動して居る。presence 前に置く。seated 固定した。remembrance 追憶。inclination 度合。languish 衰ふ。decline 消える。charm 快美。shuddering 身震ひして。disgust 嫌惡。dismal 陰氣臭い。precinct 境界。tomb 墓。thence 其處から。sensual desire 肉感的欲望。holy flame 御燈明。illumine 照らす。sanctify 淨める。survivor 遺族、生き残つた者。

【譯】死者に對する悲哀の念は吾人が忘れまいとする唯一の悲哀である。外の疵は一切之を治さうと思ひ、他の苦痛は一切之を忘れやうと望むけれども；此心の疵だけは其儘に残し置き、此の心の苦みだけは吾人は人知れず胸に藏め之を抱くが義務だと思つて居る。假令一切の追憶は涙の種とならうとも、落花の如く我が腕より消え去つた我が幼兒をば忘れやうと思ふ母は何處にあるか？ よし回想は唯悲歎となるに過ぎなくとも我が優しかつた兩親をば忘れやうと思ふ子は何處にあるか？ 又如何に苦痛の時でも我が亡き友を忘れやうとする者は誰かある？ よし戀人の遺骸の上に墳墓が作られ、宛ら我が胸がその入口の閉られるのにうち碎かるゝ思がしても、それをば忘れて慰藉を得やうと思ふ者は誰かあるか？ 然り、死者を弔ふ愛情こそ人の心の一番貴い性質の一つである。こは一方に悲痛を有すると同時に、一方では又快樂を有して居る；さうして悲哀の慟哭が漸く優しい追憶の涙に靜まる時、又は吾人の最も愛した者が目前に失せたのを見て、突然に苦み、震動的に悶えたのが、その戀人の優しかつた生



前を黙念として回想するためにうち軟らげられる時、誰か斯様な哀傷の念をば胸より取り去らうとする者があるか？ 時には愉快に浮かれて居る時に愁の雲が通りかゝることがあろう、又氣のめいつた時に愈々悲さが増し深くなることもあろうけれども、誰か之を捨て、享樂の歌に耽り酒宴に騒がうとする者があるか？ 然り墓から漏れる聲は歌よりも涼しいのである。死者を追憶する念は生きた美人に恍惚として居る眼をすら轉せしめることがある。あゝ墓場よ！ 墓場よ！ 墓場は一切の過失をも埋め、一切の缺點をも蔽ひ、一切の怨恨をも消すのである。その穩かな胸から起り來るものは優しい後悔と温かい追憶ばかりである。よし生前仇敵であつたものゝ墓に對してすら、自分は今自分の前に腐つて横つて居る一掬の土塊つちくれと争つて居たのかなあといふ悔恨の涙を感せずして見ることが出来るものが誰かあらうか？

註 refuse 拒む. divorce 離れる. heal 治す. affliction 苦痛. cherish 胸に蔵める. brood over 抱く. solitude 孤獨. infant 幼児. perish 消える. pang 苦痛. lament 悲歎. agony 苦痛. mourn 弔ふ. remains 遺骸. crush 粉碎する. portal 入口, 門. accept 受ける. consolation 慰藉. survive 生き残る. attribute

屬性. woe 苦痛. overwhelming burst 働哭. calm 静まる. anguish 苦悶. convulsive 震動的. agony 苦痛. present ruin 眼前で失せる. pensive 黙想の. root 根を抜く. the bright hour of gaiety 愉快にうかれて居る時. the hour of gloom 氣のめいつた時. exchange 換へる. burst of revelry 酒宴の騒. charm of the living 恍惚たらしむる生物、生きた美人. bury 埋める. defect 缺點. extinguish 消す. resentment 怨恨. its peaceful bosom 墓場の穩かな胸. fond regrets 優しい後悔. compunctions 怨恨の. throb 鼓動. wrangled 争うた. handful of earth 一掬の土. moulder 打ち崩れる.

【譯】けれど吾人が愛敬した者の墓場、此ぞげに冥想に適する處！ 貞潔、柔和さては生前日々相親しく交つて居た間には吾人が殆ど念頭に置かずして打ち過したその幾多の慈愛の全生涯をば永久とこしへに追憶する處はげに墓場である； そのいまはの光景のやさしく、嚴かに、又氣味の悪かつたことなどを回想する處はげに墓場である。その息もつまるやうな悲哀、その寂然たる附添、その默然たる看護を有する臨終の床！ 今や息を引き取らうとするいとしき人の名残の言葉！ 力なく、うち戦きつ、ぞつとするやうな（おゝぞつとするやうな！）握手！ もう一言やさしい言葉を残さうと間際にもがきながら發するそのかすかな口籠つた聲！ 人生の敷居をまたいで居



ながら、猶も透き徹つた眼まなこの眞心籠つた最後の  
一聲!

註 meditation 冥想. review 顧みること、追憶. whole history 全生涯. endearment 慈愛. lavish 冗費する、何とも思はずに過す. unhead 念頭に置かず. daily intercourse of intimacy 日親しく交る. dwell upon 論ずる、こゝでは思ひ廻らす. solemn and awful 肅然として襟を正すやうな. parting scene 臨終の光景. stifled griefs 息のつまるやうな悲み. mute 無言の. assiduity 看護. testimony 陳述. expiring 息を引取る. fluttering おつ 戦く. thrilling ぞつとする. pressure of hand 握手. faint かすかな. faltering 口籠る. assurance 確言. glazing eye 透き徹つた眼. threshold of existence 人生の敷居、正に死の門に入らうとして居る境.

【譯】あゝ、葬られたいとしい人の墓場へ行つて黙想せよ! さうして諸君が酬ゆることの出来なかつた生前の恩義と顧みることの出来なかつた生前の親切とを諸君の良心に問うて見たがよい、死んだ者は諸君の悔悟に依つて慰られやうと歸つて來ることは決して——決して——決してない!

註 buried love 葬られた戀人. Settle the account 計算する、良心に問うて見て善行と悪行との多少を勘定する. benefit 恩義. unrequited 酬いられない. endearment 慈愛、親切. unregarded 顧られない. departed being 死人. sooth 慰む. contrition 悔悟.

【譯】若し諸君は子であるならば慈愛深い親の心

に愁をば増さしめ、其白銀の額に皺をば加へたことがないか; 若し諸君が夫であるならば、諸君の腕かひなにその全身の幸福を捧げた優しい妻の胸に一瞬たりとも諸君の親切と眞實とを疑はしめたことがないか——若し諸君が友人であるならば、諸君を信任して居る人を、或は心に於て或は言葉に於て或は行ひに於て蔑んだやうなことがないか——若し諸君が戀人であるならば、今や諸君の足下に冷たく靜かに横つて居る誠心の人に對し不當な苦痛を與へたことがないか——若し然ういふことがあつたとしたら、その不親切な素振、その不愉快な言葉、その粗暴な行ひは、一々必ず諸君の記憶に集り來つて、悲しく諸君の胸奥をば打つのである——若し然ういふ時には、諸君は墓場に行つて跪いて悲み且つ悔み最早聞かれない呻吟の聲を立て、最早甲斐のない涙をば流すであらう: 聞かれぬが故にその悲は深く、甲斐のない故にその涙はつらいことであらう.

註 furrow 皺. affectionate 慈愛の. cause 惹起す. wrong 蔑む. confide 信任する. unmerited 不當な. pang 若痛. ungracious 不愉快な. thronging 群集する. dolefully 悲しく. repentant 悔む. groan 呻吟. unavailing 甲斐のない.



【譯】その時諸君は花環を作り、さうして墓の邊りに自然の美をば撒け；斯くして出来ることなら、甲斐もない後悔の貢物たる此等の優美な物を以て諸君の斷えなんばかりの心をば慰めよ；けれども死んだ人に對するこの痛恨の苦しさに懲りて、これからは生きて居る人に對しては忠實且つ親切にして諸君の義務を果せ。

註 chaplet of flower 花環. strew 撒く. console 慰める. futile 無益な. tribute 貢物. warning 警戒する. contrite 悔める. affliction 憂目. discharge 履行すること。

【譯】以上述べた處は、必ずしも英國の農民間に行はれる葬式の風習をば細大漏さず書いた譯ではない、之に反し單にそのうちで、一種の特有な葬式を説明するに足るべき二三の暗示と引用の詞句とを添へたに過ぎないので、實は公にしなかつた他の文章の附言の積りで書いて置いたのである。それが知らず識らずかういふ風に容が殖えて來たのである；葬式に就いては他にも十分に研究を盡した著書もあるのに、これはほんの概略の、一時の思ひ付きで書いたものであるといふことを辯解して置く。

註 detail 詳細. furnish 供給する. illustrative 説明する. rite

儀式. append 添へる. by way of note 附言のつもりで. withheld 控へて置く、公にしない. swell 膨れる. insensibly 知らず知らず. apology 辯解. brief 簡単な. casual 偶然の. usages 風習. investigate 研究する。

【譯】尙ほ余が一言せねばならぬことは、花を以て墓を飾る風習は、英國のみならず他の國々にも流行して居ることをよく知つてあるといふことである。實際、國に依つては一層廣く行はれ、富豪や上流社會の人も之を守つて居る；然しかういふ場合はその質素といふことを失つてしまつて、虚飾に陥るものが多い。彼のブライト氏はその低地匈牙利の旅行記に大理石の紀念碑のこと、温室の植物の亭の中に席を設けてある隱宅のこと、又墓が一般に時節時節の美しい花で蔽はれて居ることなどを述べて居る氏は又とある親孝行の一例を擧げて居る。女性といふもの、優しい美性を示すに必要であり又面白いと余は信ずるから茲に抄録しよう。氏のいふやうには“余がベルリンに居た時、彼の有名なイツランドの葬式に赴いた。その間少誇張して居る中にも必ず真情の溢れて居るのが認められた。葬式の最中、余は近頃芝で蔽はれた土饅頭の上に立つた少女に眼がとま



つた、その少女は土饅頭をば多くの通行人の土足に踏まれまいと氣つかはしさうに努めて居たのである。その土饅頭はこの少女の墓であつたのである、さうして此の情の温かい娘の姿は高價を拂つて拵へた工藝品よりも、遙かに人の心を動かす紀念碑であつた。”

註 observe 述べる. adorning 飾る. prevail 流行する. degenerate 陥る. affectation 虚飾. recesses 離れた所. retirement 隠居. fower 亭. greenhouse 温室. casual 偶然に. filial piety 親孝行. transcribe 抄録する. illustrate 説明する. amiable 優しい. celebrated 有名なる. Iffland 有名な俳優. pomp 誇張. mound of earth 土饅頭. turf 芝土. protect 保護する. tomb 墓.

【譯】余は嘗つて瑞西の山間で見た墳墓裝飾の一例を加へて止まう。それはジェルサウといふ一つの村でリジ山の麓なるルウセルン湖邊にあるのである。嘗つて此の村は一小共和國の首都であつたので、アルプス山と此の湖との間に挿まつて、唯一つ細徑ほそみちで近隣の地方へ通することが出来るのである。その共和國の總體の兵力は僅かに六百人の兵士を超えないのである、さうしてそのたつた數哩の周圍は恰も山の胸から掘り出されたやうにその土地を抱括して居る。ジェルサウの村は他の世とは全くかけ離れて、古の尊むべき質樸の風を存して居る。

一つの小さな寺があつてその附近に墓地がある。墓の頂には木か鐵で拵へた十字架を置いてある。中にはその表面に小さな畫像を添へてある、極めて粗末な出来ではあるが、明かに死者の似顔であるに違ひない。十字架の上には花環をかけてあるが、屢々之を取更へる者があると見え、中には枯れたのもあり、新しいのもある。余は此の光景に一種の興味を感じて立ち止つた；何となく詩歌の源泉にあるやうな思がした、何せかといふに此等は詩人の書くことを喜ぶ處の人情のありの儘なる美しい供物である。一層楽しく一層人口の多い處であつたなら、余は此等の習慣をば書物から學び得た人工的感情と思つたであらうが；ジェルサウの良民は殆んど書物といふものを知らぬ；此の村には小説もなければ情歌もない。それで余は此の土地の農民が、その戀人の墓のために新しい花環を編む時でも、自分が詩思に富んだ儀式をして居ることや又自分は實際に一つの詩人であることを夢想して居るか何うかを疑ふ。

註 instance 例. sepulchral decoration 墳墓裝飾. bordens 邊. capital 首都. miniature republic 小共和國. accessible 近かれる。



foot-path 細経. force 兵力. exceed 起える. circumference 周囲. scoop out 掘り出す. comprise 包括する. territory 地方. adjoining 附近. affix 添へる. miniature 小さな畫線. execute 出来. withering 萎れる. source 源泉. poetical description 詩的記述. unaffected 有りの儘の. offerings 供物. factitious 人工的. dreamt 夢見る. twining 編む. rite 儀式. poetical devotion 詩思.

## 宿屋の廚

“宿屋へついたらゆつくりしないだろうか?”

フォルスタフ

【譯】余は曾つて和蘭を旅行した時分に、或日の夕暮フランダアの一小村のボム・ド・オルといふ一等の宿屋についた。會食の時刻が過ぎて居たので余は止むことを得ず其の大きな食卓の殘物でたゞ一人夕飯を食つた。風は冷たかつた；余は獨り大きな陰氣臭い食堂の端の方に坐つて居た、さうして食事が終ると扱てこれから此の佗ひしい長夜をば景氣つけるやうな何か著しい方法がなくては何うして過さうかと考へた。そこで余は宿屋の主人を呼んで何か讀むものがないかと尋ねて見たら；主人は家中かき探して、和蘭語の聖書、同じ語の曆、それに巴里の古新聞を幾枚かを持つて來た。余はその古新聞の一紙を擴げて、古臭い批評などを讀みながら居眠りして居るうちに廚の方からと思ほしくどつとばかりに笑聲が耳を劈いた。大陸の旅行をした者は誰でも田舎宿屋の廚が中等若くは下等の旅客に取つては此の上もない集會所であるを知つて居る；殊に天氣の



はつきりしない、火が好ましくなる夕方頃には愈々然うである。余は新聞紙を投げ捨て、廚への道を探して、その楽しさうにして居る一群の人々をば隙からのぞいて見た。その半分ばかりは旅の人で數時間以前に乗合馬車でこゝへ到着したもので、又半分は宿屋の下男なり居候なりであつた。彼等は磨いてある大きな暖爐まはりの周圍に坐つて丁度寺の祭壇に禮拜して居るのかと間違へらるゝ位である。暖爐の上は光つて居る種々の厨皿のつが載かつて居り、その真中に大きな銅の茶釜ゆわかしが湯氣を立て、シューシューと鳴つて居る。大きなランプがその人々の上へ強い光を投げかけて、澤山の變挺な姿がくつきりと浮上つて居る。その黄い光線きいろが廣い廚の一部分だけを照らして居るばかりで、その遠い隅つこの方になると朦朧ぼんやりと消えて居る；唯鹽豚の廣い脇腹が強く光り或はよく磨いた器具の上に反射して暗闇の中からきらめいて居る。脊の高いフランダアスの娘むすめ子が居て耳には長い金の耳環みわを懸け、又金製の心臟形のものをを吊した首輪をつけて居るが、丁度寺の尼さんのやうである。

註 Falstaff 沙翁の劇曲オセロの中に出る人物。 Shall I not take &c? 宿屋へついたらゆつくりせぬだらうか、無輪ゆつくりする。 Netherland 和蘭。 Pomme d'Or ホムドオルと讀む、佛語にて Golden Apple の意。 principal inn 一等の宿屋。 Flemish フランダアスとて和蘭の一部。 table d'hôte 佛語。 規定の値段で各人一樣に食ふ食堂或は食事、出來會の會食。 solitary 獨り。 relics 殘物。 ampler 廣い。 board 食卓。 weather 風。 repast 食事。 had the prospect 前途を持つたとは、これから先何々の事をしなければならぬといふこと。 dull 佗しい。 visible 著しい。 enlivening 活氣つける。 summon 呼ぶ。 host 宿屋の主人。 whole literary stock &c 家中極きさがして。 almanac 曆。 dozing 眠る。 stale 古臭い。 continent 大陸。 resort 集會所。 equivocal はつきりしない。 agreeable 好ましく。 explore 探す。 peep 覗く。 diligence 乗合馬車。 attendant 下男。 hangers-on 居候。 burnished 磨いた。 altar 祭壇。 worshipping 禮拜。 vessel 皿。 resplendent 輝く。 hiss シューシュー云ふ。 copper 銅。 tea-kettle 茶釜。 odd 變挺な。 relief 浮彫刻。 illumine 照る。 spacious 廣い。 duskily ぼんやりと。 mellow 陽氣な。 radiance 光。 fitch of bacon 鹽豚の脇腹。 well-scoured よく磨いた。 utensil 器具。 obscurity 暗闇。 strapping 脊の高い。 lass 若い女。 pendants 耳環。 necklace 首輪。 suspend 懸ける。 presiding priestess 監督の尼。

【譯】此の連中の多くは煙管を携へて、大抵は晩酌をきこしめして居た。彼等が興に入つて居る譯は、乾からびた顔に大きい口髭のある一人の色の黒い佛國人が惚け話をして居るのだといふことが分つた；その物語の終る度に彼等が遠慮もなくどつと笑ひこけるのである、兎角人



間といふものは慙ういふ眞の自由の寺ともいふべき宿屋では氣樂なものである。

註 furnish 備へる. potation 飲酒. mirth 歡樂. anecdote 逸話. swarthy 色の黒い. weazen したひた. whisker 口髭. love adventure 惚け話. unceremonious 遠慮のない. indulges 我儘に耽る.

【譯】余はこの風の吹き荒む退屈な夕を過すに他によい方法もないので、暖爐の側に座をせめて、旅人の種々な話に耳を傾けたが荒唐無稽な話もあれば、又大抵は面白くもないことばかりであつた。それで多くは覺えて居らぬが唯一つ余の記憶に残つて居るので、余は敢へて之を述べやうと思ふ。然しながら此の話の面白かつたことは之を物語つた男の語振りと特別な身振様子にあつたのかも知れぬ。その男はよく肥つた年寄の瑞西人で、老練な旅人らしかつた、身には穢きたない緑色の旅行服を着け、腰の廻りに幅の廣い帯をしめ、しり臀からくるよし踝まではたん釦のついた上股引を穿いて居た、その容貌はふつくらとして赤みを帯びて二重顎の、鷲のやうな鼻の、愉快さうにぱちぱち眼の光つた男である。その髪は薄く、頭の一方に載せた古い緑色の天鷲絨ビロードの旅行帽の下からちらりと縮れて居る。一度ならず二三度も客の到來や聽手の質問に妨げられて;

又時々煙管に煙草を填めるために中休をし; 斯様な時は大抵大さう丈夫さうな下女に色目を遣つてゐる冗ふざけ戲を云つて居た。

註 tedious 退屈な. blustering 風の吹き荒む. extravagant 無法な、荒唐無稽な. dull 面白くない. fade 萎む. treacherous 頼りない. endeavour to relate 敢へて述べる. derived 由來する. zest 妙味. narrator 話手. corpulent 肥つた. veteran 老練な. tarnished くすぶつた、穢い. travelling-jacket 旅行服. broad 幅の廣い. belt 帶. overalls 上股引. hip 臀. ankle 踝. rubicund 赤みを帯ひた. chin 顎. aquiline 鷲のやうな、ロオマ風の鼻と同じ. twinkling ぱちぱち光る. light 薄い. curl 卷く. velvet 天鷲絨. stuck on はりつける、しつかと載せる. interrupt 妨げる. more than once 一度ならず二三度も. guest 客. remark 質問. auditor 聽手. pause 止まる. now and then 屢々. replenish 填める. roguish ふざけた. leer 色目. sly joke わるふざけ. buxom 丈夫さうな. kitchen-maid 下女.

【譯】讀者は老いた一人の男が大きな肘掛椅子に轉りながら片腕を張り出し、他の腕には銀の鎖と絹の流蘇ふきを飾つた純粹のメンヨン製の妙に振れた煙管を持ち、其の頭は一方に傾け、さうして屢々時々奇妙な眼附をしながら次のやうな物語をしたことを想像して貰ひたい。

註 lolling 轉る. akimbo 張り出す. twisted 振れた. e'cume de mer 佛語であつて、マケネシヤ性の土である、白く柔かく、煙管を捲へるに用ふ. decorate 飾る. tassel 流蘇. cock 上向けになる. whimsical 奇妙な様子.



## 幽 霊 婿

旅行者の物語。

彼れ其人の爲に晚餐の用意される、  
其彼は今宵甚だ冷たくなつて居る！  
昨夜私は彼を寢間に案内した、  
今夜劍は彼の寢床となつた。

サア・イイガア・サアグラハム・及びサア・アレ  
エスチイル

註 He that...dight=he for that supper is dressed にて dress は仕度するなり。lyes は横はる。trow=think. yestreen=Yester evening 昨晚。Gray-steel は劍の意にて作者の名と通はせたるいたづらか。

【譯】メエン川とライン川との會流する所から遠からざる上獨逸の荒れた古蹟に富んで居るオオデンワルドの高地の頂上に、昔し昔し大昔にフオン・ランドシヨオト男爵の城があつた。今は全く荒廢に歸して、殆んど山毛櫨や茂つた樅の樹の間に隠れて居る；けれども其上に、其古い望樓は猶見えて居る、私の述べた昔の主人の如く傲然たる頭を動かし、附近の周圍を見下ろさんとあせりつゝ、

註 romantic 古蹟など多きを云ふ。Upper Germany 獨逸は地

勢の上から上下に分る。confluence 流れの合する所。many years since 數年前、since は ago と同じ。to carry a high head 傲然として主人が其人々を見下ろしたが如く望樓のみが附近を見下ろさんとするものゝ如く變ゆるといふ意。

【譯】男爵はカツツエンエルレンボオゲンの大家族の衰へた支族にして、財産の遺物と共に其祖先の傲慢をも相續したのであつた。戦争好きな彼の祖先の性質は、其所有<sup>ものは</sup>甚だ減縮したれども、男爵は猶幾分か舊時の状態を持續せんことを努めた。時代は平和であつた、そして獨逸の貴族等は、一般に山間に鶯の巢の如く作られたる不便なる舊城を放棄し、田野に於て更に便利なる邸宅を建築したるに係らず、男爵は猶世襲的の頑固によりて、有ゆる<sup>は</sup>來の一家の積怨を抱きながら、彼の小さき城砦に傲然として止まつて居るのであつた；されば彼等の祖先の間に起つた爭論の爲に、其近隣の人々とも不和にあるのであつた。

註 dry branch 衰へたる枝即ち支族。Catzenellenbogen は昔の有力なる一族の名にて、此稱呼は其昔美しき臂を以て有名なりし一夫人に與へた名であるとか、Catzen は猫にて ellenbogen は臂の意。inherit 相續する。w.rlike 戦好。disposition 傾向、性質。predecessor 祖先。impair 減縮する。somehow 幾分。perch 止まる。residence 邸宅。drown up 集



つて. cherishing 抱く. hereditary 世襲に. inveteracy 頑固.  
feuds 積つ怨. on ill term 仲が悪い. great-great-grandfather 祖  
先の意.

【譯】男爵には只一人の娘の子があつた; けれど  
も自然は、只一子を與へる際には、常にそれに奇  
蹟を行つて之を補ふのであつた; 男爵の娘に對  
しても正にさうであつた。乳母といふ乳母、饒  
舌家といふ饒舌家、田野の從兄弟姉妹といふい  
とこ、皆全獨逸の美人中に此娘に匹敵するもの  
なきことを娘の父に保證した; 而して又誰か  
彼等よりよくそれを知るものがあらうぞ? 且  
つ又彼女は二人の處女叔母の監督の下に非常  
なる注意を以て養育せられた。此二人の叔母  
といふのは、其若い時代の數年を、獨逸の一小宮  
廷に於て送り、貴婦人の教育に必要な有ゆる  
方面の智識に熟達して居つた。此等の人々の  
教育の下に娘は藝能の奇蹟となつた。彼女が  
十八歳の頃には、驚くべき刺繡も出来れば、毛氈  
の上に聖徒の全歴史を繡ひ出し、其全徒が凡て  
淨土の人々の如く見える程の表情を自ら製作  
した。彼女は亦大なる困難なくして讀むとが  
出来、色々の宗教上の傳説“英雄物語”の勇まし  
き奇談の多くをもひろひ讀みした。彼女は亦

The girl who is a virtuoso.

字を書くにも熟達し; 一字をも誤ることなく  
して自分の名を認め、而も其叔母達が眼鏡なく  
とも讀むことの出来るやうに分り易く書くこ  
とも出来た。彼女は何の役にも立たぬ貴婦人  
にふさはしい美しき各種の玩具を作るに妙を  
得; 當時の最も奥妙なる舞踏に熟達し; 瑟や  
ギタアによりて幾多の曲を奏し; 又情歌のや  
さしき曲など悉く暗記して居た。

註 Compensates.....一人娘なる故に之を天は美人として補  
ふ即ち之れが奇蹟の意なり. proligy 奇蹟. gossip 饒舌家.  
おしやべり. who should know 誰れか知らんとは當に  
ならぬ意なり、以下皆反語的に裏を云つたのである。  
brought up 養育した. superintendence 監督. maiden aunt 嫁入  
したことなき叔母. branch 色々な學問. miracle of ac-  
complishment 藝能の奇蹟. 人を驚かすやうな藝能の人.  
embroider 刺繡. histories 物語. tapestry 毛氈. 即ち此毛氈の  
上に刺繡によつて聖書の物語をぬひ込むなり. expres-  
sion...countenance 顔の表情. soul 人々. purgatory 羅馬舊  
教に所謂死後罪障消滅の地. spell her way 拾ひ讀みし  
て進む. church legends 宗教上の色々な傳説. Heldenbuch  
英雄物語. 中世に於ける英雄譚. proficiency 巧なること.  
legibly 讀み易き. excell in 妙を得て居る. good-for-nothing  
毒にも藥にもならぬ. 役にもたたぬ. lady-like 貴婦人に  
ふさわしき. nicknack 玩具. verse 熟する. abstruse 奥妙な.  
airs 曲. a number 數々の. guitar. ヴァイオリンの如きもの.  
Minnie-lieder = love singer 中世十二三世紀の獨逸の抒情詩  
人の階級を總稱せるにて、彼等の主なる題目は戀愛に  
あつた. by heart 暗記する.



姫

【譯】彼女の叔母達は亦其若い時代に於ては、大なる艶女魔婦であつたので、彼等の姪の油断なき保護者作法上の嚴重なる監督者としては比<sup>な</sup>びなきものと思はれて居た；何となればそれ<sup>ら</sup>者のなれの果程<sup>はてほど</sup>嚴に用心深くて、不變に適切な老女はないからである。彼女は彼等の眼から滅多に離るゝとを許されなかつた；充分に従者をつれてか、寧ろ充分に監守されないでは、城砦の外に出るゝとはなかつた；嚴重なる禮儀と絶對の服從に關して絶えず講義をきかされ；そして男子に對しては——てもまあ——彼女は正當に許されたるに非れば、世にも美しき騎士に對しても、否彼が自分の足下に死せんとしつゝある時に於ても一瞥も放<sup>な</sup>げてはならぬ程の距離をもつて男子を待遇し、而も斯の如き絶對の不信用を以て待遇すべく教へられたのである。

flirts and coquette 淫婦妖婦なれとはなまめかしき美人の意。 admirably calculated 立派なものと思はれた。 vigilant 用心深き。 guardian 保護者。 censor 検閲官、監督者。 duenna 老女、子守。 rigidly 厳しき。 prudent 用心深い。 inexorably 不變に。 decorous 適切な。 superannuated coquette 老衰して行く淫婦、即ちそれ者のなれの果。 rarely suffer 稀に許されて、滅多にゆるされぬ。 decorum 禮儀、作法。 implicit 少しも疑を許さぬ、絶對の信用の。 pah 輕蔑の語。 unless pro-

perly authorised 正當に許されずば。 covalier 中世時代の武士にて、當時の貴女等は多く此武士に心を寄せたるなり。

【譯】此制度の善き功果は驚くべく明なものであつた。姫は溫順と方正との模範であつた。他の娘達が世の輝の中に其美しさを撒きすて、人々によつて引抜きては直ぐにも投げ棄てられ勝ちであるに、彼女のみは人の身を保護する刺<sup>とげ</sup>の間に咲き出でた薔薇の花の如くに、其等の清淨無垢なる寡婦どもの保護の下に新らしく愛らしき女の花と辱しげにも咲き出でたのである。叔母達は誇と讚辭を以て彼女をもてはやし、世の中の他の凡ての貴女達は横道に迷ひ込むことあらんも、有り難や、カツツエンエルレンボオゲンの後取りに對しては、此種の何事も起ることなかるべしと自ら誇つたのである。

註 apparent 明かな。 pattern 型即ち模範。 docility 溫順。 correctness 方正なこと。 waste... world 世の人々に對して媚を呈することを指す。 liable 有りがち。 pluck 抜き去る、花に例へたるを以てかくいふなり。 coyly はにかみがちに。 bloom... womanhood 花が咲いて女になる。 immaculate 清淨無垢な。 spinster 寡婦。 exaltation 讚辭。 v unt 自ら誇る。 astray 迷ひこむ；まごつく。 thank Heaven 有りがたや。

【譯】けれどフオンランドシヨオト男は如何に小



供を興へらるゝこと少しとするも、彼の家族は決して小さいものではなかつた。蓋し天は澤山の貧乏親族を以て彼を富ましたからであつた。彼等は悉く、貧しき親類に有りがちな情愛深き性質を有し；不思議に男爵になつて、出来る限りの機会を<sup>利</sup>用しては、此邸宅を賑はさんために群<sup>れ</sup>て來た。有ゆる家族のお祭は男爵の費用をかけて、此等の善良な人々によりて祝はれた；そして彼等が御馳走で満足すれば、此家族の會合、此心からのお祭ほど愉快なものはないと云ふを常として居た。

註 scantily 乏しく, provide 天からさづかる, enrich 澤山くれた, one and all 悉く, common.... 貧乏親族に有りふれた情愛がある, 即ち本當に懐くにあらずして食ひたさ飲たさに集り來つて親しげにするなり, attach なつく, enliven 活々させる, 賑かす, at expense 金をかけて腹をいためさせる, commemorate 祝祭する, fill with good cheer 御馳走で満腹する, would 常に云ふ, jubilee 五十年祭即ちお祭, of heart 心からの。

【譯】男爵は體の小さき人ながら、心の大なる人であつた、そして其心は周圍の小世界に於ける最大の人なることを思うて意氣揚々として居た。彼は周圍の壁から恐ろしき顔して見下ろして居る肖像の色黒き古英雄等について長々しき

物語をするのを愛して居た、そして自ら金を費つて養つて居る聽衆に勝るものなきことを知つた。彼は甚だしく不可思議なことを好み、獨逸の山野到る處に多き怪談に對して確信の人であつた。彼の客どもの信仰は彼の信仰以上でさへあつた：彼等は眼をみはり口を開いて有ゆる不可思議の物語に耳を寄せた、そして幾度も之を繰返されても猶驚かざることないのであつた。斯の如くしてランドショウト男は、食卓の聖人、其小領土の絶對君主、而して何はさて置き、自ら當代の最も賢人であると信じて愉快に生活して居るのであつた。

註 small 體が小さい, large soul 心が大, 度量が廣い, swelled with satisfaction 満足<sup>を</sup>以て張れる即ち意氣揚々の意, at the consciousness 自信して, grimly 恐ろしげに, Equall.... 自分で養つてやるものは上べ丈け喜んで聽くのも、腹の中から喜んで聞きしが如く讚稱するのであるからかゝる聽衆に及ぶものなしといふなり, given to 心をよせる、ふける, abounds 澤山ある, guests 即ち親族から集つて來て居るものども, never failed.... 驚くに失敗せぬ、即ち必ず驚くと云ふは幾度きいても之を驚いた風をするなり, orac'e 聖人, above all なによりも, persuasion 自信。

【譯】此物語の頃に最も重大な事件に關して、城内に一大家族的集會があつた：男爵の娘の許



嫁の花婿を招待するのであつた。之より先き二人の小供の結婚によりて、兩家の威風を結ばんが爲に、父とババリアの老貴族との間に談判が運ばれて居たのであつた。色々の準備は適當なる執禮を以て行はれて居た。若い二人は互に顔を見ることもなくして婚約されて居た。そして時は結婚の儀式の爲に指定されて居た。若いフオン・アルテンベルヒ伯は、其目的の爲に軍隊から呼びもどされ、花嫁を得んが爲に實に男爵邸を訪ふの途にあつた。偶滞在せるウユルツブルクから、使者は男爵のもとに立てられ、到着豫定の日取と時刻まで報せられたのでつた。

註 treats 話す、話が自ら語る時代即ち此話の頃。on 關して。utmost 最も。destined 定まつた即許嫁の。negotiation 談判。had been carried 行はれた、此語に是より先の意が備はつて居るなり。preliminaries 色々の準備即ち結納の取交はしの如きこと。punctilio 嚴正に禮儀を守ること。for the purpose 其目的の爲に殊更。missives 使節。accidentally 偶然。detain 止められる即ち滞在する。

【譯】城内は彼に對して相當なる歓迎を行はんとて其準備に忙がはしかつた。美しき花嫁は並々ならぬ心掛にて飾り立てられた。二人の叔母達は姫の化粧を監督した；そして姫の著物の色色なことについて半日を争ひ合つた。姫は彼

等の争論を利用して自分の趣味の傾向に従ふことにした；而して幸にも其撰び方は善いものであつた。姫は若き花婿が望まん限りの美しさであつた；そして期待の胸のどよめきは更に姫の美しさの輝を引きたてたのであつた。

註 tumult 騒。deck かざる。whole morning 正午迄を morning といふ故に午前中の意。take advantage 利用する、乗ずる。bent 傾向。it was a good one 撰擇が善つた。flutter 動搖。expectation 期待。heighten 高める。

【譯】姫の顔にも頸にも溢るる紅る、穩かな胸の動搖時々物思ひに失はるる眼の色、凡て皆姫の小さき胸に起れるやさしき動搖を裏切らざるはなかつた。叔母達は絶えず姫の側にうろうろしつつあつた；蓋し世の處女叔母達は此種の問題に大なる興味を取りがちなるを以てある。彼等は如何に自ら處すべきか、何と云ふべきか、そして如何なる風に待たるゝ戀人を接待すべきかについて、限りもなき忠告を姫に與へつゝあつた。

註 suffusion はびこるもの、顔や頸を蔽ふてはびこるものとは恥かきの紅るをさすなり。reverie 物思。betrayed 裏切る即ち隠さうとしても自然現はす。hovering とびあらく。this nature かくの如きこと。a world 澤山。staid 嚴肅なる。counsels 忠告。deport 自己を處する。



【譯】男爵も同様に準備に忙がしかつた。實際に於ては正しく爲さざるべからざることとは何もなかつた：然れども彼は生來怒りつばいこせこせの小男であつて、世間が忙がはしげにして居る際に方りて、何事も人まかせにして居ることは出来なかつた。彼は城の天井から床に至るまで限りなき心配の様子を以て心を勞し；絶えず勞働せる奴婢を呼びよせて、勤勉なるべきことを彼等に助言するのであつた：而して熱き夏の日に於ける蒼蠅の如く、徒らになやみなく煩しげに、有ゆる廣間と客間とを囁きまはつて居た。

註 no less 何じやうに. fuming 怒りほい. passive 受身になつて、人まかせに何でもうんうんといふ. all the world 他の人々全體をさせるなり. worried 心をなやます. exhort 助言する. buzz 蛾の鳴く如くブツツ云ふ. idly 無益に. importunate 煩しく. blue-bottle fly 青い腹をして居る故に青徳利といふ、青蠅なり。

【譯】其中にも肥えた手は屠られ；森林は獵師どもの呼聲に鳴り渡り；臺所は立派な御馳走を以て充たされ；穴庫はライン及フアンの葡萄酒を大海の如く供へた；而して彼のハイデルベルヒの大樽さへも送られた。何もかも獨逸流の歡迎の眞の精神に於て、上を下への大騒を

して、世にも名高き客を迎ふべき準備が盡されたのであつた；けれども客は遅れて其姿を表はさなんだ。時は一刻一刻と過去つた。オオデンワルドの繁つた森の上に光を投げ下ろして居た太陽は、今しも丁度山の頂上に輝き出した。男爵は最も高き塔に上つて、伯爵と其従者の遠き姿を見んことを望んで、其眼を見張つた。一度は一行の姿を見たと思つた；喇叭の響は谷間より浮んで、引いては山々の反響となつた。騎士の數々は路に沿うてゆるゆると進みつゝ、遠く下の方に見ゆるのであつた；けれども一行が始んど山の麓に達した頃には、彼等は俄然として異つた方向にそれ去つたのである。夕日の最後の光も消え失せて、蝙蝠は微光に飛始める。路は段々暗くなり始めた；而も其處には時々其仕事を終へて家に辿り行く百姓以外には、何の動くものとは見えなかつた。

註 clamour 叫聲. cheer 御馳走. yielded up whole ocean 澤山の酒が、穴庫から出された意. Great Heidelberg tan ハイデルベルグの城内の穴窖に在る大酒樽にして、四萬九千ガロンを容るに足ると. laid under contribution 送られた. distinguished 名高い. Sous and Brans=noise and roar 上を下への大騒. strain 眼を張る. prolongue のびる、ひろがる. struck off それる. departed 消える. view 眼界、眼. stirring 動く. lagging ぐす々々する、遅る。

prolonged







判高き美しさや、彼をまつてる幸福について動もすれば聊かくどすぎたのであつた。

註 beguiled 魅めた. way faring 旅行. recollection 追想. apt to ...ありがち、動もすればある. tedious くだ々しくて人を怠くつさせる. felicity 幸福.

【譯】斯の如くして彼等はオオデンワルドの山に入つた、そして最も淋しく繁つた峠の一つをば越えつつあつた。獨逸の城が幽霊によりて惱まされるが如く、獨逸の森林が常に盜賊によりて惱まされることは有名なものであつた；而して當時國內を流浪する解隊後の兵士の遊族のお蔭で、殊の外に盜賊は多いのであつた。されば此等の騎士達が森林中に於て、此等の放浪者の群に襲はれたのは珍らしいとはなかつた。二人は勇ましく防禦したが、殆んど打敗かされんとして居つた、折しも伯爵の従者はかけつけて救助に従つた。従者の姿が見えると同時に、泥棒は逃げ去つたのであるが、けれども伯爵が痛手を負ふまでは逃去らないのであつた。彼は靜に注意してウルツブルクの町へと運びもどされた、而して近所の寺より一人の僧侶が迎へられた、此僧は心身二つながら之を能く療治する熟練に於て有名なものであつた；けれ

ども僧侶の一半の熟練は餘計なものであつた；不幸な伯爵の生涯の瞬間は正に數へられて居つた。

註 traverse 越える. passes 峠. infested 惱まされる. spectres 幽霊. hordes 遊族. disbanded 解除された. gang 群. stagglers 放浪者. overpower 打まける. not until...まではなかつた、即ち少し後れたので...であつた. mortal wound 痛手. friar 僧侶. administering 支配する. half...半分の體をなほす方の熟練は、伯が、死なんとするので餘計なものとなりかけた. moments...死ぬる迄の時が數へられた、即ち間もなく死なんとするのであつた。

【譯】彼は最後の息を以て、直にランドショルトの城に行つて、花嫁との約束を果さなかつた不幸の原因を説明せんことを其友に願つた。勿論熱心な戀人ではなかつたが、彼は最も嚴正な人の一人であつて、其使命の速に丁重に實行さるべきことを熱心に願ふものの如くであつた。彼は曰く、“此事にして果されなければ私は墓の中にて靜に眠られはしない”！彼は殊更眞面目に此最後の言葉を繰返した。斯の如き大切な瞬間に於ける依頼は何の躊躇をも許さなかつた。スタルケンフアウストは彼を慰めて心を靜めしむべきことを努め、忠實に其願を實行すべきことを約束し、眞面目な誓の證として



其手を握らせた。死に行く人は之を承認してその手を胸に押しつけたが、間もなく昏迷の人となつてしまひ、花嫁のこと、婚約のこと、誓の言葉などを口走り；ランドショルトの城に至らんが爲に馬を命じた；そして馬に跨る夢想の中に息を引とつてしまつた。

註 entreat 願ふ。 repair 行く。 fatal cause 不幸な原因。 appointment 約束。 punctilious 厳正、律義な。 solicitous 願つて。 courteously 丁重に。 solemnity 厳肅。 impressive 大切な。 to calmness 静まるやうに。 pledge 保証、質。 acknowledgement 承認。 lapse 経過する。 delirium 昏迷、精神錯亂。 rave 妄語する。 engagement 婚約。 plight 約束した。 expire 息を引とる、死ぬる。 fancied act 心に畫いて。 vaulting 乗る。

【譯】スタルケンファウストは、其の友の時ならぬ不幸に對して、歎息と武士の涙とを垂れた；そしてやがて、自ら企てた見ともなき使命を考へて見た。彼が心は打沈みて、頭は混亂して居つた；何となれば敵視せる人々の間に、頼まれもせぬ客として現はれ、そして彼等の希望を打くだくべき報告を以て彼等の喜を打しめらせなければならなかつたからである。猶ほ彼は女好きの男であつたので、世の中から非常に注意深くも閉込められて、遠くまでも評判の届いたカツツエンエルレンボルゲンの美人を見たい

との好奇心の囁きが其胸にあつた、そして有ゆる變つた冒險を好んで居る性質の中に、一個の性癖と冒險心とが頭を出したのであつた。

註 untimely 時ならぬ。 ponder on 考へる。 perplex こまる。 unbidden 命ぜられぬ、招かれぬ。 festivity お祝。 tiding しらせ。 fatal 不幸な、此處には打こはす意あり。 <sup>cautiously</sup> cautiously 注意深く。 passionate 情の強い。 the sex 此處にては女性をさす。 eccentricity 性癖。 enterprise 冒險、企圖。 singular 變つた、特種の。

【譯】其出發に先つて、彼は其友の葬儀の爲に寺の僧侶達と、有ゆる相當な準備を整へた；友は即ち彼の名高き親戚の側に、ウルツブルグの寺院内に埋めらるゝ筈であつたのだ。そして伯爵の死をなげく従者達は、彼の死骸の世話をするのであつた。

註 due 正當な。 arrangements 準備。 holy fraternity 神聖な兄弟ども即ち僧侶のことなり。 solemnities 厳肅なる式。 illustrious 有名な。 retinue 従者。 took charge 世話をした。

【譯】今や吾等はカツツエンエルレンボルゲンの古き一族の物語に立ちかへるべき時である；一族は彼等の客をまつて待遠ほしく、尙更に其御馳走に待遠ほしく、貴き小男の男爵は望樓に上つて風に吹かれた儘で居たのであつた。

註 high time 丁度いゝ時。 impatient 堪らない。 to the worthy little baron... の to は前の should return にかゝるのである。



left airing 吾等は男爵を望樓に上つて風に吹かれて居ると云つた儘にして、他へ話を轉じて、今まで打やつて置いたが、今、其人のことに立ち歸つて語らなければならぬといふのである。

【譯】夜になつてしまつたが、客は誰も來なかつた。男爵は失望して塔から下りた。だんだんに延びに延びた宴會は、最早延ばされることが出來なかつた。肉は既に煮え過ぎて、クックは怒つて居た、そして一家族は飢饉に苦められた守備兵のやうな顔附をして居つた。男爵は嫌々ながらお客が居ない儘に宴會を閉くべき命令を與へなければならなかつた。人は皆食卓についた。そして丁度始まらんとするに方りて、門外からの喇叭の響きが見知らぬ人の近づきの報をもたらしたのであつた。その次の喇叭の反響は城内の古い城に響き渡つた、城内の番人も亦之に答へた。男爵は未來の養子を迎へんとて急ぎ出た。

註 despair 失望. delay 延引する. postpone 延ばす. over done 煮え過ぎる. agony 怒る. reduced... 減ぜられた. reluctantly 嫌々で、惜んで. commencing 始める. horn 喇叭. wander 番人. stranger は客の如き見知らぬ人を廣くさす。

【譯】吊橋は既に下され客は門の前に居た。客は丈高く勇ましき騎士にて、黒色の馬に跨つて居

た。其顔は青白かつたが、きら々々と光る美しき眼を有し、けだかくも悲しげの風をして居た。客が獨り淋しげな素朴な風にしてやつて來たので、男爵は聊か當惑したのであつた。男爵は自分の品位が暫し攪亂されて、大事な場合に對し、而して亦彼が結合さるべき大切な家族に對し、適當なる尊敬の念を缺かれたものと考へないではゐられない氣がした。けれども彼は客をして斯の如くならしめたのは、從者よりも早く到達せんとする年少の血氣が然らしめたものであらうといふ結論を以て、自ら慰めるのであつた。

註 drawbridge 吊橋、城に通ずる通路が吊橋になつて居るのである。steed 馬. beaming 光る. romantic 美しい. stately 威嚴のある。melancholy 憂鬱. mortified 困められた。ruffle 攪亂する、損する。dispose to consider 考へるやうに傾く。important occasion 結婚といふ大事な場合。pacify 慰める。to spur on 先がけて來る。

【譯】客は云つた、“斯んなに遅くなつてお宅にまかり出たる段は御氣の毒の至りで御座います……”

註 to break in 闖入すること、やつて來ること。unseasonably 時をはずれて。

【譯】是に於てか男爵は挨拶の限りを盡して客を遮つた；何となれば實を云へば、男爵は自分の



as courtesy  
 禮讓と雄辯とを誇として居たからである。客は一二度瀧の如く流るゝ主人の言葉を妨げんとしたのであつたが、駄目であつた、で彼は其頭を垂れて其懸河の辯をば流るゝにまかさしめた。男爵が一時其辯説をやめたと思つた時には二人は既に城の内殿に達して居たのである。そして客が再び口を開かんとせる折しも、彼は小さくなつて辱しげなる花嫁を導いた家族の婦人の一行の現はるゝに再び妨げられたのである。彼は酔へるものゝ如くに暫し彼女を打眺めた；宛がら彼の全心が視線を傳はりて迸り出で、其愛らしきものゝ上に休めるが如くに思はれた。處女の母の一人は彼女の耳に何事をかさゝいた；彼女は口を開かんとして、あげた湿ひを帯びた青眼は臆病氣であつた；恥しげなる疑問の一瞥は客に投せられ、そして再び地上に向けられたのであつた。言葉は消え失せてしまつた、けれども其唇の周圍には、遊んでゐるやさしい微笑があつた；そして彼女の頬の柔しき靨は、其一瞥が不満なものではなかつたことを稱するものであつた。十八の花の盛りにして、戀と結婚とに對して甚しく待構へた

る乙女にとりては、さばかり勇ましき勇士を見て喜ばずに居ることは出来ぬことであつた。

註 a world 澤山. compliments and greetings 共に挨拶. prided 平生から誇として居る. courtesy 丁重. Eloquence 雄辯. stem 妨げる. suffered... 勝手に流れさせた. pause 休止. leading forth 導く. shrinking 小さくなつて. entranced 茫然として、正氣を失つて. beamed forth in the gaze 魂が視線を傳つて光り出た、即ちじつといつまでも見て居たといふ意なり. dimpling 靨(みくぼ). showed her glance... 見た眼が不満でなかつた、即ち心になほぬものでなかつたといふことを示す. fond age 花の盛りの年. fond 樂める、喜べる意. predisposed 待かまへて居る. matrimony 結婚.

【譯】客の到着したのは斯の如く遅かつたので話をする暇もなかつた。男爵は強制的であつた、そして有ゆるこまごまの話は朝まで延ばした、そしてまだ食べられざる宴會へと案内した。

註 parley 談話. peremptory 強制的. deferred 延ばした. particular こまごまの. untasted まだ、食はれぬ。

【譯】御馳走は城の大廣間に備へられた。壁の周圍にはカッツェンエルレンボオゲン家の勇者達の荒らくれたる肖像がかゝげられ、戰場及び獵に於て得られた分捕品もかけてあつた。突き傷のある胸甲、碎けた決闘用の鎗、破れた旗などが森の中に於ける獲物と森へられ；狼の顎や、野猪の牙は半弓と軍斧との間に物凄くも齒



をむき出し、大きな一對の鹿の角は、若き花婿の頭の眞上に枝をさしかはして居た。

註 served up 支度された. hard-favoured 荒々しき. trophies 分捕品. chase 獵. hacked 突傷のある. splinter 砕けた. jousting=justing 馬上にてつき合ふ、即ち決闘の如し. tattered 裂けた. spoils 分捕品、獲物. sylvan warfare 森の運命即ち森の獵. tusk 牙. bear 野猪なり(熊にあらず). grinned 齒をむき出す. horribly 凄じく. antler 鹿の角. immediately over 眞上.

【譯】武士は一座の人々にも又は御馳走にも殆んど注意を拂ふことはなかつた。彼は殆んど御馳走も味はず、之に反して花嫁の賞讃に心を奪はれたるが如くであつた。彼は例の人にはきこえぬ程の低い調子で話をした、戀の言語といふものは決して調子の高いものでないからである；けれども戀人の最もやさしき耳語をもきゝとることの出来ぬほどの鈍な女の耳が何處にかあらう？彼の舉動には柔しさと沈んだところと、打ち交つたものがあつた、それは若き姫に對しては力強き結果をもつものゝ如くであつた。姫の顔の色は、彼女が深き注意を以て耳を寄せる度々に、行きつもどりつ變つた。時々には女はゝにかみ勝ちの返事をした、そして男の眼が他の方へ向けられると、女は男の美しき顔

をながしめに忍び見て、柔しき幸福の穩かな溜息をばあげるのが常であつた。若き二人が全く惚れ合つて居ることは明白であつた。人の心の祕密に深くも通せる叔母達は、若き二人が互に一眼で惚れてしまつたものと認めた。

註 entertainment 御馳走. in admiration 賞讃して. overheard 洩れきく. gravity 沈んだ重々しい處. side-long glance 横眼で見ること. romantic 美しい. countenance 顔色. enamoured 戀ふ. versed 經營した、通した. declare 宣告する、認定する. the heart 人の心.

【譯】宴會は樂しげに、いや少くも騒々しくは行はれた、客達は皆軽い財布と山間の空氣に伴ふ烈しい食慾を以て、皆喜んで居たからである。男爵は最もうまくして最も長い物語をやつた、未だ嘗てこれほど甘くやつたこともなければ、こんな大なる影響を及ぼしたこともなかつた。何かの不思議なことがあれば、聴衆は驚いて仰天し、何かの可笑しきことあれば丁度いゝ處では正しく笑ふのが請合であつた。まことに男爵は、最えらき人の如く、つまらぬもの以外には何等の滑稽を云ふことも出来ぬほど眞面目であつた、けれども常に上等なホックハイマアの大盃をかりて、それに力をつけられたのであつ

Trophies



た；そしてつまらぬ洒落といへども、人を招いて、うれしき古酒をのませたの上では、人を笑はせずしては止まぬものである。貧しき而も賢き人々は、かゝる折ならでは繰返されざるべき色々のことなどを云ひ、數多の敏捷なる言語は、女達の耳にさゝやかれ、殆んど絶えがたきまでに笑ひこけさせた；ある貧乏な而も楽しげな顔の大きな男爵の甥などは一つ二つばかり歌を怒鳴つて、叔母達をして扇を以て其顔を蔽はしめたのであつた。

註 attend upon 貧乏と食慾とは相伴ふなり。light purse 空の財布。mountain air 都なれぬ風俗。were lost 仰天する、眼をまはす。auditor 聴衆。facetious 可笑しき。too dignified to utter joke 冗談などを云へぬほど眞面目で品がある。dull 重苦しい、まづい。enforced 力をつけられる。pumper 蒲杯。Hockhenner 葡萄酒の名。at one's table... 立派ないゝ酒をつがれた、自分のうちの食卓では即ち人を御馳走の席では、まづい洒落も抵抗しがたい即人を動かすものである。wits 才智即ち賢い人をさす。would not bear repeating... こんな場合即ち結婚の席の如き時にあらずば、繰返して云ふを許さぬ。bear は許す意。sly 敏捷な。Convulse 人にけいれんを起させる、即ちたまらなくさせる意。suppressed 壓へつけた。laughter 笑。to hold up one's fan 扇をかさす、即ち顔に扇をあてるなり、きくに堪えずしし赤面せるならん。

【譯】此等の歡樂の最中に在りて、見知らぬ客は最も變つた、そして時にもふさはしからぬ眞面目腐つた態度を持して居つた。彼の顔は夜の更くるに従つて、愈憂愁の色を加へるのであつた。そして不思議にも男爵の滑稽は猶一層彼をして憂鬱に沈ましむるが如くであつた。時々彼は思ひに茫然としてあり、時にはまた定まらぬ眼の中に讀まるゝ攪亂と動搖とは、其心の只不安なるを語るものであつた。彼が花嫁との物語は次第に次第に眞面目となり不可思議となつた。彼女の晴れ渡つた美しい額の上には愁の息が忍び始め、戦慄はそのやさしき體に起り始めたのである。

註 revelry 宴樂。singular 不思議な、變つた。unseasonable 時をはずれた。assumed... 憂鬱の更に深き形を取る、即ちだん々沈んで來た。strange... 可笑しく見えるか知らぬが。lost in thought 考へてぼんやりする。perturbed 攪亂された。wandering of eye 眼がすわらぬ。bespoke 示す。ill at ease 不安。lowering cloud 憂の雲。fair serenity 晴れた美しさ。tremor 戦慄。tender frame やさしき體、即ち女の身。

【譯】此等の様子は最早一座の眼を通るゝことは出来なかつた。彼等の感興は花婿のこの解しがたき憂鬱の爲に冷やされ；人々の元氣も之に感染して；私語や横目が、肩をすくめたり疑



はしく頭を打振つたりする事と共に、互に交換された。歌も笑も次第に少なくなり；談話も淋しく中止せられ；遂には恐しき話や氣味の悪い物語などが續けられた。凄い話が一つ終ると、又更に他の一層凄い話が始まつて、男爵はやがて或る幽霊武士がレオノラといふ美人を掠めて行つた話をして、一二の婦人を殆ど氣絶するほど恐れしめた；この話は其後に巧妙なる韻文に作られて、全世界の人に讀まれ又信せられて居る。

註 gaiety 興味. chilled 冷やした. unaccountable 解しがたき  
gloom 幽鬱. infected 感染した. interchanged 交換した  
shrugs 肩をすくめる事. dubious 疑はしさ. shakes 打振ること.  
less and less frequent 次第に少なくなり. dreary pauses 活氣なき中止.  
at length 遂に. wild tales 恐しき話. supernatural legends 氣味わるき物語.  
succeeded つゞけた. dismal 凄い. hysterics 神経病. ヒステリイに驚かずといふは氣絶せしむるなり.  
goblin horseman 幽霊武士. excellent verse 巧妙なる韻文.

【譯】花婿は深く注意して男爵の怪談に耳を傾けた、彼は其眼を定めて男爵の顔を凝視し、其物語の終りに近づいた頃、次第に其座から身を起し始め；身の丈次第に高くなり、終に男爵の驚いた眼には殆んど巨人と思はれるまでに高くな

つた。やがて話が終つた瞬間に、彼は深き溜息を發し、嚴肅なる顔をして一座の人々に別れを告げた。人々は驚いた。男爵は全く驚いてしまつた。

“何ッ！この眞夜中に御歸りとな？えッ、款待の用意は凡て整ひ、休息を望まるゝならば部屋も準備してある。”

客は悲しげにも不可思議にも頭を振り；“私は今宵は變つた部屋に寝なければなりません。”

註 profound 深き. steadily しつかりと. drew to a close 終りに近づいた. gradually 次第に. growing taller and taller 次第に脊が高くなつて. entranced 驚いた. tower 聳ゆる. giant 大入道. 巨人. heaved 發した. solemn farewell 嚴肅なる顔をして告別を. of the company 一座の人々に. amazement 驚く. perfectly 全く. thunderstruck 電に打たれた如くびつくりした. reception 款待. chamber 部屋. retire 休息. mournfully 悲しげに. mysteriously 怪しげに.

【譯】この答へには何か意味があるらしく、又其發言の調子も男爵の胸を懸念させたのであつたが、氣を取直してその懇切なる願をくり返したのであつた。

客は黙して、言はれる毎に斷乎として頭を振り、一座の人々に告別の意を表しながら徐々に廣間の外へと進み出た。叔母等は全く化石し



た様になり、花嫁は頭を垂れて、眼には涙が忍び出て居つた。

男爵はそのあとについて廣庭に出て見ると、黒毛の馬が氣短かげに嘶き地を搔いて待つて居つた。炬火の光が<sup>たいまつ</sup>臙に廊下を照して居る、門口に二人が達した時、客は足を留めて薄氣味の悪い音調で主人に話しかけた。その聲は丸天井に響いて益々物凄くなつたのである。

註 something 何か意味がある。misgive 懸念させる。rallied 取直した。hospitable 懇切なる entreaties 願。

positively 斷乎として。at every offer 言はれる毎に。waving 振つて。stalked 静かに進んだ。absolutely petrified 全く化石した。stole to her eye 涙が眼にたまつた。

charger 馬。pawing 掻きつ。snorting 嘶いて。impatience 短氣。portal 門際。archway 廊下。dimly 臙に。lighted 照した。cresset 炬火。addressed 話しかけた。hollow tone 氣味悪き調子。vaulted roof 丸天井。rendered なした。sepulchral 物凄く。

【譯】客が云ふには“さて今は我等のみで誰も外に居らぬから、私が此處を立去る理由を御知らせ申さん。實は私は眞面目な止むを得ざる用務があつて……”

男爵は口を出して“何故貴方は代りに餘人を送り給はざるか?”

“代理を許しませぬ。私は自分で行かねばな

りませぬ。ウルツブルグの禮拜堂まで遠く行かなければ……”

男爵は氣を引立て、<sup>えッ</sup>然し明日まで御待ちなさい。明朝は花嫁を連れて其所で婚禮の式を擧げられよ。”

客は以前よりも十倍も嚴肅に“否々我が用事と申すは花嫁殿には關係はない、蟲なのです、墓場の蟲が私を待つて居ます! 實は私は死人である、既に盜賊等の爲に殺されて、我が體はウルツブルグに横はつて居ります、この夜中に埋葬される筈である、一墓は私を待つて居る—私は命令を守らねばなりません!”

彼は黒馬に飛乗り、吊橋を渡つて突進し、やがて夜嵐の嘯く中に、馬蹄の音は失はれてしまつた。

註 we are alone 我等たゞ二人である。impart 知らせる。indispensable 止むを得ざる。engagement 用務。

some one 誰か。in your place 代理に。

admits 許す。substitute 代理。attend 行く。in person 自分で。away 遠く。

plucking up 氣を引立て。but not until to-morrow 明日まで行くな。take bride there 結婚の儀式をその寺にてあげるを云ふなり、昔からの此風をさせるなり。

tenfold solemnity 十倍も嚴肅に。worms 蟲。slain 殺す。appointment 地位、即ち任地なり。



clattering カラタ々と音を立て、\hoofs 蹄、\shistling ヒウヒウ云ふ風の音、night-blast 夜嵐。

【譯】男爵は非常に驚怖して廣間に歸り、その次第を物語つた。二人の叔母は即時に氣絶し、他の人々も幽霊と酒宴をしたといふので皆胸を悪くした。中にはこれぞ獨逸の昔話に有名なる獵師かも知れぬと説を立てる者もあつた。中には又太古以來獨逸の善男善女を甚しく惱ましたといふ山の神、木の精又は神祕の生物などの事を語り出した者もあつた。又一人の貧乏な親類は、これはかの若い武士が何か悪戯に姿を隠したのかも知れぬ、その計策の陰氣な事が憂鬱な人格と一致して居るとほのめかして論斷した。けれども之は大に一座の攻撃を受け、殊に男爵は神に背く者に過ぎないものとして大に怒り、爲にその人は忽ちこの説を取消して、眞實の信仰者の信仰に立歸る様に希望せられたのである。

註 utmost consternation 非常な驚怖、fainted 氣絶した、outright 即時に、sickend 胸を悪くした、banqueted 酒宴をした、spectre 幽霊、wood-demons 木の精、supernatural beings 神祕の生物、grievously 甚しく、\harrassed 惱ました、\immemorial 太古の、\ventured 論斷した、\suggest ほのめかす、\sportive 悪戯、\evasion 逃れ避けること、\gloominess 陰氣、\caprice 計策

accord 一致する、\indignation 攻撃、\infidel 神に反く者、耶蘇教にある異教の信者、little better than よりも殆んどよくない即ち同じこと、\fain 希望する、\abjure 絶つ、\heresy 不信仰、speedily 早く、as possible 出来るだけ、\faith 信仰、believers. 信仰者。

【譯】然し人々の心の中には此等の疑惑がどうであつたにもせよ、翌日正式の使者が參着して、男爵の横死を告げ、ウルツブルグの禮拜堂に遺骸を埋葬したといふ通知に依て確められて、人々は全く疑ふべき由もなくなつた。

註 whatever に係らず、regular missive 正式の使者、confirming 確める、intelligence 通知、murder 横死、interment 埋葬。

【譯】此の時の城中の驚愕は推量する事が出来る。男爵は自分の室に籠居した。來客等は元來祝賀の爲に來集したのであるが、主人の不幸を見て直に辭し去ることもならず、たゞ空しく室内をうろつき廻つたり、此處彼處に群を爲して集まつて、首を振り肩を聳かし、此の好主人の苦痛を思ひ遣つた；かくて彼等はいつもよりは長く食卓に尻を落ちつけ、いつもよりは烈しく飲食して各自の元氣を維持する積であつた。然し寡婦となつた新婦の境遇は最も隣むべきものであつた。花婿を、一しかもかゝる花婿を一かい抱く事さへもしない前に良人を喪つた



とは！幽霊でさへもあんなに優美で氣高いのであるとすると、それが若し此の世の人であつたならば、どんなであつただらうか。新婦の悲歎に滿城は曇り渡つたのである。

註 dismay 驚愕. imagined 想像する. shut up 閉ぢ籠つた. rejoice 祝ふ、喜ぶ. abandoning 辭し去る. distress 不幸. troubles 苦痛. \stoutly 烈しく. \by way of つもりで. keeping up 維持する. widowed 寡婦となつた. pitiable 憐れむべき. embraced 抱く. spectre 幽霊. gracious 優美. noble 氣高き. lamentations 悲歎.

【譯】新婦は寡居の二日目の晩に自分の室に退いた。叔母の一人は姫と共に寝やうと主張して之に伴つた。この叔母は獨逸のあらゆる怪談を巧に話す人であつたので、この夜も一番長いのを物語つて居る中に、熟睡してしまつた。姫の室は遠く離れて居つて、前には小庭を見渡した。姪の姫は寝られぬまゝに獨り愁然として、今しも昇れる月影が格子の前の柳樹の葉にこぼれかゝれるのを眺めて居た。城の大時計が正しく深更を告げた折しも、庭の方からやさしい樂聲が漏れ聞えた。姫は急いで床から立上つて、足音靜かに窓に立寄つて見た。背の高い人影が木蔭の下に立つて居た。その影が頭を擧げた時、月の光はその顔の上に落ちかゝつた。こ

はいかに、姫は幽霊婚を見たのである！その瞬間に烈しき叫聲が耳元に聽えたと思ふと、音樂に目を覺まして、靜かに姫のあとについて窓に近づいて居た叔母は驚いて姫の兩腕に取りついたのであつた。姫が再び外を見ると、幽霊の姿は既に消え失せて居つた。

註 widowhood 寡居. retired 退いた. insisted 主張した. recounting 物語りて. remote 離れて. overlooked 見渡した. niece 姪. pensively 愁然として、物思ひげに. trembled ゆらいた. aspen-tree 白楊. lattice 格子. clock 大時計. \toll'd 打つた. soft strain やさしき樂聲. stole up 漏れ來つた. hastily 急いで. stepped lightly 足音靜かに歩み寄つた. heaven and earth! こはいかに. beheld 注目した. burst upon ear 耳元に聽える。

【譯】今しも此の二人の婦人の中で、叔母は最も驚いて全く正氣を失つたので、最も介抱を要したのであつた。姫の身に取つては、たとへ幽霊にしても、何となく慕<sup>なつ</sup>かしい所があつたのである。その男らしき美しさは、よく似て居つた；よし物云はぬ情人の影が戀に惱む娘の情愛を慰むるに足らぬにもせよ、眞身に逢はれぬ場合には、其影を見るだけにても、せめてもの心遣りである。叔母はその室には二度と寝ないと宣言したが、姫は生れて以來始めて叔母の言葉に従



はずして、他の室では決して寝ないと言ひ張つたのである。その結果姫は只一人にて此室にて眠ることゝなつた。然し姫は幽霊の出現の話は何人にも決して物語らない様に約束を得たのである、若し之が知れると、自分の戀人のなつかしい幽霊が毎夜守護してくれるこの室に寝る事を禁せられ、爲に姫に取つてはこの世の中で只つた一つのこの陰氣な楽しみをも失ふ憂があるからである。

註 soothing 介抱. was beside herself 正氣を失つた. as to 取つては. endearing なつかしく. semblance 類似. \calculated 適した. affections 情愛. substance 本體. consoling 慰めて. \for once 生れてよりたゞ一度. \refractory 不従順なる. consequence 結局. drew 得た. lest 恐れて. denied 否定した. melancholy pleasure 沈みたる樂み. inhabiting 住む. guardian shade 守護の影. nightly vigils 毎夜の徹夜.

【譯】この叔母が其誓約を何時まで守り得るやは甚だ不確實であつた、何となればこの女は甚だしく怪談を語るを好み、然して最初に怪談の口を切る者は恰も戰に勝つた心地のするものであるからである。然るにこの叔母が一週間其祕密を守り得たのは女性が祕密を守り得る著しき適例であると、今日でも近所の評判となつて居る；然し其一週間の終頃の或る朝にな

つて、この束縛は不意に免除される様になつた。それは朝の食事の時に、姫の行方が分らなくなつたといふ知らせがあつたからである。姫の部屋は人の影もなく、寢床は眠つた形跡もなく、窓は開け放つたまゝであつて、籠の鳥は飛び去つて居たのであつた。

註 observed 守つた. uncertain 不確實. dearly 甚だしく. marvellous 怪談. triumph 戰勝. keep it to herself 自分一人の胸に秘めておく. quoted 引證した. memorable instance 著しき適例. absolved 許した. further restraint 其上の束縛. intelligence 知らせ. flown 飛去つた. the bird 鳥とは姫のことを指す.

【譯】此の知らせがあつた時の城中の驚きと心痛とは偉人が不幸にかゝつた時に、其友人間に起る痛歎の味を知つて居る人に限つて略想像する事が出来る。さすがの貧乏親類さへも暫しの間は箸を離したのである；初め驚いて黙つて居た叔母はやがて、兩手を揉みながら叫び出して“幽霊です；幽霊です；姫は幽霊に攫はれたのです”と云つた。

註 concern 心痛. agitation 動搖. mishaps 不幸. indefatigable labours 疲れた仕事即ち食事のこと. trencher 食物. wrung 揉んだ. shrieked out 叫び出した.



【譯】叔母は簡短に前夜庭園に現れた幽霊の恐い有様を語つて、その幽霊が姫を攫つたに違いないと説いた。二人の召使も眞夜中頃に山の下で馬蹄の響を聞いたが、それは疑もなくかの黒馬に跨つた幽霊が墓地に姫を運び去つたに違いないと云つて、叔母の説を確實にした。一座の人々は皆驚いて實際さうであらうと思つた；元來かゝる種類の出来事は獨逸では最も普通のことであつて、多くの信すべき歴史にも其證據を擧げ得る程である。

註 domestics 召使. corroborated 確實にした. bearing away 運び去る. tomb 墓地. direful 恐しき. probability 實際らしい事. events 出来事. extremely 極めて. well-authenticated 信すべき. witness 證據.

【譯】今や男爵はいかばかり憐れなる境遇であつたであらう！ 慈父として又カツツエレルレンボオケン大家族の一員として、悲惨なる板挟みの體となつたのである。その一人娘の愛嬢は今しも墓に強奪されてあつたのか、或は又木の精などの如きものを婿としたとすると、多分鬼の孫を澤山生むことになる。男爵は例に依つて全く分別に迷ひ、城中の人々は悉く騒動して居つた。結局男爵は家人に命じ、各自馬に乗つ

て、どの道も坂も、オオデンヴァルドの谷を捜し廻ることを命じた。男爵自らも長靴を着け、長劔を帶び、騎馬に跨り、この見込のない捜索に出發せんとしたる折も折、新しき幽霊の爲に立止らざるを得なかつた。一人の婦人が馬に乗り、やはり一人の乗馬の武士に伴はれて城に近寄つてくるのが見える。その女は城門に疾走してくると、馬から飛び下りて男爵の足もとに身を伏せて其の膝に抱きついた。行方の分らなくなつた娘と、其友の幽霊婿であつた！ 男爵は驚いて；娘と幽霊とを交る交る眺めて、自分の感覺の正否を疑つたのである。其幽霊も亦一度其靈界に入つて以來其容貌は驚くべく進歩して居た。其衣裳は華美にして男らしき鈎合のある氣高き姿によく調和して居た。其顔は最早青白くも陰鬱にもなかつた。その花やかなる顔は少年の活氣を以て輝き渡り、その大きな黒い眼には歡喜の色が溢れて居つたのである。

註 lamentable situation 憐れなる境遇. heart-rending 悲惨の. dilemma 板挟み. fond father 慈父. a member 一員. rapt away 強奪される. perchance 恐くは. troop 澤山. goblin 鬼, 幽霊. bewildered 迷つた. uproar 騒動. scour 捜し廻る. drawn 着



けた. jack-boots 膝の上まである長靴. girded 帯びた. sally forth 出發する. doubtful quest 見込のない搜索. apparition 出現. 幽霊. palfrey 馬. galloped up 疾走した. embraced 抱いた. knees 兩膝. astounded 驚いた. world of spirit 靈界. evidence 證明. improved よくなつた. set off 飾つた. 調和した. symmetry 調和. glow 光り. rioted 溢れた.

【譯】この不思議は間もなく明かになつた。この武士は(實際諸者はこの人が幽霊でなかつた事は始終察知せられたに違いない)自分がヘルマン・フォン・スタルケンブアウストであると名乗つた。彼は先にかの若き伯爵と共にした冒險を物語り、この不幸なる消息を報ずる爲に如何ばかりか城に急ぎし事、然し來て見ると男爵の能辯の爲に幾度か自分の用事の話をしよといふ腰を折られた事、又新婦の姿が全く心を迷はし、幾時間かその傍で時を過さんため、遂に黙して其誤解を忍びたりし事、又自分は如何して何等缺點なき退却をなすべきかと甚だしく悩んで居ると、恰も男爵が怪談を話し出したので、不圖思ひついて例の並外れの退去を行つた事、又兩家の間に世襲の敵愾心があるので、微行して深夜密かに城中に忍び入り、一新婦の窓下に出入して、一遂には姫を口説きて、一其心を獲、一

成功して之を連れ去り、一早く云へば遂にこの美人と結婚した事を永々と物語つた。

註 mystery 不思議. cleared up 明かになつた. in truth 實に. all the while 始終. announced 名乗つた. 告げた. deliver 報ずる. captivated 迷はした. 捕虜にした. tacitly 黙して. suffered 忍んだ. sorely 甚だしく. perplexed 悩んだ. decent 缺點なき. retreat 退却. suggested 想起した. eccentric excit 並外れの退去. feudal hostility 世襲の敵愾心. by stealth 微行して. wooed 愛を求めた. borne away 連れ去つた. in triumph 成功して. in a word 一言で云へば. wedded 結婚した. the fair 美人.

【譯】男爵は親の威光を固守し、又祖先以來の敵意を固守する人であるから、これが他の事情であつたならば容易に聽さなかつたであらう；けれども彼は一人娘の彼女を愛し；今は喪つたものとして歎いて居たので；其無事であるを喜び；そして其婿はたとへ敵方の者なるにもせよ、有難い事には、幽霊ではなかつた。然し婿が死人であるらしく彼を欺いて冗談に振舞つた事は、男爵の嚴格なる性質に正に合はないものであつたが；嘗ては共に從軍したことある居合した老友等が戀愛に關する隱謀は概して例外である事と、かの武士は近頃まで軍人として勤めて居たのであるから特に許さるべき權



利があるとして確言したのであることは承認されなければならぬ。

註 circumstances 事情、inflexible 頑固なる、tenacious 固守する、paternal authority 親の威光、devotly 熱心に、obstinate 頑固なる、feuds 敵意、rejoiced 喜んだ、hostile house 敵方、thank Heaven ありがたいことには、acknowledged 認める、exactly 正に、accord 一致する、notions 考、strict veracity 厳格なる性質、joke 戯悪、冗談、passed upon 欺く、assured なだめた、stratagem 計策、excusable 許す、entitled 権利を與へる、especial privilege 特殊の特権、trooper 騎士。

【譯】されば事件は目出度調ひ、男爵は即座に若夫婦の罪を許し、再び城中で盛宴を催した。貧乏親族共は溢るゝばかりの親切を表はしてこの家の新家族たる花婿を驚かした；新郎は勇敢で寛大で又富んで居るとして讚した。實際叔母等は平素の嚴肅なる屏居主義と屈從主義とが、かくも甚だ悪く例證せられた事を稍恥ぢて居つたが、その罪をば窓に格子をはめなかつた不注意に歸したのである。叔母の一人は殊に自分の怪談が破られ、又生來始めて見た幽霊が偽物に變じたのに閉口したのである。然し姪の新婦はその幽霊が實際の肉あり又血ある人間であつたのを見て全く満足の様子であつた、かくしてこの話も終である。

註 matters 事件、arranged 調つた、pardoned 許した、on the spot 即座に、revels 宴を催す、resumed 再び開始した、overwhelmed 壓伏した、loving-kindness 親情、gallant 勇敢、generous 寛大、somewhat 稍、scandalized 恥ぢた、system 主義、strict seclusion 嚴肅なる屏居、passive obedience 屈從、exemplified 例證した、attributed 歸した、negligence 不注意、grated 格子をはめた、particularly 殊に、mortified 閉口した、marred 破つた、counterfeit 偽物、substantial flesh 實際の肉。



## ウエストミンスター寺院

【譯】有ゆる種類の王侯貴人が、  
 眞鍮若しくは石の記念碑と生きつ、  
 其處にウエストミンスター寺院に行くを  
 深き驚歎を以て見れば；  
 輕蔑も驕りも虚飾もなき  
 生れ代れる貴族を見ないだらうか、  
 飾りも浮世の權勢も全くなき、  
 罪もなき國王を見ないだらうか？  
 そして如何ばかり飾られたる石の兒供だま  
 しが、  
 今は靜かにして黙せる魂魄を満足せしむる  
 ことよ、  
 近頃まで彼等が立ちし全世界も  
 彼等の慾望を満足し若しくは癒し能はざり  
 しを。  
 人生は冷たき幸福の霜である、  
 そして死は吾等が有ゆる野心の霜解なり  
 ——クリストレオの警句。

註 Westminster Abbey は Saint Paul に對して西大寺の意味に  
 て、聖ボオル寺は丁度東大寺にある。此寺は 1049—1066  
 の間に Edvard the Confessor 王が建てたるもの、ヘンリイ

七世廟を加へて其長さ 517 呎奥行 203 呎あり。resort 行  
 く。brass 眞鍮。living とは眞鍮即ち銅像又は墓石とな  
 つて殘存せるをいふ。doe not=does not. reformed nobilitie  
 金や石と全く形を變へた貴人の意。contempt 賤みの  
 念。ostentation 飾り。look upon は上の does not にかゝる。  
 offenselesse 罪なき。majesty 帝王。naked of 全く裸な即ち  
 少しもなき。pomp 虚飾。domination 權勢。play-game 兒戲  
 昔は榮えたものが今はかゝる兒戲に類する石碑など  
 に満足する。whom:=whom 貴族帝王などを指す。late 近  
 頃まで。they stood upon 此世界に立つて居た。quench 應  
 ず。appetite 慾望。life is... 人生は冷かな慾望の霜の如  
 く結ぶ所。cold felicitie 人を逐ひのけて自分のみの繁榮  
 を願ふ冷淡なる自分の幸福。thow of vanitie 虚榮心の融  
 ける所。thaw は雪解す。

【譯】秋の終の頃朝と夕の影が殆んど差別なく、歲  
 晩に對して陰鬱の光をなげる、しんとした寧ろ  
 物悲しげな一日のことである、私はウエストミ  
 ンスター寺院の周圍を逍遙して數時間を費し  
 た。此の古びたる堂宇の物悲しき壯麗の中  
 には、此時候と何となく調和したものがあ  
 り；私が其入口を通つた時には、古代といふ地方の中  
 にふみもどつて、他界の中に自ら影を失つた如  
 くであつた。

註 sober しんまりとした。almost mingle together 殆んどわか  
 らないやうにごちや々々になる。decline of the year 一年  
 間の衰ふる時即ち歲晩。rambling うる々々する。som



thing congenial 何となく融合した. pile 大廈高樓. threshold 入口, 敷居. regions of antiquity 古代といふ一つの地方と洒落たるなり. stepping back 過去に歩みもどる意より back としたり. shades of former age の shades は死後の靈の魂の國即ち黄泉のことなり.

【譯】私は長き低き圓天井の通路を通つて、ウエストミンスター寺院の内庭から入つた；その通路は厚き壁の中なる圓い穴によりて一方丈ぼんやりと照されて居るので、殆んど地下室のやうな光景があつた。此暗い通路を経て遠方にある廻廊が見えたが、其處には眞黒なガウンを着た年の寄つた寺男が圓天井に沿ふて歩く様が、近所の墓場から抜け出して來た幽靈のやうであつた。此等の陰鬱なる僧庵の遺物を経て寺院に近づくといふことは、人の心に嚴肅なる靜思の念を起させるのである。廻廊は猶ほ昔日の靜かなる世と離れたる面影を残して居る。灰色の壁は濕氣によりて色を失ひ、年月の爲に崩れて居る；白い簷の上衣は壁の如き紀念碑の碑銘をつゝみ、死神の歌や其他の葬式の有ゆる表象をかくして居る。鋭き鑿の美も亦豊なる穹形の窓の飾から消えて；要石を飾れる薔薇の花は其生き々々した美しさを失ひ；

物悉く漸く歲月の侵蝕の印を止めて居るが、而も此等の物はその眞の衰頹の中に何となしに心を動かすに足るべき心地よきものをもつて居つた。

註 inner court 内庭. vaulted 圓天井の. subterranean 地下の. perforation 孔. massive wall 厚ぼたい堅固な壁. dark avenue 圓天井の通路. distant view 遠くから見える. cloister 寺の内側の壁の周圍に在る廻廊にて、雨天の時には散歩に用ひ以前は説教をしたり. verger 寺の役人. moving along 通つて行く. monastic 寺の. remain 遺物. prepares 起させる. solemn 嚴肅な. contemplation 熟考. retain 保存する. something 何だか. seclusion 世を離れること. discolor 色がさめる. damp 濕氣. crumbling 崩れる. hoary 白色の. inscription 碑銘. mural 壁の如き. monuments 紀念碑. death's head 死神の頭にて、骸骨の姿をして、鎖をもつて居る. funeral emblem 葬式の表章. touches さほり. chisel 鑿. tracery 窓の飾. keystone 要石. leafy 葉の如き生々とした. gradual 漸次の. dilapidation 侵蝕. something touching 何となく人の心を動かすもの. decay 衰頹.

【譯】太陽は廻廊の眞中の中庭に黄色き秋の光を投げ下ろしつ；中央にある僅かばかりの草を照らし、一種の薄暗き壯美を現じて圓天井の通路の一角を照らした。穹窿の窓からは青空の一端や過ぎ行く雲の姿が見られ；又蒼空に聳ゆる日光に光り輝く寺院の尖頭が見られた。



註 pour down 投げ下ろす. square 方形の庭なり. scanty 乏しき. plot 設備. dusky 薄暗く. splendour 壯麗. arcades 穹窿の廻廊. 此處にては窓をさす. eye glanced up 見上げると見える. sun-glit 太陽に光り輝く. pinnacles 尖頭. lowering 聳ゆる. azure heaven 蒼空.

【譯】私は此光榮と衰頹の混じた光景を考へつゝ、時には脚下の敷石をなせる墓石の上の碑銘を讀まんことを努めながら廻廊を歩める折しも、私の眼は、<sup>うきはり</sup>浮彫の上に粗末に彫まれながらも、數時代の間の人の歩みによりて殆んど消し去られた三個の肖像に引つけられたのであつた。之れ等は昔時の三人の僧侶の肖像にして；碑銘は全く消えて了つて居た；そして疑もなく後代に於て改められたので、只名のみは残つて居つた。(住職ギタリス 1082 年, 住職ジスレベルツス・クリスビヌス 1114 年, 住職ラウレンチウス 1176 年). 私は暫時止まつて思つた此等は宛かも遠く距つた後世の海岸に打あげられて、偶然にも残つた昔の遺物たる難波船の如くにて、只斯の如き人が居て死んでしまつたといふ以外には何物も語らず；其灰に向つて敬意を求め、紀錄によりて永く生きんことを望む所の誇りの無益なるといふことの外に何の意味を教へ

もしない、今少しく経なば、此等の微かなる記録すらも湮滅して、紀念碑も亦記憶せられざるに至らん。私が猶も墓石を目下ろして居ると、寺の大時計の音は傍壁から傍壁に鳴渡り、廻廊の中に反響して眼をさました。墓場の中に響き、波の如く吾等を墓場の方へころがして來た時間の経過を物語る時計の音をきくのは、殆んど驚くべきことである。私は寺院の内部に開く穹形の入口まで歩いて行つた。此處に入ると、壯大なる建物廻廊の圓天井と對照して忽然として頭に映したのであつた。私は驚いて眼を見はつて、巨大なる無数の柱と、驚くべく高く巨柱から突出した穹門とを見た；そして此等の巨柱の礎の周圍に迂路々々して居る人の姿は、其人間の手になれる細工物と比して殆ど無意味なるが如く少さく思はれた。此大なる建築の廣濶にして陰鬱なるは、深き神祕の畏敬心を起さしむ。吾等は墓地の神々しき靜肅をやぶらんことを恐れるが如く氣をこめて靜に歩めば；歩みの響は壁に沿ふてさゝやき、墳墓の間にさゞめきて吾等が突入せる境の愈靜なるを感せしめたのである。



註 contemplating 熟考する. mingled picture 混合せる光景. decipher 解む. pavement 敷石. relief 浮彫, 凸彫. effigies 肖像. epitaph 碑銘. efface 消す. renewed やりなほす. later times 其後の時代, 近頃. Abbas=abbot. musing over 考へて. casual relics 偶然後の世に残つたもの. antiquity 昔. distant shore of time. 遠く離れた時といふ海岸. perished 死んだ. moral 意味. futility 無益. exact 要する. homage 敬意. ashes 朽骨, 墓石に文字を書きつけて自分の死骸に敬意を表せしめんとする意. live in inscription 記録のお蔭で生きる. obliterate 抹殺する. memorial 紀念物. monument 紀念碑. was roused 驚かされて眼をさまざれた. reverberating 震ひ返へす. buttress 壁. warning of this departed time 離れた時の誠め即ち時の打つ音のこと. lapse 経過. billow 浪, 時の流れは墓場をさして人を載せ行く日月の如きもの. magnitude 巨大. breaks upon the mind 忽然として頭に浮ぶ. clustered column 澤山集つた柱. gigantic 巨大の. dimension 大きさ. amazing 驚くべき. in comparison with 比すれば. handiwork 其手になつたもの. spaciousness 廣々たること. edifice 大厦, 建物. profound 深き. awe 恐れ, 敬畏心. disturbing 妨げる. hallowed 神聖とされた, 神々しき. chatters しゃべる. sepulchres 墳墓. sensible 感じる, 小さい音がして却つて静かに感ずるなり. the quiet 静寂. interrupted 妨げる, 飛込んで来る.

【譯】宛がら此場所の恐ろしい性質の人の心を押し、見るものをして静なる尊敬に鎮まらしめるが如くである。吾等は其功績を以て歴史を溢らし、其名聲を以て地球を充たせる過去の偉人の數多の枯骨に繞圍せられたが如く感ずる。

註 press down 壓へつける. hushes 鎮める, 黙せしむる. noiseless reverence, 静かに沈黙して敬意を表すること. congregated 集つた, 群れた.

【譯】而も此等の偉大なる人々が如何ばかり塵芥の中に雜然として群れて居るかを見れば、人間の野心の空虚に對してほとんど微笑を起さしめるのである；其生時に於ては大なる王國を以てしても満足せしむることが出来なかつた人々に對して、乏しき角陰鬱なる隅、又は一小地域を與へるといふのは何たる吝嗇ぞや；そして嘗ては世界の思慮と稱讚を博せんことを望みし聲名をば、僅に數年の間偶ま旅客の眼をひき、忘れられざらんが爲に、幾多の形や技巧が施されたのであらう。

註 provokes 引起す, 催す. smile 嘲笑. ambition 野心. crowded together and jostled 雜然として群る. parsimony 吝嗇. doling 與へるに. scanty 乏しき. artifices 技巧. devise 工夫する. casual notice 偶然に人の氣を引く. passenger 旅人, 通行者. save from forgetfulness 忘れられることから省く, 即ち忘れられぬやうにする. aspire 希望する. —occupy ages of... admiration 世界の人々の心を寄せ讚稱する日を得る.

【譯】私は寺院の十字形堂即ち十字形の翼堂の一端を占めて居る詩人墓地にて暫く時を過した。此處の紀念碑は一般に質素である；何



となれば文學者の生涯は彫刻家に對して何等の著しき題目を供給することなきを以てある。沙翁とアヂソンの二人のみは其紀念に建てられた肖像をもつて居るが；其大部分は半身像又は額像であつて、時にありては單に碑文丈けのことがある。此等の紀念碑の質素なるに係らず私は常に此寺院を訪れるものが、彼等の周圍に最も長く止まるのを見た、それは豪傑や英雄の壯麗なる紀念碑を眺むるに方りては、冷靜なる好奇心や漠然たる歎賞の念が起るのであるが、此等の文學者の墓に對しては更に親しく更に温かな感情が起るのである。人々は同胞や友人の墓に足を止むるが如く留める；之れ蓋し著作家と讀者の間には實に一種の同輩の感があるが爲である。他の人々は、絶えずぼんやりして曖昧になりつゝある歴史の仲介によりてのみ子孫に知らるゝのである；けれども著作家と其友人との間の交際は、常に新しく、活々として、直接なのである。著作家は自己の爲と云ふよりも寧ろ讀者の爲に生存し；有ゆる周圍の快樂を犠牲にし；隔れる時代と隔れる人と更に一層の交通をなし得んが爲に、社

會生活の喜から自ら遠ざかつて了つたのである。世間が彼の名聲を保存せんとするのも尤もである；何となれば其名聲は暴力と血の功によりて買はれたものにあらず、努めて快樂を棄て、始めて買はれたが爲である。後世の人人が彼が死後の名に感謝するのも尤もなことである；何となれば、彼は空名と形もなき行爲より成る遺産にあらずして、完全なる智識の寶庫と、光り輝く思想の寶石と金玉の文字より成る遺産を後世に残したが爲である。

註 Corner 墓地の一隅をさせるなり。 transepts 十字形堂の横邊、寺院の形が元來十字形をなし、東西 4511 呎、南北 203 をなせるなり。 cross aisles 十字形の翼堂即ち左右に出た部分。 afford 與へる。 striking 等しき。 theme 題目。 busts 胸像、半身像。 medallion 額像、肖像を額にしたもの。 a kinder and fonder feeling ... 人々が壯麗な偉人の紀念碑を見て起す好奇心や讚歎の念より更に進んで、詩人等の墓を見ると一層やさしき感が起る。 curiosity 好奇心。 vague ぼんやりした。 the great 偉人。 linger about 迂路々々する。 something of companionship 何だか同胞的に相通する點。 posterity 後世。 faint and obscure 歴史は時の經るに従つて漠として分らなくなる。 fellow-men 即ち讀者をさす。 immediate 思想が直接に交換されるなり。 enjoyments 娛樂。 shut himself up 自ら閉じてかくれる。 that he might ... ことの出來得る爲に。 commune 交通する。 well may cherish ... 抱いてもいいこと相當なこと。 purchase



買ふ. violence and blood 戦争なり. diligent 勤勉な. dispensation すてること. grateful 感謝する. memory 即ち死後の名聲. has left it の it は後世をさす. inheritance 遺産. sounding action 響き渡る行爲. golden veins of language 言葉の立派なあや.

【譯】詩人墓地の方から、私は帝王の墳塋を収めた寺院のその方面に歩をつづけた。嘗ては禮拜堂であつたが、今は偉人の墓と紀念碑とで占められた間に私は徘徊した。ふり向くごとに、私は有名な名前や、史上に名高い權門の墓標に出遇つた。死の薄暗き室たる墓の中を見れば；色んな風變りの肖像に眼がつく；或はお祈をしてるが如くに壁龕の中に跪き；或は恭しく掌を合せて墓の上にさしのべ；或は甲冑を着た武士が戦の後で息をしてるが如き；杖と冠とをもつた高僧や；或は禮服と冠をつけて死床に安置されたるが如きもある。かうして妙に賑はしく、而も何人も皆じつとしてだまつて居る此光景を眺めると、かの昔語の中にあるやうな、人々が皆不意に化石したといふ町の一大邸宅の中でもあるいて居るやうな氣がする。

註 stroll 散歩. chapel 禮拜堂. cognizance 徽章の如き、それと見とめられるもの、此處にては墓標の如きしるし. powerful house 權門. darts 思ふ即ち見る. dusky chamber of

death 死の薄暗き室即ち墓場. glimpse 一瞥. quaint 妙な. effigies 肖像. niches 壁龕. as if in devotion 恰かも敬神のお祈をしてるが如く. piously pressed together 信心深く手を壓する即ち合せる. reposing 休む. prelates 高僧. croisers 黄金色の杖にて頭に十字架をつく. mitres 冠. robes 其地位の禮服. coronets 冠. as it mere 恰も. lying in state 貴族や王族が死ぬると、崇嚴なる飾をして安置し一般に死骸を禮拜せしむる習慣今猶ほあり、之を云ふなり. glaucing 見る. populous 人數が非常に多い. treading 歩む. mansion 大邸宅. fabled city 例の亞刺比亞物語の六十五日目の物語に、或年の暮、明け方の四時頃忽然として全市民が皆化石した話あり. fabled 物語の. transmuted 變化した。

【譯】私は甲冑に身をかためた一武士の肖像の置かれた墓を見るが爲に立止つた。脇には大きな撥があり；兩手は胸の上に組み合せて祈禱をなし；顔は殆んど冑に蔽はれ；兩脇は十字軍に従つた證として組合せて居た。之は十字軍に従つた武士の墓にて；彼は宗教と小説とを妙に混合した宗教熱狂的の軍人の一人にて、彼が行動は事實と小説との間の連鎖をなし、歴史と神佛譚との間のいづれともつかぬものである。かくも粗末なる紋章をゴシック風の彫刻にて飾られた、此等の冒險家の墳墓には、何だか甚だしく繪の如きものがあるのである。此



等の墳墓は其葬られて居る古風の禮拜堂とよく調和し；そしてよく見ると、吾等の想像は燃されて、これが十字軍を歌つた詩の中に現はれた、祖先傳來の舊い話や、傳奇的の小説や、武士時代の色んな飾や装束を思ひ勝ちである。彼等は全く過去つた時代の遺物である：追憶から去つた人物の遺物である：吾等の時代と何等の似よりをもつて居ない風俗習慣の遺物である。彼等は吾等が確には知らず、またぼんやりしかは知らない遠方の知らない國から、もたらした物の如くである。或は死んでしまつて居るが如く、或は死せんとして祈禱をさぐることが如くにして、ゴシック風の墓の上にある肖像を見れば；極めて嚴肅にして畏敬すべき何物かがあるのである。彼等は近代的の紀念碑に多き、わざとらしき態度や、手を入れ過ぎた細工や、又は比喩的なものなどよりは、私の感情に於て遙かに力の強い結果を及ぼすのである。私はまた古代の碑銘の多くが甚だ卓越したものであることを驚歎して居る。昔は物事を簡単に述べ而も之を傲然と記す高尙な風があつた；そして私は、ある貴族について、“兄弟皆勇まし

く、姉妹皆操節あり”と斷せる碑銘ほど、一族の價と高貴なる門閥の自覺をば明にせる碑銘を知らないのである。

註 contemplate 考へる。complete armour すつくり甲冑をつけて。buckler 楯。in supplication 懇願して、お祈りをして。morion 冑。token しるし。holy war 十字軍、11世紀から13世紀にかけてマレンスタチン回復の爲に行はれた大戦争。crusader 十字軍従軍者。military enthusiasts 宗教的に熱せる軍人。strangely mingled 小説と事實と殆んど差別つかぬ。exploits 功績、行動。connecting links どちらともつかぬもの。extremely picturesque 甚だ繪の如く美しい。adventurer 冒険家。as they are 今の如く。armorial bearing 楯の上につける紋。compact with 適合する。antiquated 古代の。in which they are found 其葬られて居る所の。kindle もやす。legendary 傳說的の。association 連想。chivalrous 武士的の。pomp and pageantry 飾りと装。poetry has spread over... 十字軍は中世時代の多くの文學の題材となつたのである。wars for the sepulchre of Christ 耶蘇の墓の爲の戦争、即ち十字軍は此墓を復活せしめんとしての戦争なり。relics 遺物。utterly 全く。recollection 追想。ours は <sup>our</sup> customes... にかゝる。affinity 近似點、類似。conceptions 考へ。vague ぼんやりして。visionary 幻影的。extended 廣がつてる。supplication 哀願、お祈り。infinitely more impressive... 遙かに人の心を動かす。fanciful わざとらしき、空想的の。over-wrought 手を入れ過ぎた。conceit 空想即ち空想的の細工物。allegorical 譬喩的 abound 澤山な。superiority 優つて居ること。proudly 傲然として。epitaph 碑銘。breathes a loftier consciousness 高尙なる自覺心を表はす。lineage 門閥。virtuous 有徳、操節ある。



【譯】詩人墓地に反對の十字形堂には、近代美術の最も有名なる成功の中に數へられて居る記念碑が立つて居る、けれども此記念碑は自分に取りては壯嚴といふよりも寧ろ恐ろしいものである。之は即ちルウピヤックの手に成つたナイチンゲイル夫人の墓である。此石碑の底は大理石の扉を開け放したやうに作られ、<sup>うすきぬ</sup>薄衣に包んだ骸骨が其内から飛出して居る。薄衣は、夫人に槍を抛つ機會に、骸骨の肉のない體から落ちかゝつて居る。夫人は驚いた良人の腕に伏し沈むと、良人は空しく狂氣の如くなつて、其打撃を避けんとあせる。全體が恐ろしき眞と生氣に充ち々々て、此幽靈の擴がつた兩頭から洩るゝ凱歌の叫をきくのある、けれども吾等は斯の如く何故に無益の威赫を以て死人をつゝまんとし、吾等が愛するものゝ墓の周圍に恐怖を擴げんとするのであるか。墳墓は死者に對して愛情と尊敬心を起さしめ、生者を徳に導くが如きものによりて圍繞せらるべきである。墳墓は悲と冥想の地である、嫌惡と畏縮との地ではない。

註 transept 十字形堂. renowned 有名な. achievement 成功. horrib'e 恐ろしき. Nightingale の墓は1758年に建てらる. Roubillac (1795—1763) 元來が佛蘭西人なれど英國に來りて數多の記念碑を作りたり. throwing open 開け放す. sheeted skeleton 薄いきぬに包まれた骸骨といふのは前にあつた死神のことである. launches なげる. dart 槍. his victim 即ち夫人を指す、死神の餌となるものなり. affrighted 驚かされた. strives 努力する. frantic 狂的の. avert 避ける. executed 行ふ. spirit 活氣、生氣. fancy 想像する. gibbering しゃべる. yell 叫聲. distended 擴げた. terror 恐怖. inspire 起す. tenderness 愛情. veneration 尊敬. win to virtue 徳に導く. di-gust 厭惡. dismay 畏縮. meditation 冥想、沈思.

【譯】此等の陰鬱なる圓天井や靜寂なる翼堂の邊を徘徊して、死人の碑銘を研べて居る間に、時々外方からの忙がはしき生存の音が耳に達する：過ぎゆく馬車の轟き、群集の囁く聲、さては恐らく輕き音の笑など。周圍の死の如き物靜かさとの對照とは著しきものである；私は忙がはしき活動世界の大浪が、墓の四壁にぶつかるのを聞くと、一種異様な感じを起さざるを得ないのであつた。

註 vaults 圓天井. aisles 翼堂. <sup>existence</sup> existence 生存界. without 外部. occasionally 時々. rumbling 轟く音. equipage 馬車. multitude 群集. contrast 對照. striking 著しい. repose 休息. surges 大浪. hurrying along 多忙なる。



【譯】私は此んな風にして墓より墓、拜堂から拜堂へと歩を續けた。日は次第に傾いて；寺院の周圍を迷ふ人々の遠き足音は次第々々に少くなつて；柔しくひびく鐘の音は、夕べの祈禱に招きつゝあつた；そして私は遠方の方に白い袈裟をつけた。唱歌者等が、翼堂を横ざりて唱歌室に入り行くのを見た。私はヘンリイ七世の拜堂の入口に立つた。深くして陰鬱なれど壯大なる穹門を通じて設けられた階段が其處に導びいて居る。華美と技巧とを盡した眞鍮の門が蝶番てふつがひの上に重く廻轉する有様は、宛かも傲然として、此最も華麗なる墳墓に常人の足の入るを厭つて居るが如くである。

註 wearing away 日が次第に暮れる。bread 歩み音。loiterer 迂路つく人。sweet-tongued やさしい舌、即ちやさしく響く。summoning 招く。chorister 唱歌者。surplices 僧や歌唱者などの着る白い衣、即ち袈裟。choir 唱歌室。aisle 翼堂。Henry VII (1456-1509) 一個の本堂と二個の翼堂より成り、唱歌室につゞいて居る。flights of steps 階段。magnificent 壯麗な。delicately こまごまと。wrought 細工された。hinge 蝶番(てふつがひ)。reluctant 嫌つて居る。to admit the feet 出入を許す。common mortals 平民。gorgeous. 華麗。

【譯】中に入ると眼は其建築の華麗と手の込んだ彫刻の只ならぬ美しさに驚かされる。壁は一

體に裝飾を施し、窓の飾りを以て埋め、壁龕を穿ち、諸聖や殉教の人々の肖像を之に充てゝある。鑿の巧妙なる勞力によりて、石は其重量と密度とを失ひ、魔術を以てしたるが如く高く空に支へられ、又格子屋根は、蛛蜘蛛に劣らぬ驚くべき細かさとなつて居る。

註 astonished 驚く。pomp 華麗。architecture 建築。elaborate 手の込んだ、勞力の入つた。sculptured 彫刻の。detail 精巧。wrought 出来て居る。universal 一般の。ornament 飾り。incrusted 敷ふ。tracery 花模様などにして、窓の上につける石の飾り、ゴシック風の窓に多し。scooped into 穿つ。niches 壁龕。壁の中につき入つた佛壇のやうなものにて、肖像などを置く。martyrs 殉教者。stones... 石も精巧なる手腕にて重さがなくなつて空につりあげられた如くなつて居る。cunning labour 精巧なる細工。robbed of 重さを盗みさられた。density 堅さなり。suspended 空にさゝへる。aloft 高く。fretted roof 格子になつた屋根。achieved 出来て居る。minuteness 細かさ。airy security 空氣の如く軽くして、危かしくないこと。cobweb 蜘蛛の巣。

【譯】拜堂の兩側に沿ふて、ゴシック建築の奇態な裝飾を施した檜の木立派な彫刻物がある。バスの武士の高い臺がある。其臺の尖頭には、彼等の肩衣や刀劔と共に、武士の甲冑が付けられてある；而して其上には、紋章を以て飾つた旗が空に懸つて居り、屋根の冷たい灰色の格子細



工と、其金色と紫と紅の輝かしさを對照して居る。此壯大なる廟の中央には、之が建設者たる王の墳墓が立つて居る；其肖像は女王の肖像と共に、華麗なる墓の上に擴がり、其全體が技巧の限りを盡した黄銅の欄によりて圍まれて居る。

註 lofty 高い. stalls 座臺. knight of the Bath 今も帝王の即位の時には、武士を選んで沐浴せしめ沐浴の武士となす、將來清淨潔白なるべきしるしにて武士中の高級のものである。grotesque 奇態な. decorations 飾裝. pinnacles 尖頭. affix つける. helmets and crests 甲冑. scarf 肩衣の如きもの. suspend 中空にかゝる. emblazoned 飾る. armorial bearing 紋章. contrasting 相對照する. splendor 壯麗. crimson 緋. fretwork 格子細工. mausoleum 廟. its founder 此廟の建設者たるヘンリー七世王なり. sumptuous 立派に飾つた. superbly-wrought 精巧を盡した. brazen 黄銅. railing 欄。

【譯】此の壯麗墳墓と武器模様の飾りとの此奇態な混合物、此等の生々として勃々たる野心の表象が、早晚萬民が終らざるべからざる塵埃と忘却を示す記念物に、接して立てる輝の内には、悲しげなる物淋しさがある。げにや昔の雜沓と華美の靜かに荒れ果てたる輝の中を歩むよりも一層深い淋しい感情を心に印するものはない。ふりむいて、此等の武士や從卒等の空椅

子や、彼等の前に嘗ては掲げられた塵にまみれたれど猶華美なる旗の列を見れば、吾が想像は、此大廣間が國內の勇士と美人とを以て光り輝きし時の光景；珠玉にて飾つた高位の人や正装せる軍人の壯麗に輝きし時の光景；數多の人の足音と歎賞せる見物の囁きとにて生々として居つた光景とを想像した。萬事は凡て過ぎ去つてしまつて；死の沈黙は此處を占有して、其寂寞を破るものは、禮拜堂の中に入り込んで、其處に柱の飾りや吊つたる飾りの間に其巢を作る所の折々の鳥の囁る聲のみである；之れ實に寂寥と荒廢の確實なる處である。

註 dreariness 淋しさ. magnificence 壯麗. trophies 色々な武器に換した建築上の裝飾. emblem 表章. living 生々した. aspiring 勃々たる. ambition 野心. mementos 紀念物. dust and oblivion 塵埃と忘却即ち墳墓なり. terminate 終る. impresses 頭に残る. throng 群集、雜沓. pageant 裝飾. esquires 從士. knight の次の武士. gorgeous 華麗なる. borne 運ばれた. conjured up 覺を使ふ即ち想像に浮ぶ. valour 勇士. beauty 美人. glittering 光り輝く. jewelled rank 高位の人の寶石をちりばめた服裝を云ふ. military array 軍裝の美しきを云ふ. multitude 群集. interrupt 妨げる. casual 折々の. chirping 囁り. friezes 柱の上の方の飾り. pendants 吊つた飾りもの. solitariness 寂寥. desertion 荒廢。



【譯】私が旗の上に書いてあつた名を讀んで見ると、彼等は皆世界に廣く遠く其名の響いた人々であつた：或は遠き海の上に漂ひ；或は遠國に於て従軍し；或は宮廷及び内閣の多忙なる機密に參與して；凡てが此朧ろげなる名譽の邸宅の中に於て、今一つの名譽たる紀念碑を建設して貰ふと云ふ果敢なき報酬に預らんことを求めるのであつた。

註 scattered 名譽が廣つて居る. tossing 漂ふ. under arms 軍に従つて居ること. mingling 混する. intrigues 機密. to deserve 其價に相當する. one more distinction = melancholy reward of a moment 今一つの名譽とは紀念碑を立て、貰ふことなり、天下悉く此名譽の爲に努力せるが如し. mansion of... 即ち名士を葬ふる此ウエストミンスター寺院を指す。

【譯】此拜堂の兩側に於ける二つの小さい翼堂は壓抑者も壓せられたものも同じ水平面にもたらし、相反目せる仇敵の枯骨も一處に混合する所の墓場の一切平等のものであることを痛切に示して居る。一方に於ては傲驕なるエリザベス女王の墓あり；他方には彼女の犠牲である愛らしき不幸なる蘇國のメリイ女王の墓がある。一日の中何れの時と雖もメリイの不幸

なる身の上に向つて發せらるゝ哀傷の聲と、之を苦めたエリザベスに對する憤怒の念とが混せざることなく；エリザベスの墓の四壁は、絶えず其敵手の墓に於て發せらるゝ同情の歎聲にて反響して居るのである。

註 touching instance 痛切に人を感じしむる例. oppressor 抑壓するもの. the oppressed 抑壓されたもの. bittered enemies 相反目せる仇敵. haughty 傲れる. victim 犠牲. Elizabeth (1558-1603). Mary (1542-1587) 美人にしてエリザベス王の爲に捕へられて死刑に處せらる. ejaculation 不意の歎聲. indignation 怒. sympathy 同情. heaved 起つた. rival 競争者、即ち敵手。

【譯】メリイが埋められて居る翼堂には、殊の外悲愴の氣が充ちて居る。日光は塵によつて黒くなつた窓から朧ろげにやつとさん込んで居る。境の大部は深い蔭の中に在り、四壁は歳月と風雨とで汚れて色がついて居る。メリイの大理石像は、墓石の上に擴がり、其周圍には彼女の國章である薊あざみを附けた、甚しく錆び腐つた鐵柵がある。私は逍遙につかれて、紀念碑の側に腰を下ろしてあはれなるメリイの蹉跌多く不幸なりし身の生を思ひめぐらして見た。

註 reigns over 廣く擴がつて居る. struggles 光がやうやくさしこんで居る. stained and tinted よこれて色がつく。



railing 柵. corroded 錆びて蝕つた. bearing ついて居る.  
 emblem 表章. thistle あざみ. revolving 思ひめぐらす.  
 chequered 蹉跎した, 壓せられた. disastrous 不幸なる.

【譯】折々きこえて居た足音は既にやんでしまつて居た。私は時々夕べの祈禱をくりかへす僧侶の遠き聲と、合唱のかすかなる唱和とのみを只きくことが出来た；此等もしばしは止みて、物皆静かになつてしまつた。静さと寂しさと、次第にあたりにはびこつて来る暗さとは、一層深くして一層壯嚴なる興味<sup>を</sup>を此境に與へた。

註 casual footsteps 折々偶然にきこえる足音. evening service 夕べの祈禱. faint かすかな. response 僧の聲に答へて群衆の和する聲. choir 唱歌隊. paused 一時中止する. desertion 寂しさ. obscurity 暗さ. prevailing around 周圍にひるがる. solemn 嚴肅なる. interest 興味。

【譯】“何となれば静けき墓の中には話もなく、  
 喜ばしき友の歩みも、戀人の聲もなく、  
 慈悲深き父の戒もなく——何もきかれず、  
 何となれば有ゆる忘却と塵埃と、  
 果しなき闇の外何物もないからである”

註 counsel 忠告. 誠. nothing's は nothing is. oblivion 忘却, 即ち名も何も忘れられて聞えぬをいふ. dust は即ち棺骨をさす. endless 果しもなく. 以下 10頁 不足 (5枚)

# 欠



# 欠

## クリスマス

【譯】“でもあの氣のよいクリスマスといふお爺さんは既  
う逝つてしまつたのか？ あの頭の白髪と髭との外何  
も残つて居やしないのか？ まあそれでも可い紀念と  
云つては別れないのだから”。(クリスマスを追ふ聲)

昔はクリスマスになると云ふと、  
何んな家にだつて、  
寒さを凌ぐ温かい爐もあり、  
上下貴賤もたらふく喰へる肉がある。  
隣同志は親しく招き合ひ、  
よろづ眞心籠つた響應をする、  
俺達のこの古頭巾がまだ新しかつた昔は、  
乞食だつて門から嗷鳴りつけられるやうなこと

はなかつたものだ。 — 古歌  
① 何れに於て、治記入、本巻、再版、アッ

註 Christmas 毎年十二月廿五日の祭日であつて、耶蘇降誕の  
祝日である、此の日は盛大な響應を催し、又進物などの  
贈答をしたことは以下本篇に述べてある通りである。  
Hue and cry after Christmas クリスマスを追ふ聲。之はクリ  
スマスなるものを老人と見做してその昔クリスマス  
の盛大であつたこれを追慕したので、今はほんの一部  
の形式しか残つて居ないといふ意。 behold 見る。 curb  
止める、妨げる、凌ぐの意。 bid 招く。 great and small 上下  
貴賤もといふ意。 welcome true 眞實な響應、字の順序を  
轉倒して見るとよい。 chidden 嗷鳴つけられる。 when this  
old cap &c. 俺達の若い時分といふ意。

吐 不徳満！ 冥々裡 = 冥アラン

同感

同感



【譯】英國にあつて、余の想像の上に愉快な魔力を感ぜしめるのは前時代に行はれた祭日の習慣や田舎遊びの面影が、今でも猶残つて居ることである。此等は世間といふものを單に書物に依つて察し、世の中は凡て詩人が描いたやうなものばかりだと思つて居た青春時代の空想をば再び呼び起すのである；さうして此等は又上の場合と同様の誤解に依つて、現代よりも層一層一家團樂して睦しく楽しいものだと思はれる醇朴な古代の面影をも齎して來るのである。唯惜しのは、此等の風習が、次第に歲月のために衰へ、近世の流行のために滅びつゝ、日毎に痕跡もなくなつて行くことである。例へば各地方に廢頽して居るゴシック風の建築の美しい遺物が半ば年代を経たために荒れ果て、半ば後世の附加變動のために失せてしまつたことなどは皆然うである。然しながら詩歌は此等の田舎遊や祭禮の宴樂などから多くの題材を得ることがあるから此等を抱いて撫育鍾愛するのである。例へばかの常春藤がゴシック風の穹窿又は崩れかゝつた塔の周りに、そのうち茂つた簇葉を搦まし、その動搖する遺物をば互

にさも嬉しさうに抱きついて支へ合ひ、さうして恰も新緑の中にそれ等を薫らして置くにも似て居る。

註 exercise a more delightful .... 自分の想像の上に之より愉快な魔力を行ふことはない、これほど愉快に我が想像の上に影響を及ぼすことはない。lingering 残つて居るもの面影。picture 空想が描き出した光景。the May morning of life 人生の皐月の朝、青春時代といふ意。flavour 面影。those honest days of yore 醇朴な古代。with equal fallacy 同様の虚妄、上の場合と等しく間違つた考。home-bred 一家團樂。“青春時代には世の中をば立派な美しい所と誤想して居た。今英國の祝日の有様を見ると青春時代の空想を思ひ出させる。又英國の祝日を見ると古代の醇朴な處があるやうに思はれる。兎に角古代と云へば今日よりも餘程よいやうに吾人は思つて居る。或は此の考が間違つて居るのかも知れないが”といふ意。faint 消え失せる。worn away by time 歲月のために衰へる。obliterated by modern fashion 近世の流行のために滅びる。resemble 比す。pictureque morsels 美しい破片、遺物。architecture 建築物。crumbling 廢頽して居る。dilapidate 荒れ果てる。addition and alteration 附加變動、人工を加へて形を變へること。cling 絡みつく。cherishing fondness 撫育愛鍾。revel 宴樂。many of its themes その題材の多きを田園詩人などが恣ういふことから採つて來るのをいふ。ivy 常春藤。foliage 若き葉。arch 半圓形、穹窿。mouldering 崩れた。gratefully さも嬉しさうに。clasping together. 抱き合ふ。tottering remain 動搖する遺物。as it were 云はば、先づ。embalming them in verdure 新緑のうちに包んで若やかな香をさせる。



【譯】然しながら凡ゆる昔の祭禮の中で、クリスマスの祭禮は人をして最も強烈に最も痛切なる聯想を起させる。其處に吾人の宴樂と相混和する二種の嚴肅にして神聖な感念が籠つて居て、さうして人の心をして敬虔高雅な娛樂をば味はすのである。此の期節に行はれる寺の儀式などは實に優美でそゞろに人の心を動かすものである。此等の儀式は吾人の信仰心の源泉たる美しい物語や、その布教に伴ふ田園の光景などをば説くのである。降來節の間に次第次第に其の情熱を高め、遂に平和と慈悲とを人間に齎して來るクリスマスの佳辰の當日になるのである。余は大伽藍に於てクリスマスの讚美歌を施行する時の大唱歌や轟き渡るオルガンの音が凱歌のやうな曲調で、大建築物の隅々までも響き互るのを聞くほど音樂が人の道德的感念に偉大の感動を與へることを知らぬのである。

註 festival 祭禮. heartfelt 痛切な. 胸に泌み渡る. blend 混和する. conviviality 宴樂. lift 上げる, 高める. hallowed 神聖な. inspiring 人の心を動かす. the origin of our faith 信仰心の源泉, 聖書などに現はれた物語をさす. pastoral 田舎の. announcement 布教. 耶蘇教を天下に布告すること, 即ち耶蘇紀元. fervour and pathos 情熱. Advent 降來節. クリ

スマス前四度日曜を越す間の時. jubilee 佳辰. on the morning ... クリスマスの當日. grander effect 偉大な感動. choir 唱歌組. pealing 轟く. anthem 讚美歌. cathedral 大伽藍. vast pile 大建築物. triumphant harmony 凱歌の曲律.

【譯】又茲に古代から傳つて來た美しい規定がある、それは即ち平和と愛とを主唱する耶蘇の布告をば紀念する此の祭日を期して、或は親族を集め、浮世の喜怒哀樂が常に離散せしめて居る此等親身しんみの人々をば再び親睦せしめ：或は浮世の大海に乗り出で、離れ離れに漂つて居る一家の子供等と呼ばひ返し、もう一度集合所とも云ふべき父祖の爐邊ろへんに集めて、そこで再び幼時に親しんだ記念物の中に混つて、愛らしい稚いに立ちかへらすことである。

註 arrangement 規定. commemorate 紀念する. religion of peace and love 平和と愛との宗教. 耶蘇教. family connection 親族. band 一族. kindred heart 肉親. care and pleasure 苦勞と快樂. operating to cast loose 四散させること. launch forth 海に乗り出す. asunder 離れ離れに. assemble 集める. paternal hearth 父祖の爐邊. endearing mementos 親しんだ記念物

【譯】時節その物にも亦何となくクリスマスの祭禮に一種の美を與へるものがある。他の時節では吾人は自然界の美から吾人の快樂の大部分を取つて居る。吾人の感情は常に外に馳せ日光の照る山河の景色に散り、さうして吾人は



所謂“外界に住んで到る處に行く”のである。鳥の歌、流れの響、春の薫しい匂、夏の軟かな樂さ、秋の黄金色なる美しさ：或は新緑の衣に包まれた地、心地よ**い**ばかり遙かに青く且雲の峯が聳え立つて居る空、此等は凡べて口には漏らさぬ著**い**じい樂しさをば吾人の胸に充たし、さうして吾人は一向肉感の快樂に耽るのである。然しながら冬の眞中になると、自然界は悉くその美を奪はれ、敷つめた雪の壽衣きやうかたびらに纏はれるので吾人は道德的根源に吾人の満足を得ようとするに至るのである。山河の荒れ果て、淋しいことや、陰氣臭い短い晝や、眞暗な夜などは、一方には吾人の逍遙を制限すると共に、一方には外に徨ふといふ吾人の心をも壓迫して、さうして吾人をして一層痛切に團樂の快樂をば欲するやうにさせるのである。吾人の思想はこれが爲に皆々集中され、吾人の友情は愈々惹起されるのである。吾人は互に相集るといふ興味をば一層痛切實に感じ、さうして互に相依頼して快樂を得るがために一層親密になつて來るのである。肝膽相照らし、さうして吾人は吾人の胸の靜かな奥底に潜んで居る深い親愛の泉

から吾人の快樂を汲み來るのである、而もこの泉こそ、何時でも行つて求めさへすれば、家庭の幸福といふ清い流れを與へるのである。

註 the very season of the year 一年の中でもこの時節こそ、クリスマスクリスマスの時節。festivity 祭禮。derive 引出す、得る。sally forth 外に飛び出す。dissipate 散らす。live abroad …… 廣く外に住んで何處へでも行く、家の内に引き込んで考へ込むやうなことの無いこと。murmur 水のさばさは云ふ音。breathing fragrance 芬々と匂ふ薫。voluptuousness 逸樂。pomp 華麗。mantle 外套。delicious 心地のよい。magnificence 壯大。mute 無口。exquisite 著しい。revel 耽ける。luxury 快樂。despoil 奪ふ。wrapped 纏ふ。shroud 壽衣きやうかたびら。sheeted 敷いた。gratification 満足。moral sower 道德的根源、人間に關係した源泉、天然界に對して云つたのである。dreariness 倦びしいこと。desolation 荒れ果てゝ居ること。darksome 眞暗な。circumscribe 制限する。rambling abroad 外を徨ふ。keenly 痛切に。dispose 欲する。social circle 社交界。concentrate 集中する、氣が散らぬ。arouse 起る。heart calleth unto heart 肝膽相照らす。lovingkindness 親切にすること。recesses 奥底。when resorted to 何時でも行つて求むるならば。furnish forth 與へる。pure element 清い要素。domestic felicity 家庭の幸福。

【譯】墨のやうな闇の夜に外から歸つて、夕の火の光と温とが漲つて居る室に入ると、胸ものびのびするやうな心地になる。赤い火焰は室内を通じて人工の夏の色と日の光をば散らし、さうして人々の顔をば日頃より一層親切な款待の



色に照り輝かして居る。平常のつゝましげな  
 接待振が遠慮會釋もない親切な笑顔に打くつ  
 ろぎ平常の臆し勝な癖の一瞥がさも楽しげに  
 眼に物を言ふやうになること冬の爐邊に優る  
 もの何處にあらうぞ？ 斯くて冬の空つ風が室  
 の中へ吹き込み、彼方の扉をうち叩き、窓のほと  
 りに嘯き、さうして煙突をば揺り鳴らす時、平然  
 と心地のよい室に座して、一家談笑の光景を見  
 廻すその落着のある安心な心持よりも有り難  
 いものが他にあらうか？

註 pitchy チヤンのやうな、真黒の。 dilate 擴める、氣がの  
 びのびする。 glow 光。 ruddy 赤い。 blaze 火焔。 diffuse 散ら  
 す。 artificial summer 人工の夏、夏のやうな氣持のすること。  
 countenance 顔、容貌。 honest face 真面目な顔。 hospitality  
 接待。 expand 擴がる、うちくつろぐ。 broader 明らさまな  
 遠慮のない。 cordial 親切な。 shy 臆病な。 glance ちらと見  
 ること。 eloquent 雄辯なるとは強い感情を吐露する意、  
 俗に眼で物をいふこと。 hollow blast 空つ風。 rush through  
 吹き込む。 clap はたと打つ。 distant door 遠くにある扉。  
 casement 窓障子。 rumble 鳴動する。 chimney 煙突。  
 grateful 有り難い。 sober and sheltered security 落ち着いて家  
 の中に籠つて居るので何となく安心な心持。 comforta-  
 ble chamber 心地のよい室。 hilarity 歡樂。

【譯】元來英國人は、凡ゆる階級を通じて田園の風  
 習に耽けることが流行るので、常に田園生活の

目  
 会  
 フ  
 タ  
 ガ  
 命  
 ノ  
 頼  
 だ  
 九  
 だ  
 井  
 何  
 デ  
 邊  
 三

静けさを亂すな此等の祭禮や休日を好んだ、  
 殊に往時はクリスマスといふ宗教上及社交上  
 の儀式に意を注いだ。世の故實家が此の祭禮  
 を行ふ奇妙な氣質や、道化た山車や又は氣儘な  
 娛樂や友情に就いて書いたところの無味乾燥  
 な記事でも讀めば猶ほ人の心を動かすもので  
 ある。何れの門戸をも開放し、何れも胸襟をう  
 ち開いて居たものと見える。農夫も貴族も共  
 に集め來つて、凡ゆる階級の人士をば悅樂と親  
 切といふ一つの暖かい寛かな流れに混和させ  
 るのである。諸侯の居城や又は田宅の古びた  
 廣間には琴の音とクリスマスの歌とが響き、そ  
 の廣い食卓は御馳走の重みで呻いで居る。ど  
 んな荒屋でも緑の月桂樹と扛谷樹とを飾つて、  
 この佳節を迎へるのである；心地よい爐火は  
 格子窓からその光を漏らして、旅客の鑿を外す  
 のに任せ、浮世話をして居る連中をば爐邊に呼  
 び集め、昔から傳つて居る滑稽話と毎々繰り返  
 されるクリスマス物語とで長夜の思もまぎれ  
 てしまふのである。

註 prevalence 流行。 agreeably 楽しく。 interrupt 亂す。 observant  
 注意する。 rite 儀式。 inspiring 心を動かす。 dry detail 無味  
 乾燥な記事。 antiquary 故實家、好古家。 quaint 奇妙な。



humours 氣分. burlesque 道化た. pageants 山車. abandonment 氣儘. mirth 娛樂. good fellowship 友情. celebrate 祭を行ふ. unlock 鎖さぬ. peer 貴族. blend 混する. hall 廣間. manor-house 諸侯の田宅. carol 祝歌. ample 廣い. board 食卓. hospitality 馳走. bay 月桂樹. holly 紅谷樹. lattice 格子. latch 鎖. gossip knot 空談をする仲間. huddle 集める. hearth 爐邊. beguiling まぎらす. legendary 昔から云ひ傳への. oft-told 屢々繰り返へして話された.

【譯】唯最も面白くないと思はるゝことは、近頃風流といふことを重ずる結果眞心の籠つた昔の祭禮の習慣に大打撃を與へたことである。それ故此等人生の裝飾物に附隨して居た痛切な生氣のある慰藉は全く取り去られ、社會は昔に較らべて一層圓滿に、一層修整され、而も唯極めて特質のない表面的のものとなつてしまつた。クリスマスに行はれる遊戯や儀式の大部分は全く消滅して、昔のホオルスタスのシエリイ酒のやうに徒に註釋者の研究や爭論の材料となつて居る。此等の儀式は活氣に充ち元氣に富んだ時代に盛んであつたので、此の時代の人粗野な生活をして居たとは云へ、眞心があつて雄々しかつた。即ち此の時代には狂熱があり色彩があつて、詩歌に幾多の豊富な材料を與へ戲曲に多種の興味ある人物と風習とを供した

のである。世は益々世間的になつて來た。放埒になればなる程幸福は愈々減じて來た。快樂の流はその廣さは擴つては居るが、深さは愈々淺くなつて來た；家庭生活の靜かな中心に清けく流れて居た深い靜かな此等の溝の大部分は涸れてしまつた。社會は一層文明雅致の色を帯びて來たとは云へ、その確乎たる地方的特質、その家庭的感情、その率直な爐邊の快樂は大方失せてしまつた。その優雅な古代の舊習慣、その封建的款待、その立派な酒宴などは此等が行はれた貴族の居城や田宅と共に過ぎ去つてしまつた。此等は蔭深き廣間や、大き櫺の廻廊や毛氈を飾つた客間に適するもので、近代の別荘などの浮華な大廣間や華美な客間などには不適當である。

註 the least pleasing effect 最も面白くない結果. refinement 風流. havoc 打ち毀し. 打撃. sharp touching 感じの強い. 痛切な. spirited reliefs 生々した慰藉. embellishments of life 人生の裝飾物. 古代に行はれた習慣をいふ. polish 練磨する. 修整する. less a characteristic 特質のない. ceremonial 儀式. disappear 消滅する. sherris sack シエリイ酒. 西班牙の南部地方に産する酒. Falstaff 沙翁の戯曲中の人物で“メリワイブス”や“ヘンリイ四世”等に出て居る. 臆病で肉慾的であるけれども大の滑稽家であるこの人物はヘンリイ四世の下篇、第四幕目の三段、百〇四行



目に此のシェリイ酒に就いて、大に議論をして居る、この議論に就ては註釋家の間に種々異論があるので、著者アーヴィング氏は茲に引いて來たのである。speculation 研究。dispute 争論。commentator 註釋者。flourish 榮える。spirit 活氣。lustihood 壯健。元氣。vigorously 雄々しく。attractive 興味ある。character 人物。dissipation 放埒。broader 廣さ。廣く行はれるけれども極めて浮薄だといふ意。shallow 淺い。foresaken 見棄てる。channel 溝。acquire 得る。enlighten 開ける。elegant 風雅な。local peculiarities 地方的特質。home-bred 家庭の。traditionary 因襲的、傳來の。golden hearted 優雅な。antiquity 古代の。feudal hospitality 封建的款待。封建時代では客をば非常に厚遇したものである。lordly wassailing 立派な酒宴。baronial 男爵の、貴族の。celebrate 行ふ。comport 適する。gallery 廻廊。tapestry 毛氈で飾つた。parlour 客間。showy 浮華な。saloon 大廣間。gay 華美な。drawing-room 客室。villa 別荘。

【譯】然しながら斯様にその古代の祭禮の面目を損じたとは云へ、クリスマスは英國にあつては猶ほ興味津々たる時代にあるのである。誠に喜ばしきは英國人の胸に何れも其大部分を占有して居る家庭的感情が大に勃興するのを見るところである。かの友人や親戚をば再び結合させる親睦會に就ての萬づの準備；尊敬の記號にして好意の推獎者たる御馳走贈答；平和と喜悅との表章として住家又は寺院の邊りに配置された常盤樹；此等は凡て愉快な親交を結

ばしめ、深い慈悲の心を動かすことに於て最も喜ばしいものである。樂隊の響さへよしその歌曲は極て粗野であつても、好調を奏で、冬の夜の寂寞を破るのである。余は曾て所謂“深い眠が人間の上に落ちた”靜かに物すごい頃此等の音樂に目を醒まされた時、默然として打喜んで耳を傾けた、さうしていつしか此の聖くも喜しき時節を聯想して、此の音樂をば平和と慈愛とを人間に告げ渡す天上の妙樂ではないかと思つた。

註 shorn 剪み切る。shear の過去分詞。as it is 斯くの如く。period 時代。delightful excitement 興味が湧くやうな。gratifying 喜ばしい。social board 親睦會。unite 結びつける。presents 贈物。good cheer 料理、馳走。passing and repassing 贈答。token 記號。regard 尊敬。quickeners 推獎者。evergreen 常盤樹。distribute 配置する。撤く。emblems 表章。producing 生ずる。association 親睦。kindling 動かす。benevolent 慈愛の。Waits クリスマスの日未明に流して行く音樂。rude 粗野。minstrelsy 歌曲。midwatch 番兵が見張をして居るやうな頃。hushed delight 默然たる喜悅。celestial 天上の。choir 唱樂隊。

【譯】斯様に倫理的感化を被つて居る時は、人の想像力は一切の事物をして諧調をなし美彩を呈せしむるとはげに喜ばしいことよ！村人どもが寝しづまつた眞夜中に、“羽毛の生えた奥様



達に夜の見張を告げる” 牡鶏の聲を屢々聞いてさへ、賤しい民どもは此の聲がその有難い祭禮の來たことを告げるものだと思ふのである。

註 crowing of the cock 牡鶏の啼く聲. repose 休息. telling the nightwatches ミルトンの詩句である. feathery dame 羽毛の生えた奥様、雌鶏を意味する。

【譯】 “誰かゞ云ふやうには、我等の救世主の誕生

日が祝はれる時節ともなつたので、  
 曉告ぐる鶏が夜もすがら啼くと；  
 又恁う云つて居る、幽霊などは一つも出ず；  
 夜はいつも穩かに：星も落ちず、  
 魔もさゝず、巫女も迷はず力もなく、

げに聖きよけくげに有り難いのはこの時だと”

註 Saviour 救世主. celebrate 讃する. dawning 曉. spirit 幽霊. stir abroad 出で來る. wholesome 健全. 穩かに. planet 星. fairy 魔. witch 巫女. hallowed 神聖なる. gracious 有り難い。

【譯】 萬民幸福を呼び、心氣興奮し、情愛躍動する此の時期に如何に胸が感動を受けずして居ることが出来やうぞ？ げに此の時節は感情を一新するの時である、單に廣間に饗應の火をかき起すのみならず、又人の心に慈善の快焰をかき起す時である。

註 bustle of the spirit 心氣の興奮. stir of the affection 愛情の躍動. prevail 勢力を得る. regenerate 一新する. kindling 火をともし. genial 快い. charity 慈善。

【譯】 青春時代の戀の舞臺は荒み果てた老の胸にも再び鮮かに呼び起され、家庭的和樂の薫に満ちた家庭的觀念は垂れがちの精神を鼓舞するのである；例へばアラビヤの風が屢々遠い野原の清香をば沙漠の中の疲れた巡禮に送るやうに。

註 scene 舞臺. early love 青春時代. sterile 荒んだ. fraught 満々たる. reanimate 鼓舞する. drooping 垂れがちな. breeze 風. weary 疲れた. pilgrim 巡禮。

【譯】 此の英國にあつては余は全く異邦の人であつて寄寓の客に過ぎないので、余のためには何等社交的情火も燃えず、懇切な家もその扉を開いて呉れず、又暖かい友人の手も戸口に余をば迎へては呉れない、とは云へ余は此の時節の影響を蒙り周囲の人々の楽しさうな容貌が余の胸底を照らすを覺ゆるのである；げに幸福は天の光と同じく、反射的のものである；さうして微笑に輝き無邪氣な娛しさに熱して居る人々の顔は永久に照る至高の慈悲の光をば他の人々に傳へる鏡である。彼の同胞の幸福をも思はずして、かたくなにも面をそむけ、又周囲が悉く愉快なる時に當つて、自ら獨居して鬱ぎ込んで徒らにつぶやいて居るやうな人物は猛烈



な激動と利己的満足を得る時はあつても、楽しいクリスマスの美の根柢となつて居る爽かな親しい同情の念を缺いて居るのである。

註 sojourner 寄寓の人. blaze 燃ゆる. hospitable 懇な. grasp 手を握ること. threshold 戸口. reflective 反射的. glowing 熱する. innocent 無邪氣な. mirror 鏡. transmitting 傳へる ray 光. supreme 至高の. benevolence 慈情. churlishly かたくなにも. contemplating 沈思する. felicity 幸福. fellow-being 同胞. repining つぶやく. genial 懇切な. constitute 構成する, 根柢となる.

—— 上卷終 ——

7/1 34  
482 393

發行所

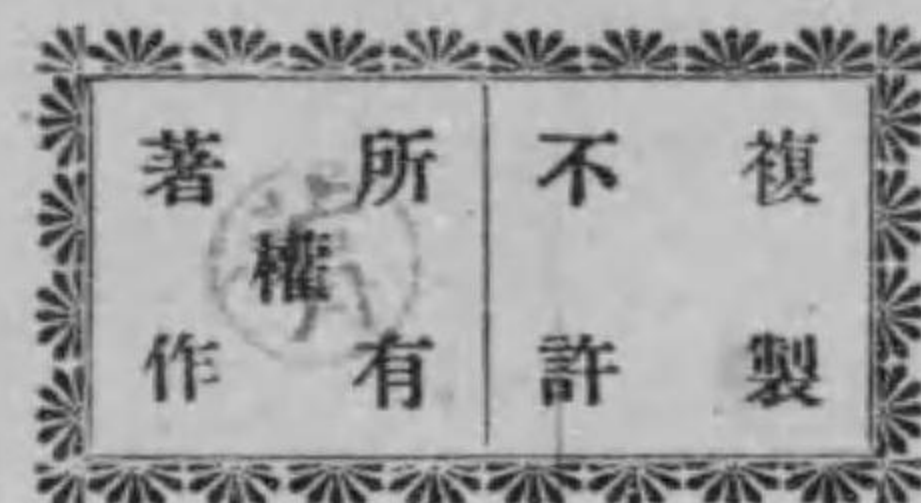
振替東京一九二三番  
東京神田南神保町

日

進

堂

【電話本局一四二五番】



大正三年一月五日發行  
大正二年十二月廿日印刷

印刷者

荻原勝次郎  
東京市小石川區久堅町百〇八番地

發行者

鶴岡五郎  
東京市神田區南神保町拾四番地

著者

若月保治

正價金壹圓

スケッチ・ブック講義上卷

(印刷所 博文館印刷所)  
(東京市小石川區久堅町百〇八番地)



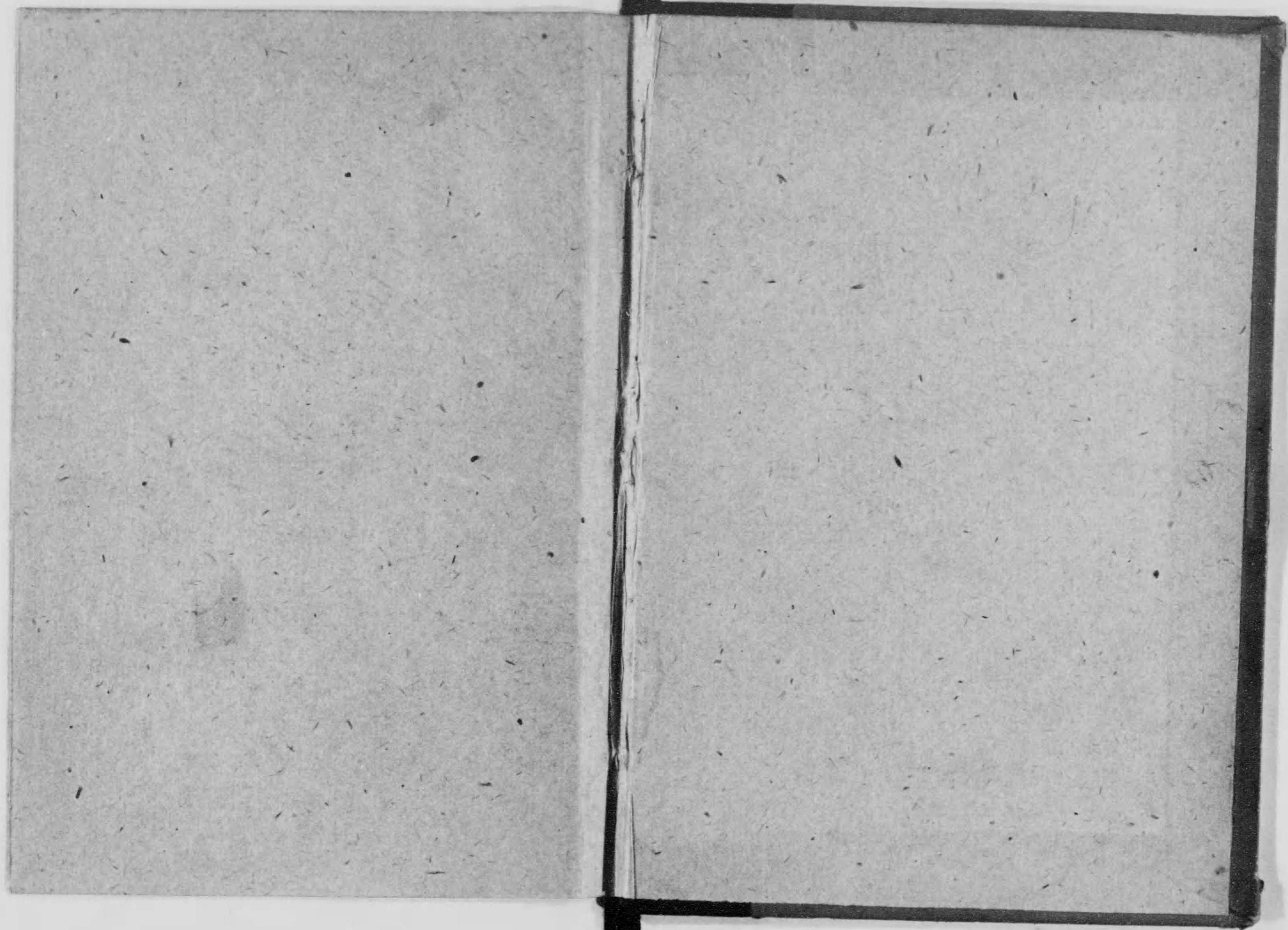
23543

11

2721

11







934  
I676  
ウ

事故本  
欠頁 5.6.9~28.77~92  
95~108.117~118.131.132  
167~182.271~272.305~311  
417~426  
書き込み多数  
'97.1.24

終